

第42回 河内長野市民意識調査

＜もり 森林づくり＞と ＜人権＞について



平成27年度
河内長野市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	1
II. 回答者の属性	2
1. 性別（問 33）	2
2. 年齢（問 34）	2
3. 家族構成（問 35）	3
4. 結婚（問 36）	3
5. 職業（問 37）	4
6. 居住年数（問 38）	4
7. 前居住地（問 39）	5
8. 居住地区（問 40）	5
III. 調査結果の分析	7
1. 森林づくりについて	7
(1) 森林へ行った目的について	7
(2) 森林の機能について	9
(3) 森林づくり活動への参加について	12
(4) 森林の維持について	21
2. 人権問題について	27
(1) 人権問題全般について	27
(2) 人権問題についての学習経験について	33
(3) 人権問題についての考え	38
(4) さまざまな人権問題について	47
(5) 同和問題について	66
(6) 人権侵害について	70
3. 市政全般について	73
(1) 満足度	73
(2) 重要度	85
(3) まちづくりの活動への参加状況	90
(4) 河内長野市に関する意識	91
IV. まとめ	94
1. 森林づくりについて	94
2. 人権問題について	95
3. 市政全般について	97
4. 経年比較	98
(1) 満足度	98
(2) 重要度	100
V. 資料（調査票）	102

I. 調査の概要

1. 調査の目的

＜森林づくり＞と＜人権＞について、それぞれに対する市民意識を把握し、今後の施策推進のための参考資料とする。

2. 調査の設計

(1) 調査対象

住民基本台帳（基準日：平成 27 年 6 月 30 日）から無作為に抽出した満 20 歳以上 90 歳未満の市民 2,000 人

(2) 調査方法

郵送による配布及び回収

(3) 調査期間

平成 27 年 7 月 24 日から 8 月 7 日

(4) 調査内容

- 森林づくりについて
- 人権問題について
- 市政全般について

3. 回収状況

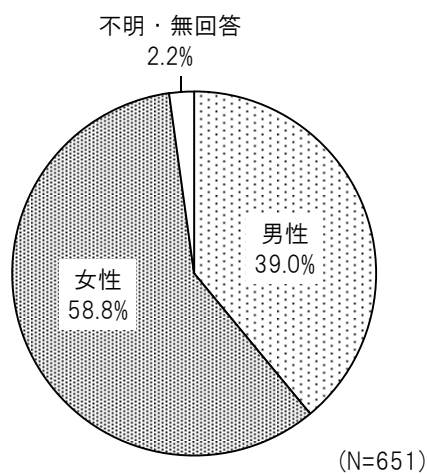
配付数	回収数		有効回収数			有効回答率
2,000 票	651 票		651 票			32.6%
		うち無効票	男性	女性	不明	
		0 票	254 票 39.0%	383 票 58.8%	14 票 2.2%	

4. 報告書の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の不明・無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（%）を表している。1 人の対象者に複数の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は 100.0%を超える。
- (2) 百分比（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 分類別の表中の百分率（%）は、すべて各分類項目の該当対象数を 100.0%として算出した。
- (4) 図表にある「N」は、集計対象票数（あるいは、分類別の該当対象数）を示し、比率は「N」を 100.0%として表した。
- (5) クロス集計の表内の「全体」には、性別不明、年齢不明、地域不明も含む。
- (6) 表の単位は、2 段の場合、上段が実数、下段が構成比（%）、1 段の場合、構成比（%）である。
- (7) 本調査の『1. 森林づくりについて』では、平成 18 年度に実施した市民意識調査との比較を行っている。
『2. 人権問題について』では、平成 19 年度に実施した市民意識調査、大阪府が平成 22 年度に実施した「人権問題に関する府民意識調査」、内閣府が平成 24 年度に実施した「人権擁護に関する世論調査」との比較を行っている。

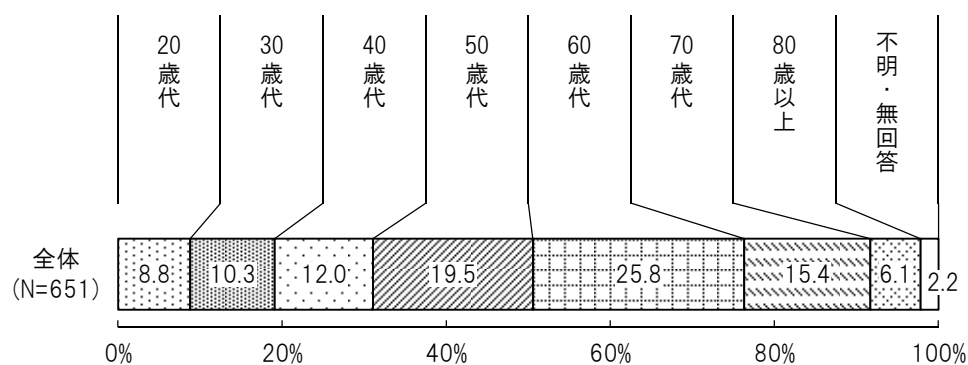
Ⅱ. 回答者の属性

1. 性別（問 33）



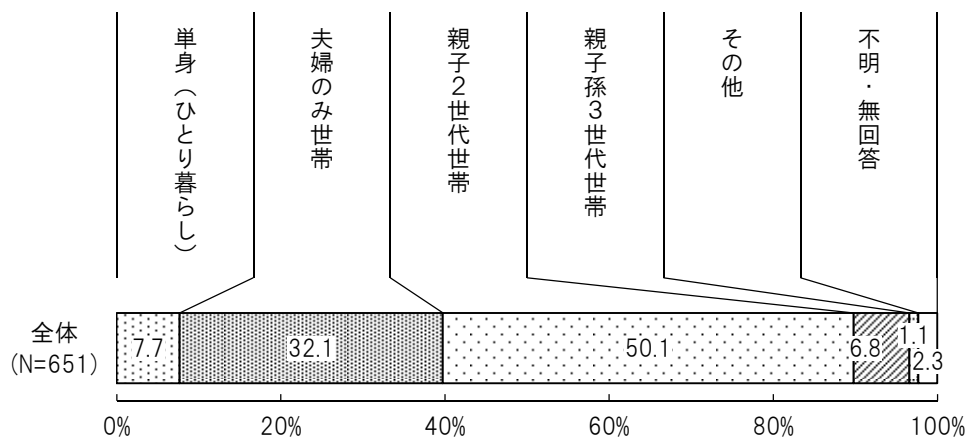
回答者の性別は、「男性」が 39.0%、「女性」が 58.8%で、女性の方が 19.8 ポイント多い。

2. 年齢（問 34）



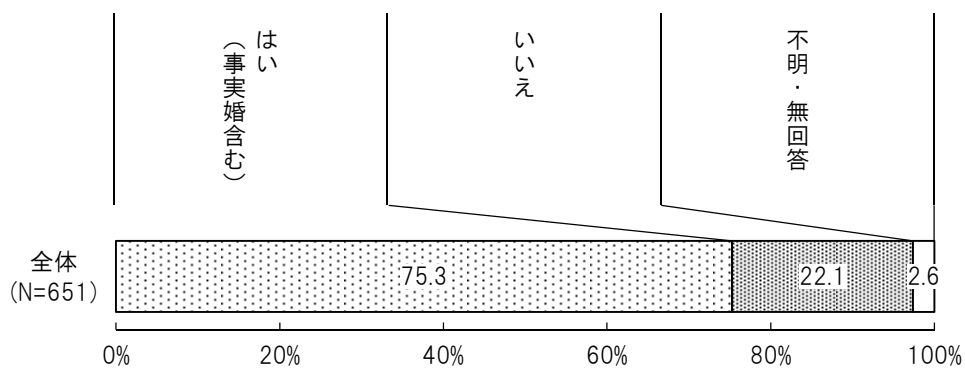
年齢は、「60 歳代」が 25.8%、「50 歳代」が 19.5%、「70 歳代」が 15.4%を占めており、60 歳以上の年代が全体の半数近くを占めている。

3. 家族構成（問 35）



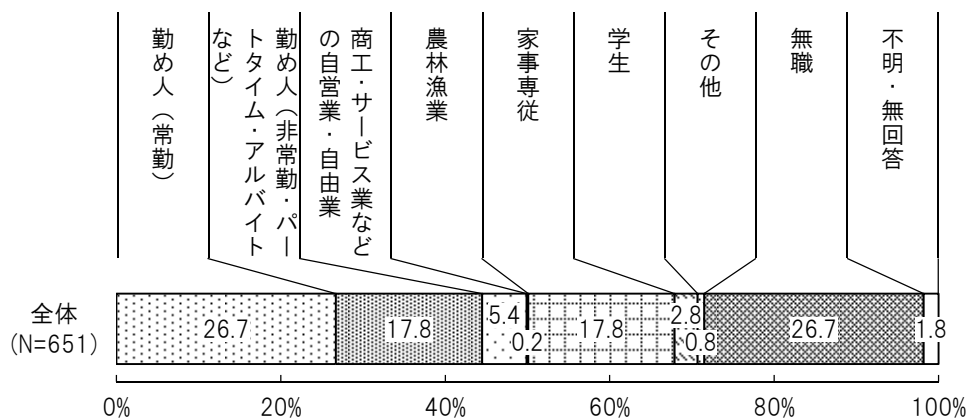
家族構成は、「親子2世代世帯」が50.1%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が32.1%、「単身（ひとり暮らし）」が7.7%、「親子孫3世代世帯」が6.8%となっている。

4. 結婚（問 36）



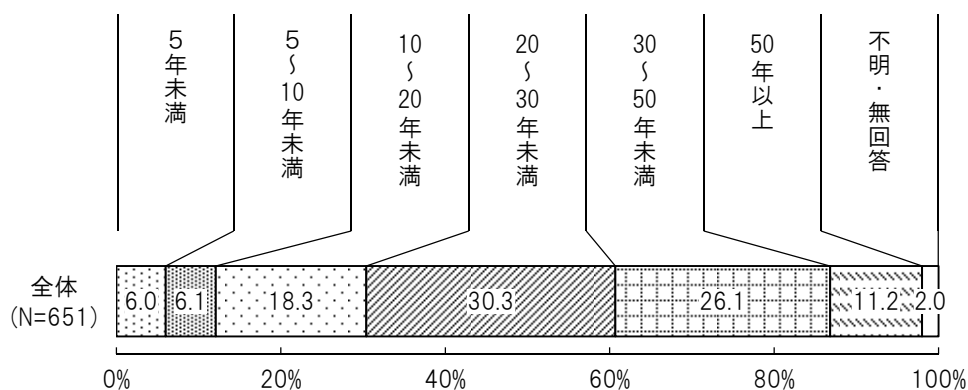
現在の婚姻状況については、「はい(婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係にある場合も含む)」が75.3%、「いいえ」が22.1%となっている。

5. 職業（問 37）



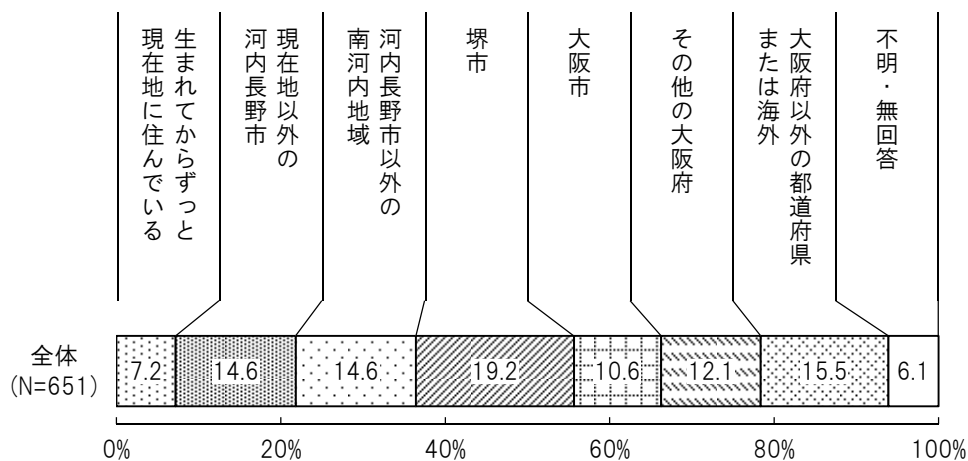
職業は、「勤め人（常勤）」と「無職」がともに 26.7% で最も多く、これに次いで「勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイトなど）」と「家事専従」が 17.8% となっている。

6. 居住年数（問 38）



河内長野市での通算居住年数は、「20～30 年未満」が 30.3% で最も多く、次いで「30～50 年未満」が 26.1%、「10～20 年未満」が 18.3%、「50 年以上」が 11.2% となっており、10 年以上の長期居住者が 8 割を超えている。

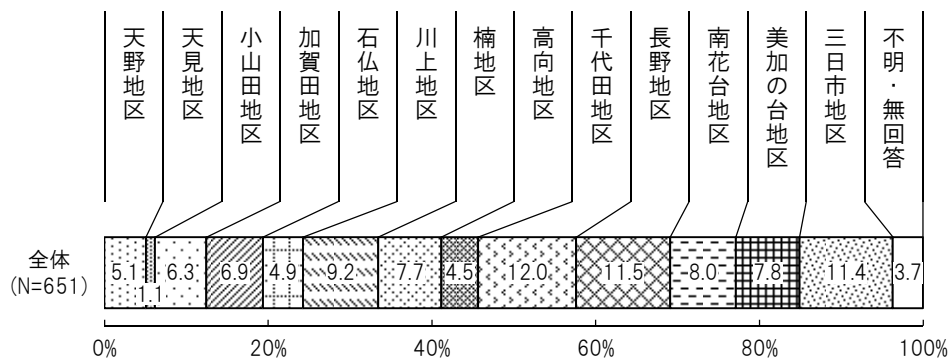
7. 前居住地（問 39）



以前の居住地は、「堺市」が 19.2% で最も多く、次いで「大阪府以外の都道府県または海外」が 15.5%、「現在地以外の河内長野市」と「河内長野市以外の南河内地域（富田林市・大阪狭山市・羽曳野市・藤井寺市・松原市・河南町・太子町・千早赤阪村）」がともに 14.6%、「生まれてからずっと現在地に住んでいる」については 7.2% となっている。

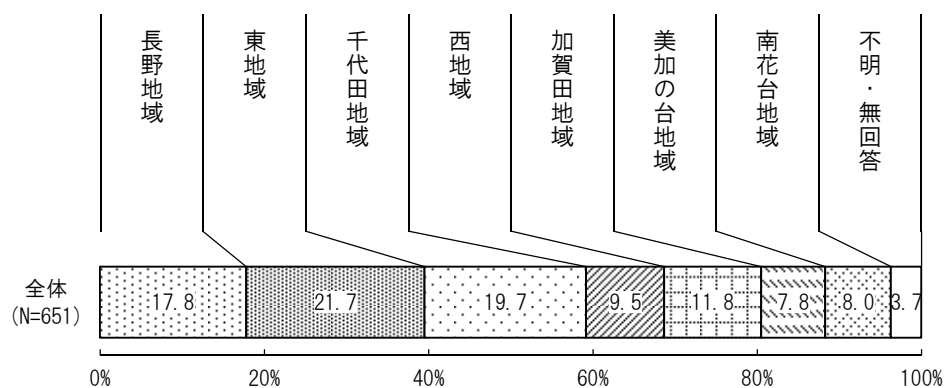
8. 居住地区（問 40）

【地区別】



居住地区は、「千代田地区」（12.0%）、「長野地区」（11.5%）、「三日市地区」（11.4%）が、1 割を超えている。

【地域別】

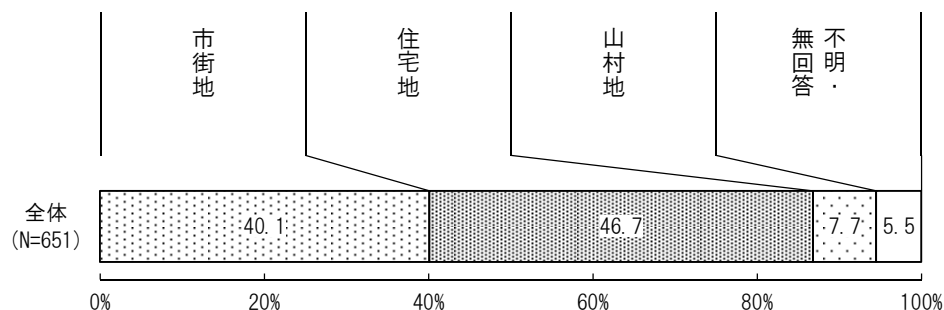


【地域の分類】

- | | |
|--------|-------------------|
| 長野地域 | — 小山田地区、長野地区 |
| 東地域 | — 天見地区、川上地区、三日市地区 |
| 千代田地域 | — 楠地区、千代田地区 |
| 西地域 | — 天野地区、高向地区 |
| 加賀田地域 | — 加賀田地区、石仏地区 |
| 美加の台地域 | — 美加の台地区 |
| 南花台地域 | — 南花台地区 |

中学校区を基本として7地域に分類したところ、「東地域」が21.7%で最も多く、次いで「千代田地域」が19.7%、「長野地域」が17.8%となっている。

【地域3分類別】



【地域の分類】

- | | |
|-----|---|
| 市街地 | — 楠地区、千代田地区、長野地区、三日市地区（上田町、小塩町、中・西・東片添町、喜多町、三日市町） |
| 住宅地 | — 天野地区（緑ヶ丘北・中・南町）、小山田地区、加賀田地区、石仏地区、川上地区（清見台1～5丁目、大師町、日東町）、南花台地区、美加の台地区、三日市地区（楠ヶ丘） |
| 山村地 | — 天野地区（天野町、下里町）、天見地区、川上地区（石見川、太井、神ガ丘、河合寺、小深、寺元、鳩原）、高向地区 |

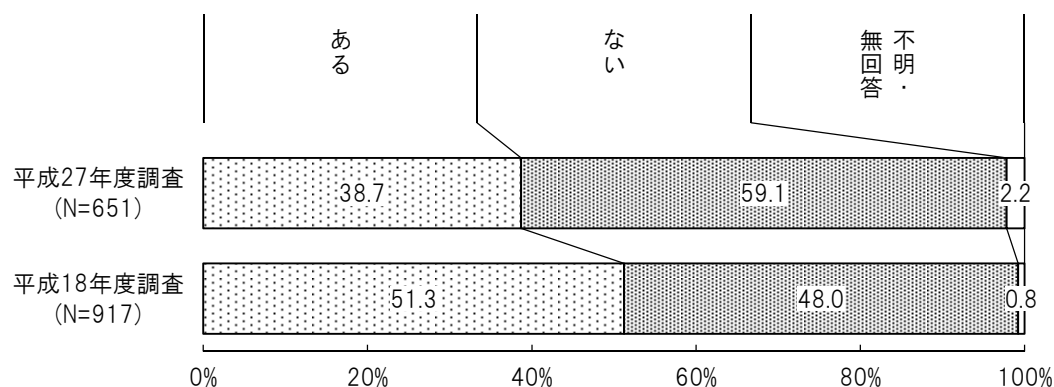
森林づくりに関する質問について分析を行うために、市街地・住宅地・山村地の3地域に分類したところ、「住宅地」が46.7%、「市街地」が40.1%、「山村地」が7.7%となっている。

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 森林^{もり}づくりについて

(1) 森林へ行った目的について

問1 あなたは、この1年間に市内の山（森林）へ行かれたことがありますか。（○は1つ）

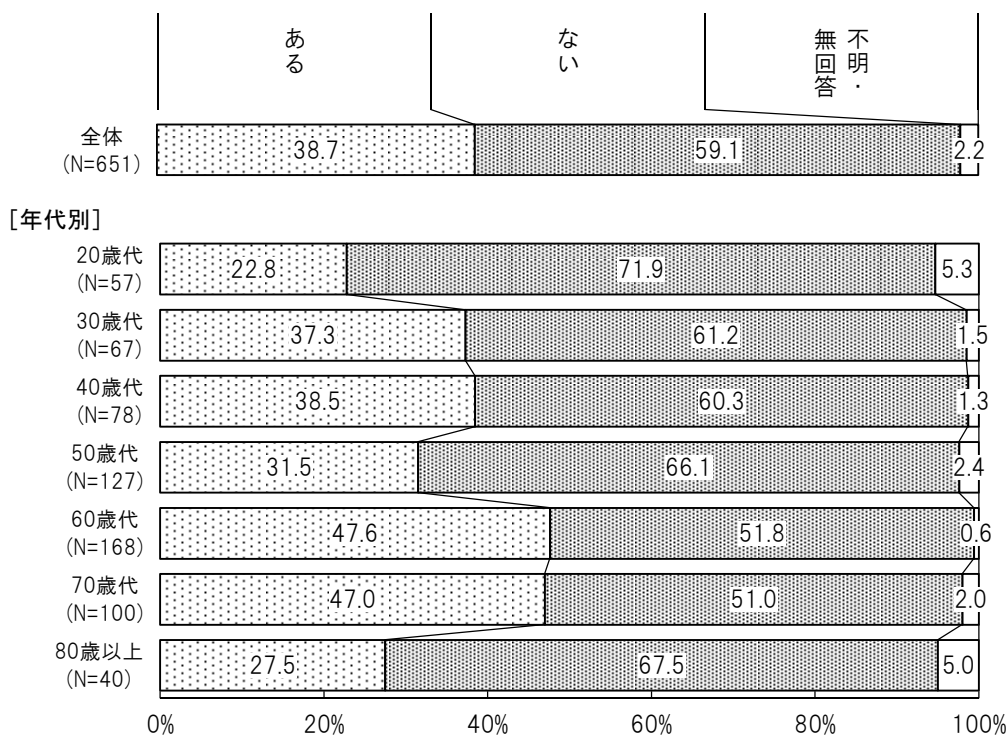


市内の山（森林）に行ったことがある人は38.7%、行ったことがない人は59.1%となっている。

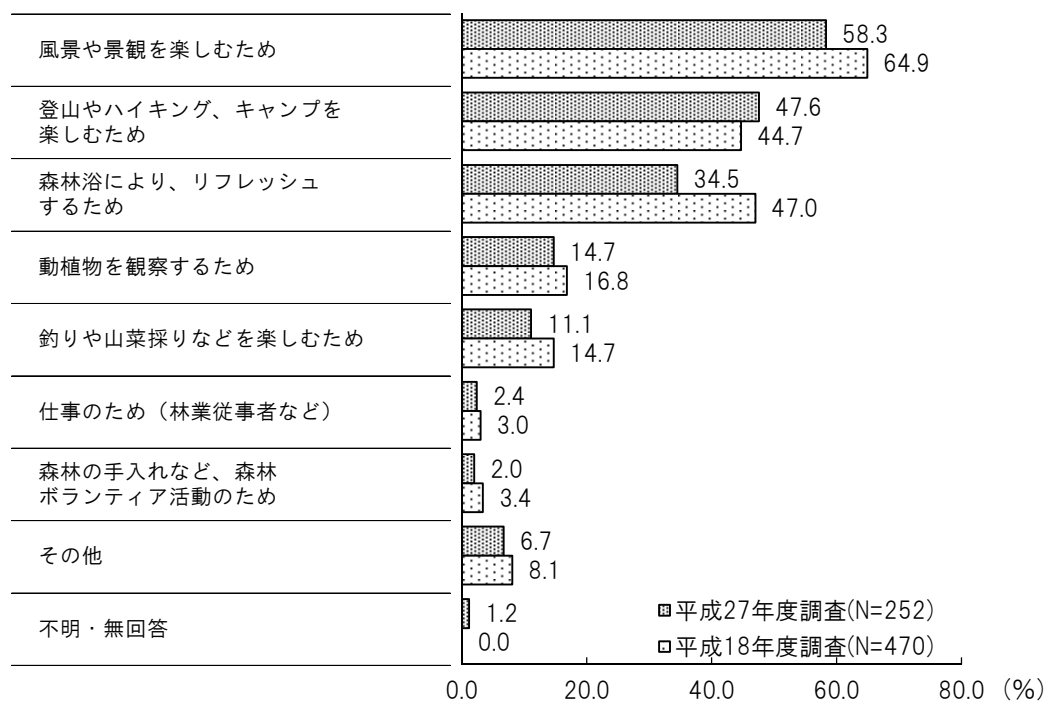
前回調査（平成18年度）と比較すると、前回調査では行ったことがある人が51.3%と半数を超えていたが、今回調査では行ったことがない人が多数を占めている。

■ 年代別

年代別にみると、いずれの年代でも行ったことがない人が5割を超え、なかでも20歳代（71.9%）、80歳以上（67.5%）で多くなっている。60歳代と70歳代では、行ったことがある人が5割弱と比較的多くなっている。



問2 どのような目的で行かれましたか。(〇はいくつでも)

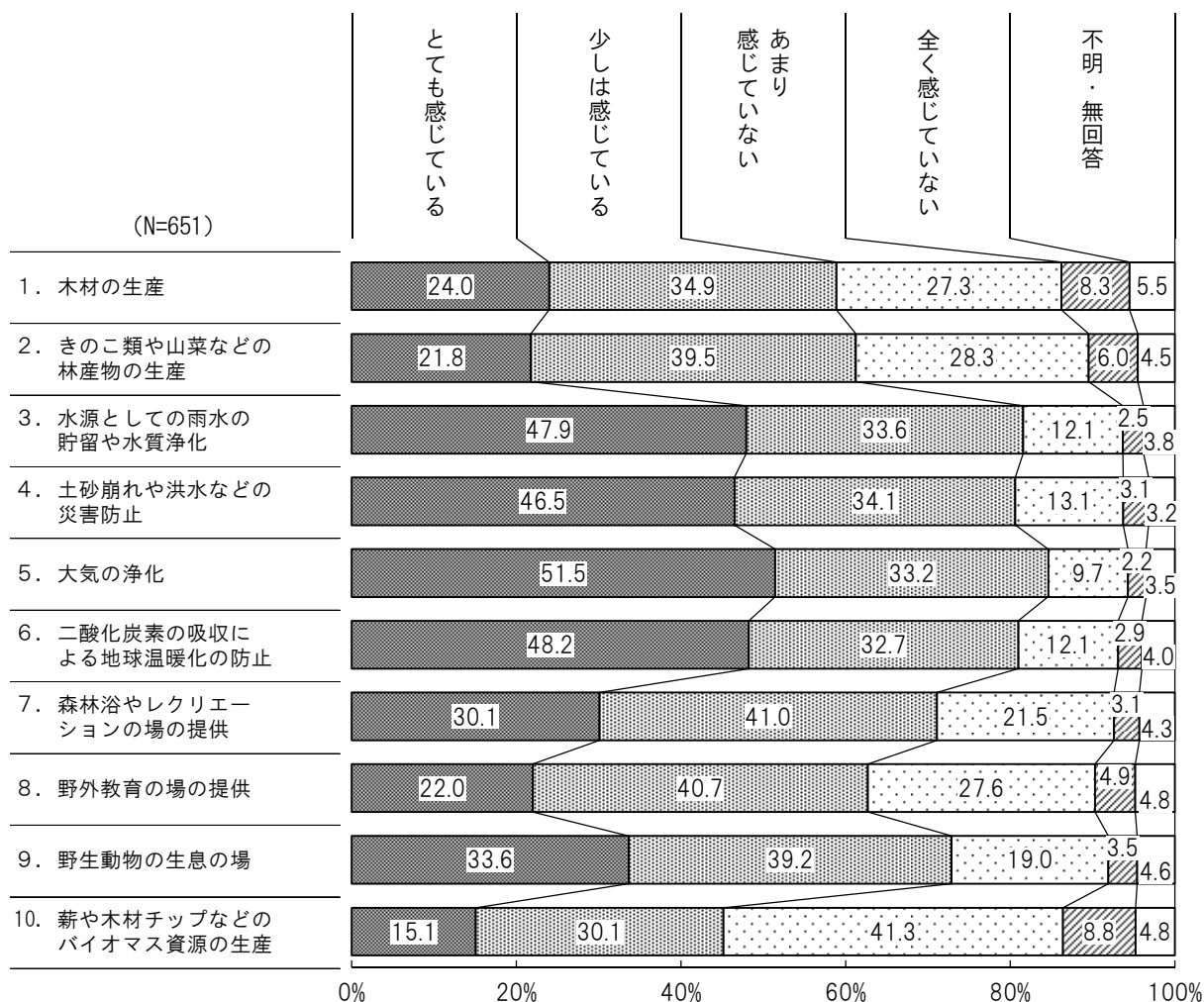


山（森林）に行く目的は、「風景や景観を楽しむため」が 58.3%で最も多く、次いで「登山やハイキング、キャンプを楽しむため」（47.6%）、「森林浴により、リフレッシュするため」（34.5%）の順となっている。

前回調査（平成 18 年度）と比較すると、「登山やハイキング、キャンプを楽しむため」は今回調査が 2.9 ポイント多くなっているが、それ以外の項目ではいずれも前回調査より少なくなっており、「森林浴により、リフレッシュするため」では 12.5 ポイント、「風景や景観を楽しむため」では 6.6 ポイントの差がみられる。

(2) 森林の機能について

問3 あなたは日常の生活において、森林から受ける恩恵をどのくらい実感されていますか。(〇はそれぞれ1つ)



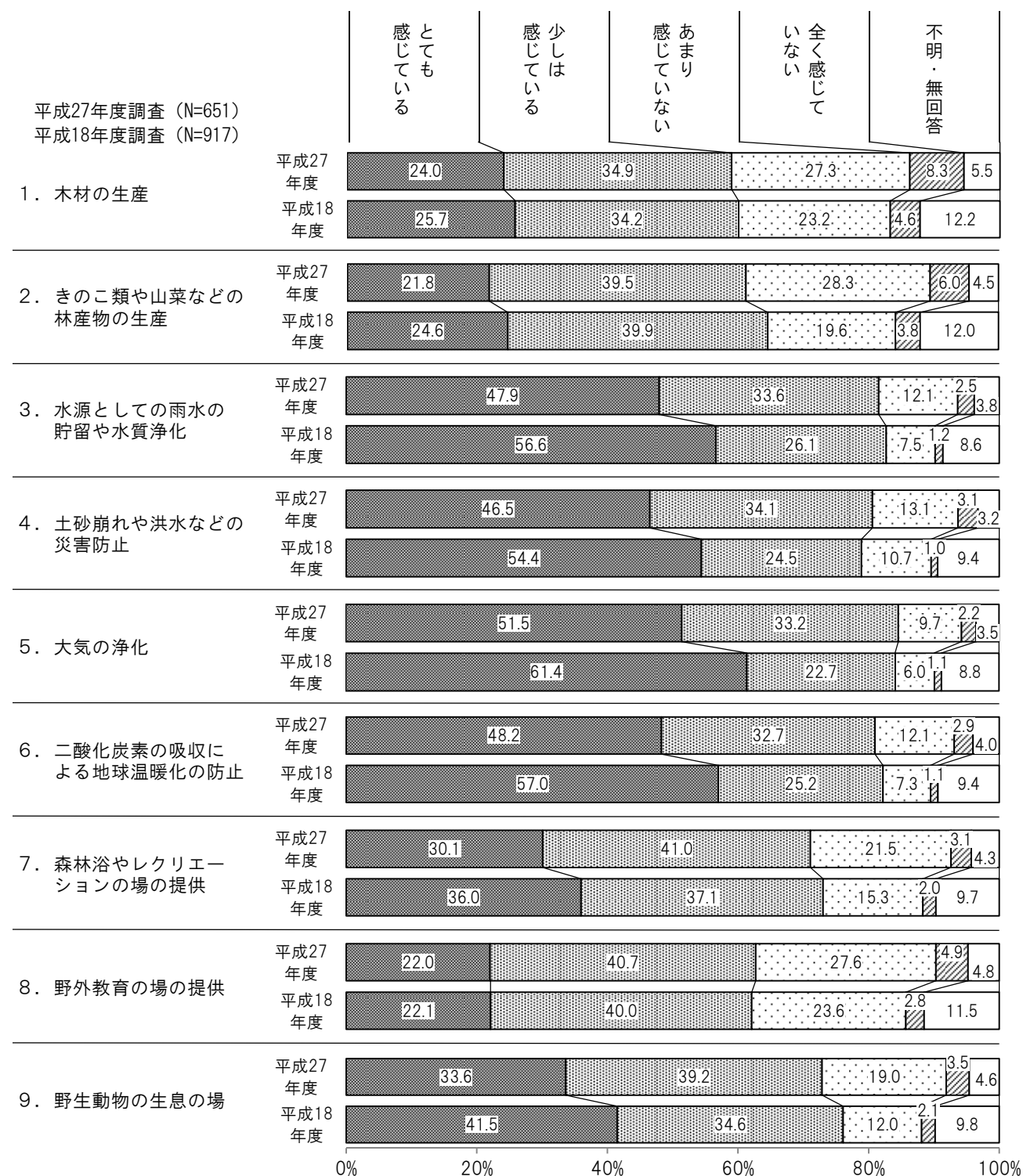
『感じている』（「とても感じている」と「少しは感じている」の合計）は、「大気の浄化」（84.7%）、「水源としての雨水の貯留や水質浄化」（81.5%）、「二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止」（80.9%）、「土砂崩れや洪水などの災害防止」（80.6%）で8割を超えて多くなっている。

一方、「薪や木材チップなどのバイオマス資源の生産」では、『感じていない』（「あまり感じていない」と「全く感じていない」の合計）がほぼ半数を占めている。また、「木材の生産」や「きのこ類や山菜などの林産物の生産」、「野外教育の場の提供」でも、『感じていない』が3割を超えている。

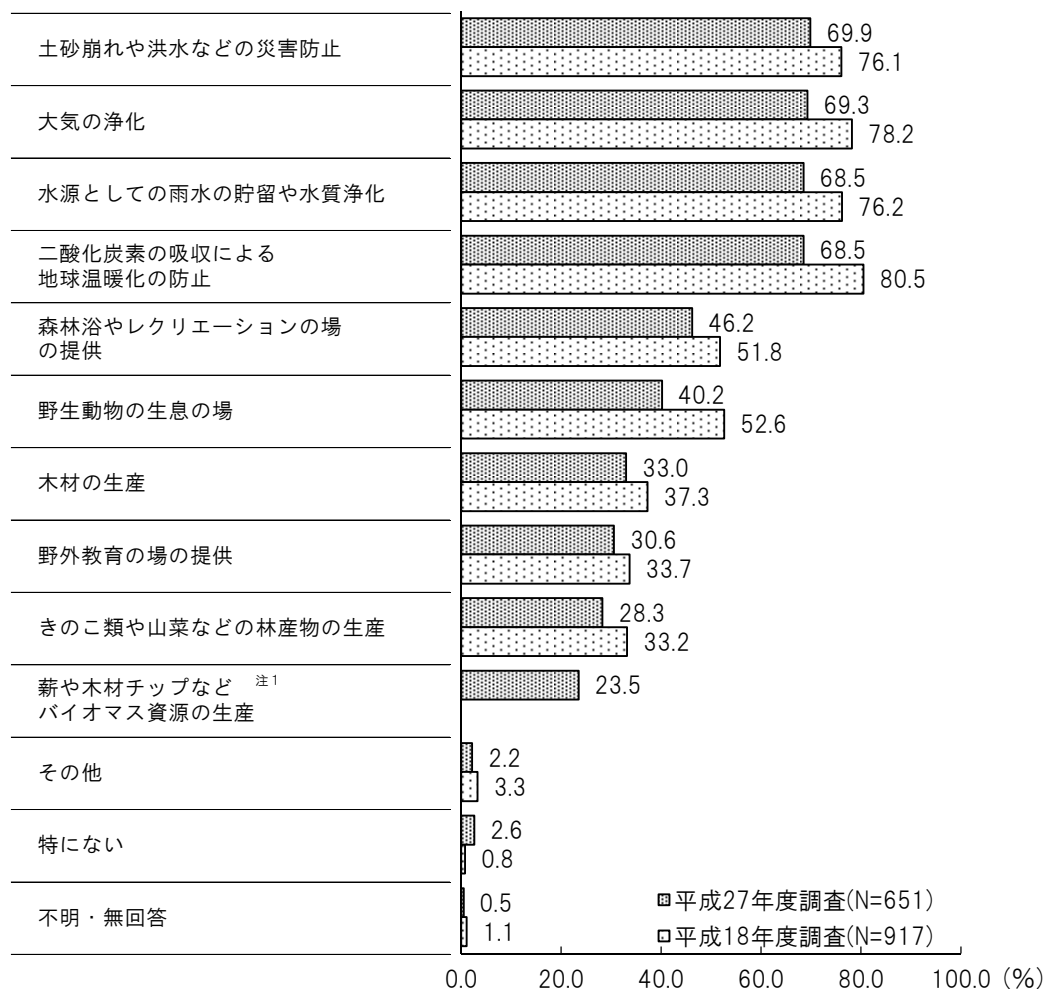
■ 前回調査との比較

森林から受ける恩恵の実感について、前回調査（平成18年度）と比較すると、いずれの項目でも『感じていない』が今回調査では多くなっており、「きのこ類や山菜などの林産物の生産」（10.9ポイント差）、「野生動物の生息の場」（8.4ポイント差）、「木材の生産」（7.8ポイント差）、「森林浴やレクリエーションの場の提供」（7.3ポイント差）で前回調査との差が大きくなっている。

「土砂崩れや洪水などの災害防止」「大気の浄化」「野外教育の場の提供」については、『感じていない』が前回調査よりも多くなっているものの、同時に『感じている』も前回調査よりやや多くなっている。



問4 あなたは今後、森林のどのような機能に期待しますか。(〇はいくつでも)



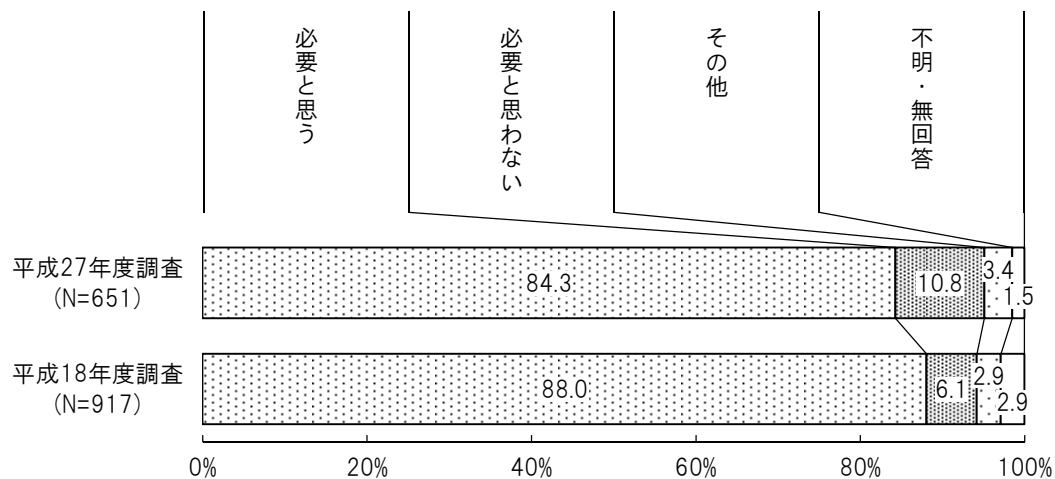
注1 平成27年度調査のみの項目

今後、森林に期待する機能としては、「土砂崩れや洪水などの災害防止」(69.9%)、「大気の浄化」(69.3%)、「水源としての雨水の貯留や水質浄化」(68.5%)、「二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止」(68.5%)がいずれも7割弱で多くなっている。

前回調査(平成18年度)と比較すると、すべての項目で今回調査は前回調査よりも少なくなっている。特に「二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止」と「野生動物の生息の場」でその差が大きくなっており、前回調査では「二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止」が80.5%で最も多くなっていたが、今回調査では、「土砂崩れや洪水などの災害防止」(69.9%)が最も多い項目となっている。

(3) 森林づくり活動への参加について

問5 あなたは、市域の森林を健全に維持するためには、行政や森林所有者だけでなく市民も参加して守り育てていくことが必要だと思いますか。(○は1つ)



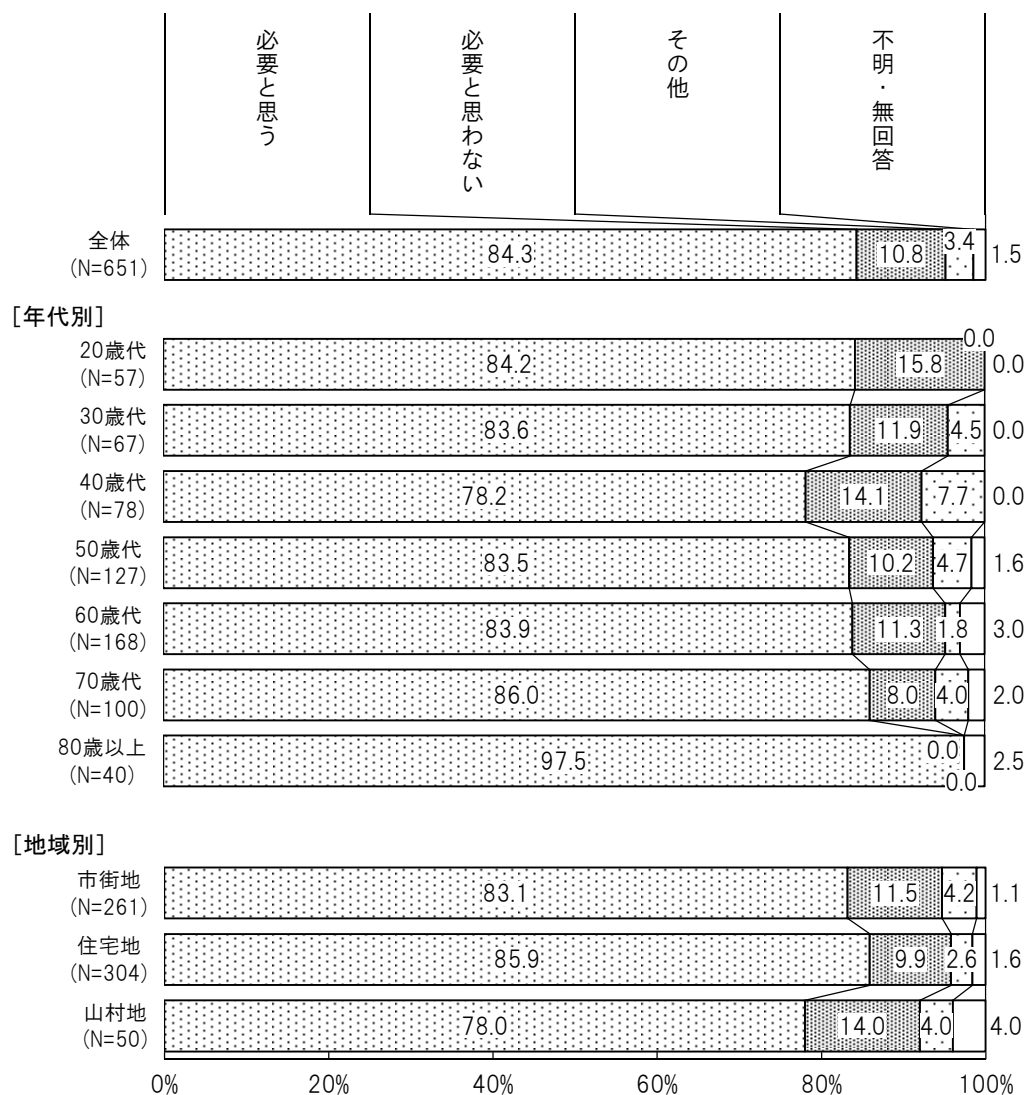
森林を健全に維持するため、市民の参加が「必要と思う」と回答した人は84.3%と多数を占めている。

前回調査（平成18年度）と比較すると、「必要と思う」の割合は前回調査では88.0%で、今回調査はそれよりも3.7ポイント少なくなっている。「必要と思わない」の割合は、は前回調査の6.1%に対して、今回調査は10.8%と4.7ポイント多くなっている。

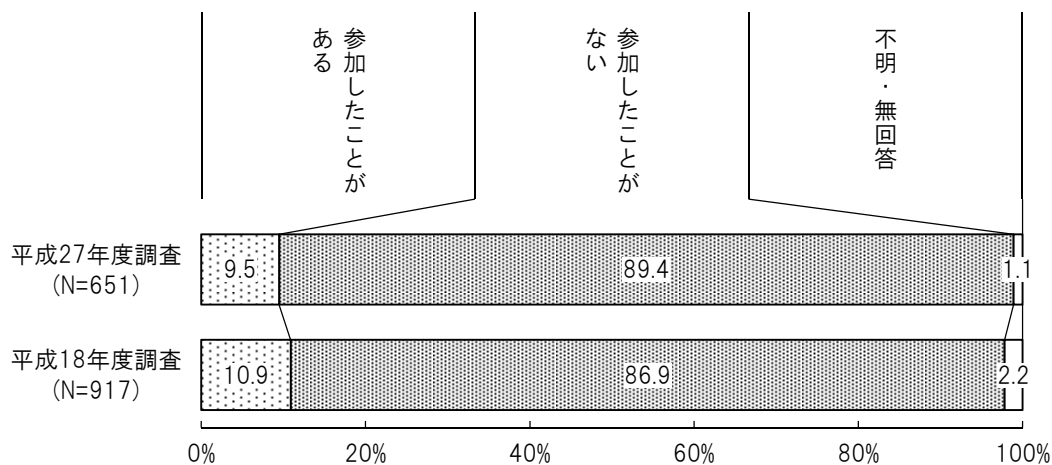
■ 年代別、地域別

年代別にみると、80歳以上では「必要と思う」が97.5%と極めて多くなっている。20歳代と40歳代でも「必要と思う」がかなり多いものの、「必要と思わない」が他の年代よりもやや多く、それぞれ15.8%、14.1%となっている。

地域別にみると、住宅地では「必要と思う」と回答した人がやや多く、85.9%となっている。

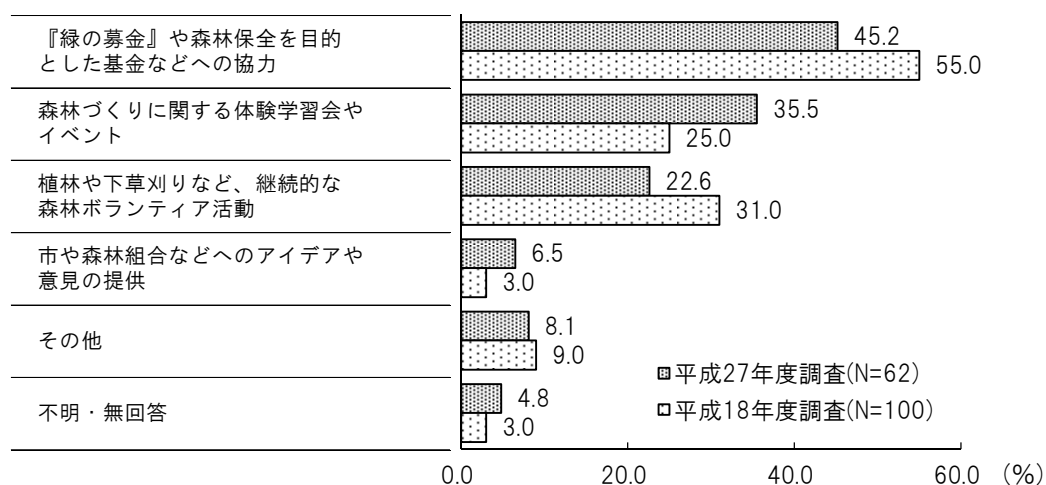


問 6－1 あなたはこれまでに、^{もり}森林づくり活動に参加されたことがありますか。「参加したことがある」場合は、下の【共通項目】から参加した内容に該当する番号すべてに○をつけてください。



^{もり}森林づくり活動に参加した経験がある人は9.5%で、参加したことがない人が89.4%を占めている。前回調査（平成18年度）と比較すると、参加したことがない人が前回調査86.9%、今回調査89.4%と、今回調査はわずかに多くなっている。

【参加内容】



参加した内容は、「『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」が45.2%で最も多く、これに次いで「^{もり}森林づくりに関する体験学習会やイベント」(35.5%)、「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」(22.6%)となっている。

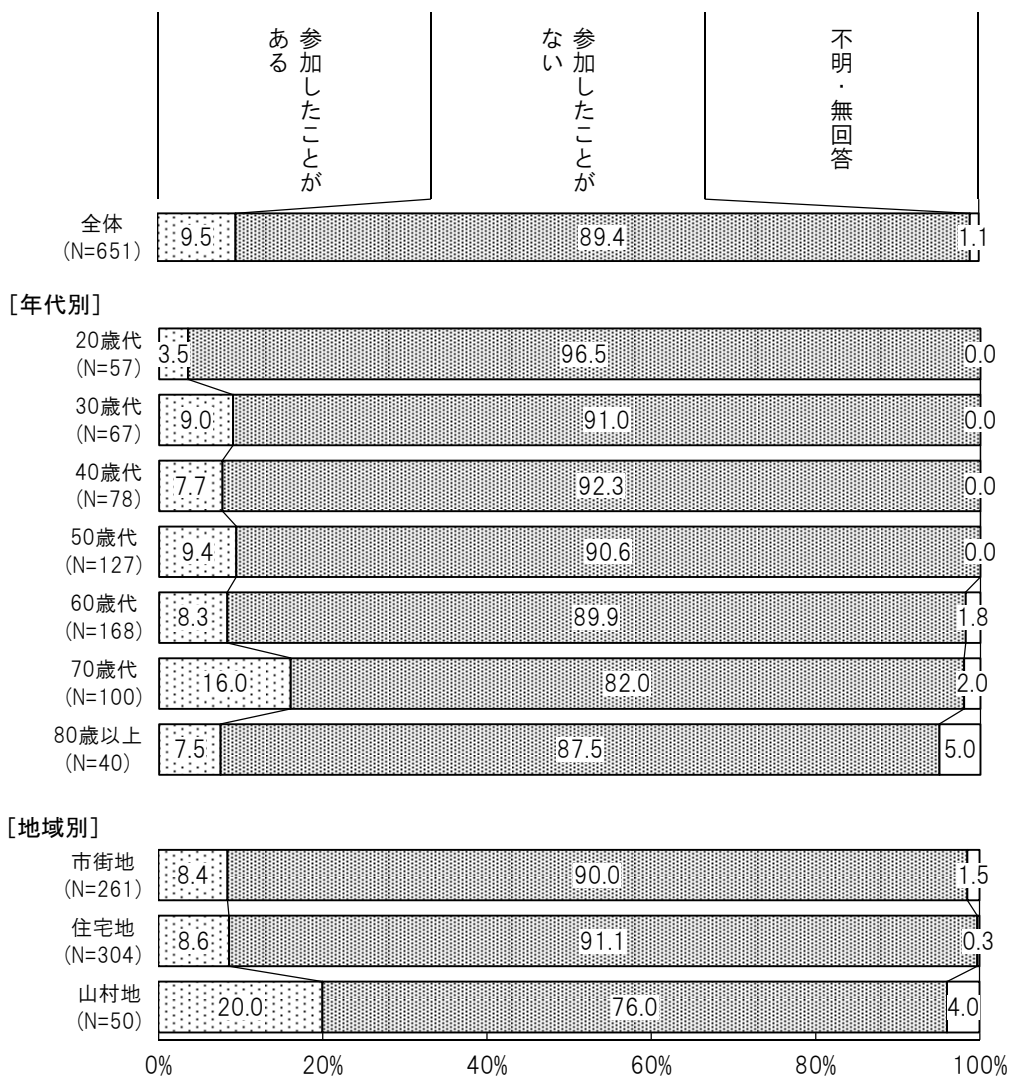
前回調査（平成18年度）と比較すると、「^{もり}森林づくりに関する体験学習会やイベント」は前回調査では25.0%、今回調査では35.5%と、今回調査が10.5ポイント多くなっている。一方、「『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」と「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」は前回調査よりも少なくなっており、それぞれ9.8ポイント差、8.4ポイント差となっている。

■ 性別、年代別、地域別

【参加経験】

参加経験の有無を年代別にみると、70歳代は参加した経験がある人が他の年代よりも多く16.0%となっている。

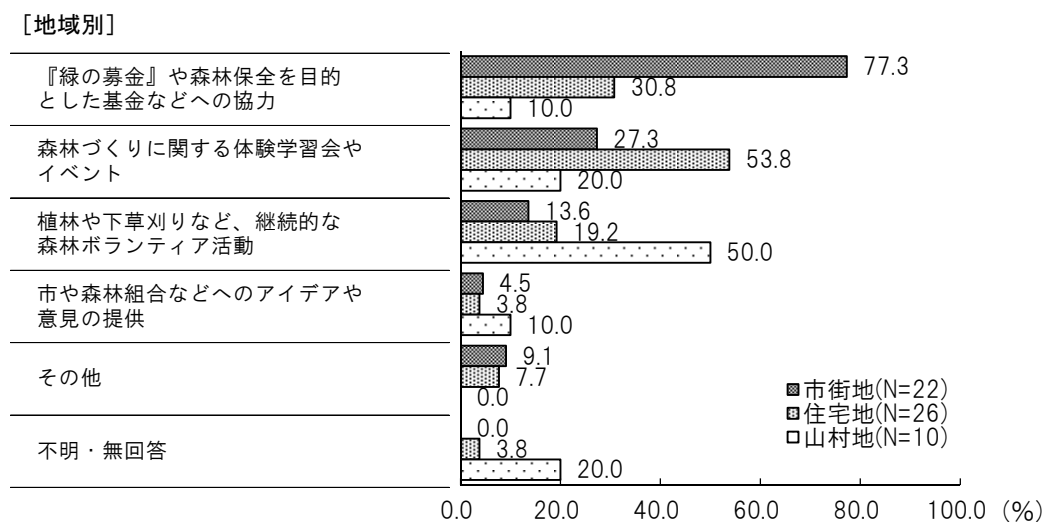
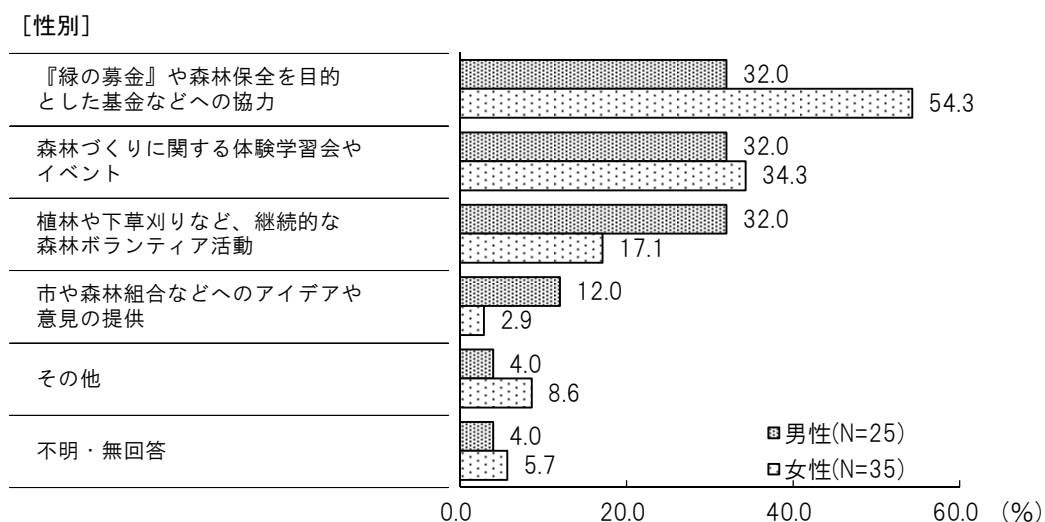
地域別にみると、山村地では、参加した経験がある人が20.0%となっている。



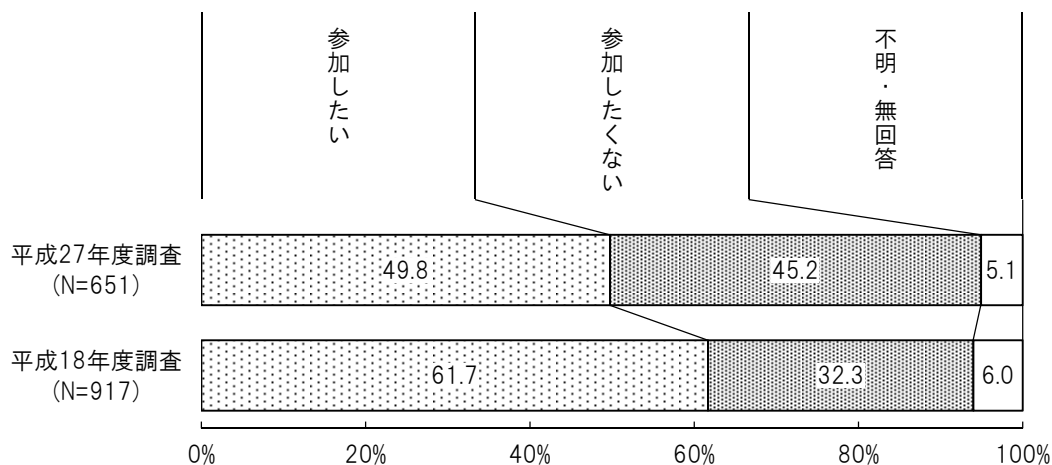
【参加内容】

参加したことのあり森林づくり活動の内容を性別にみると、男性では、『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」「森林づくりに関する体験学習会やイベント」「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」がいずれも32.0%で多くなっている。女性では、『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」が54.3%で最も多くなっている。

地域別にみると、市街地では『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」、住宅地では「森林づくりに関する体験学習会やイベント」、山村地では「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」の割合が最も多くなっている。



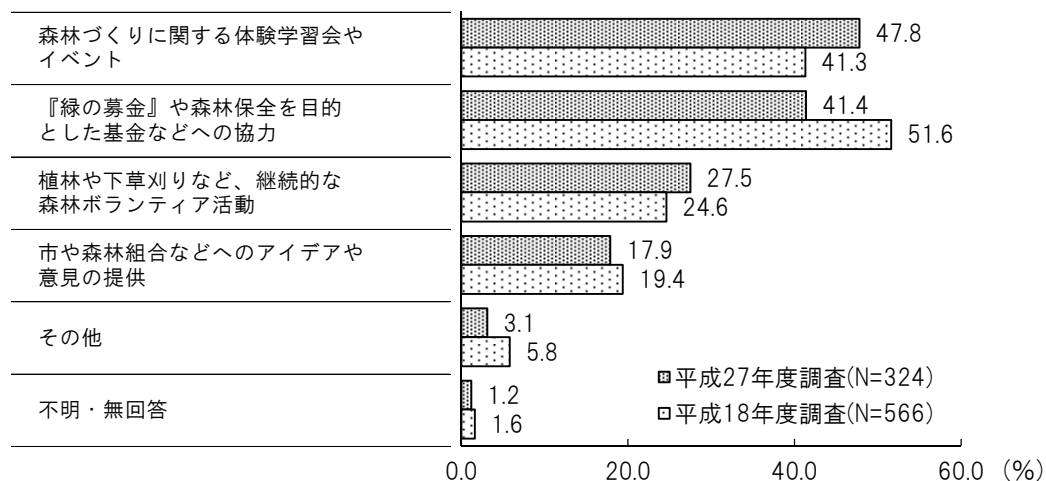
問 6－2 また、今後、機会があれば、森林づくり活動に参加したいですか。「参加したい」場合は、下の【共通項目】から参加したい内容に該当する番号すべてに○をつけてください。



今後の森林づくり活動への参加意向は、「参加したい」が49.8%、「参加したくない」が45.2%となっている。

前回調査（平成18年度）調査と比較すると、前回調査では「参加したい」が61.7%、「参加したくない」が32.3%となっており、今回調査は「参加したくない」が12.9ポイント多くなっている。

【参加したい内容】



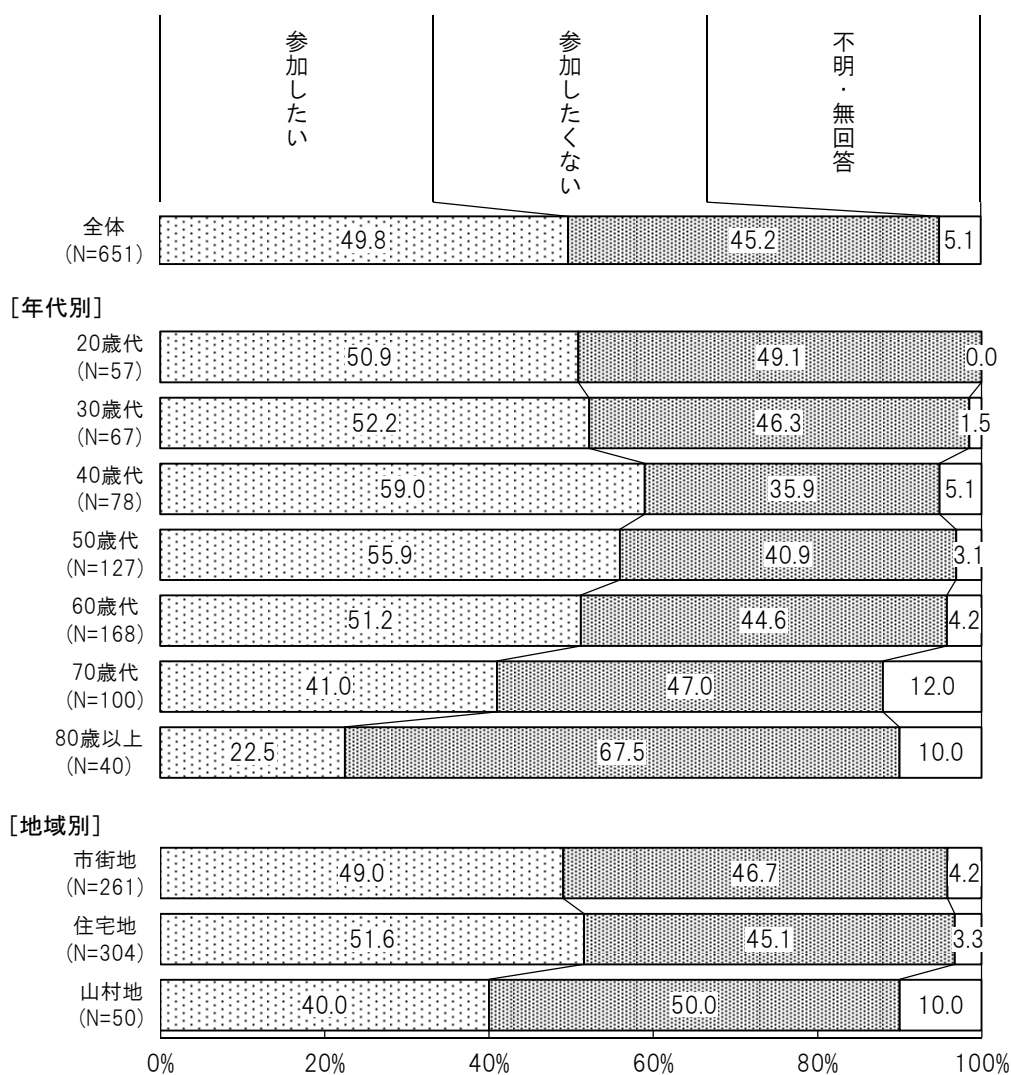
今後参加したい内容をみると、「森林づくりに関する体験学習会やイベント」が47.8%で最も多く、次いで「『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」(41.4%)、「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」(27.5%)の順となっている。

■ 性別、年代別、地域別

【参加意向】

森林づくり活動への参加意向を年代別にみると、70歳未満の年代ではいずれも「参加したい」が5割を超えている。

地域別にみると、市街地と住宅地では、「参加したい」がほぼ5割を占めているが、山村地では、「参加したくない」(50.0%)が「参加したい」(40.0%)よりも多くなっている。

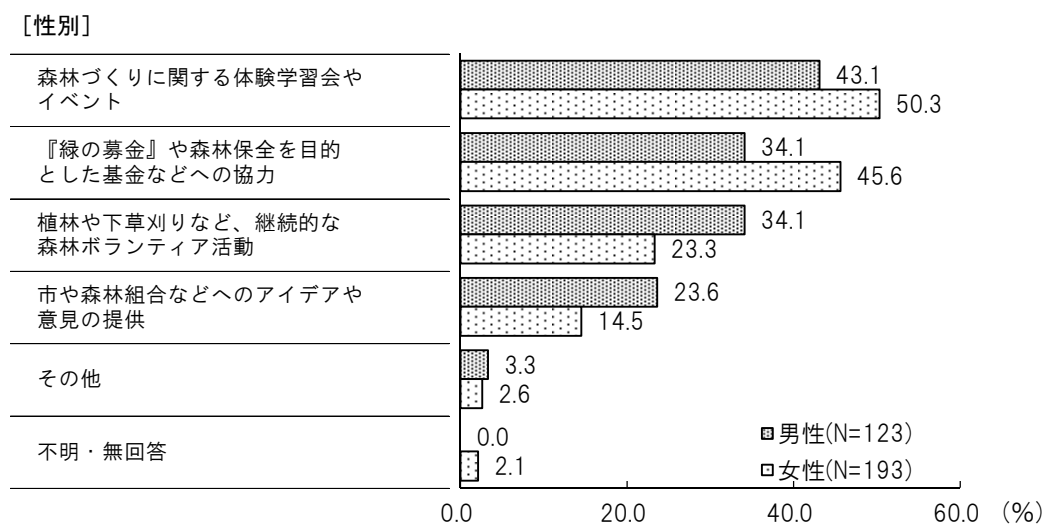


【参加したい内容】

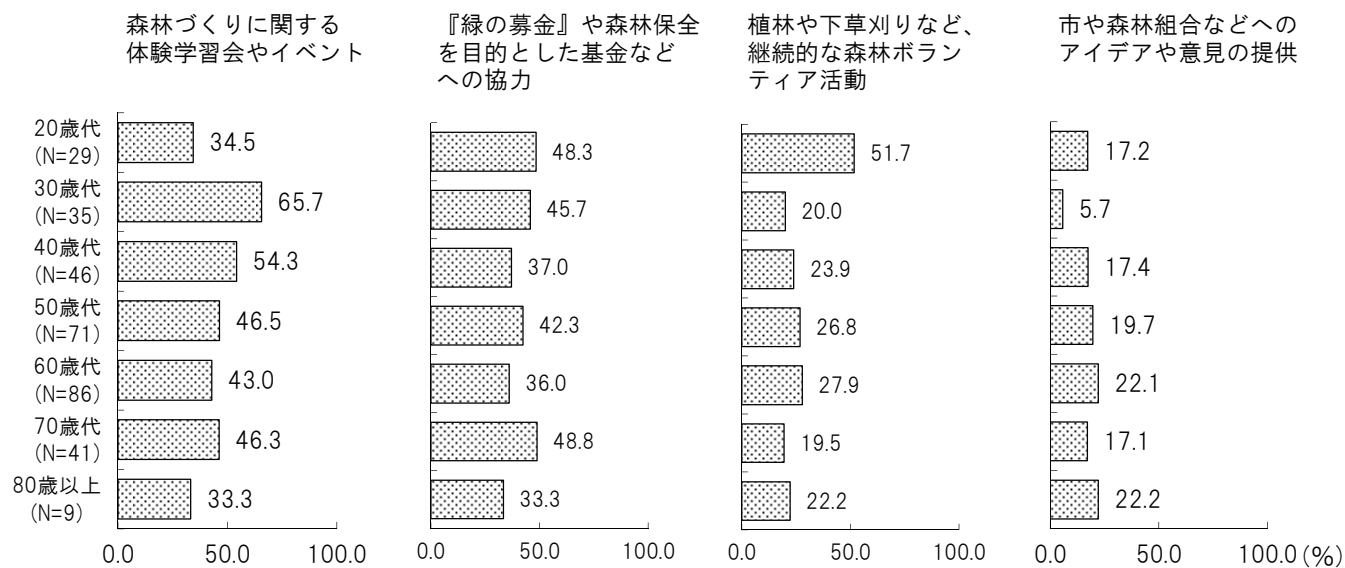
今後、森林づくり活動で参加したい内容を性別にみると、「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」と「市や森林組合などへのアイデアや意見の提供」は女性よりも男性で割合が多くなっており、それぞれ10.8ポイント差、9.1ポイント差となっている。一方、『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力」と「森林づくりに関する体験学習会やイベント」は女性の方が割合が多く、それぞれ11.5ポイント差、7.2ポイント差となっている。

年代別にみると、20歳代では「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」が51.7%で最も多くなっている。30歳代では「森林づくりに関する体験学習会やイベント」が65.7%と、全年代の中で最も割合が多くなっている。

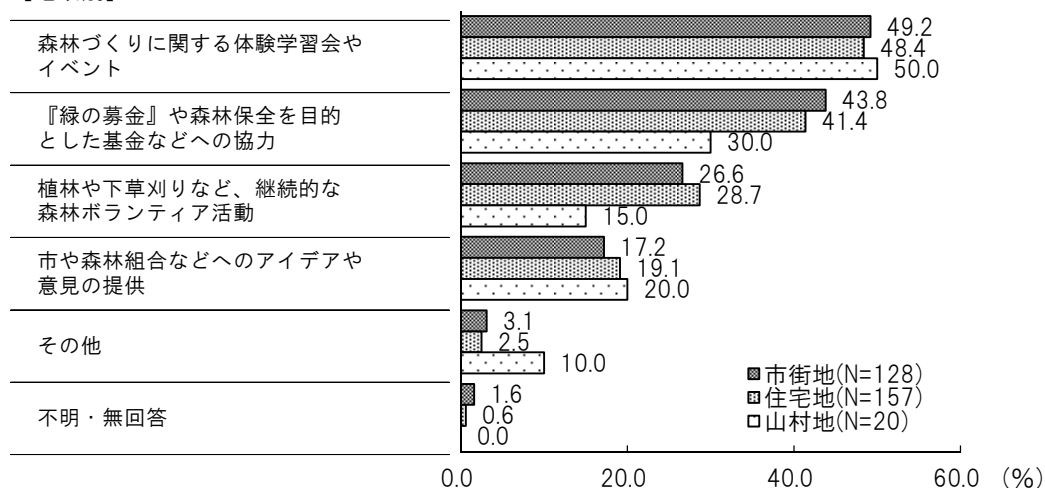
地域別にみると、山村地では「植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動」と『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力が他地域よりも10ポイント以上少なくなっている。



[年代別]

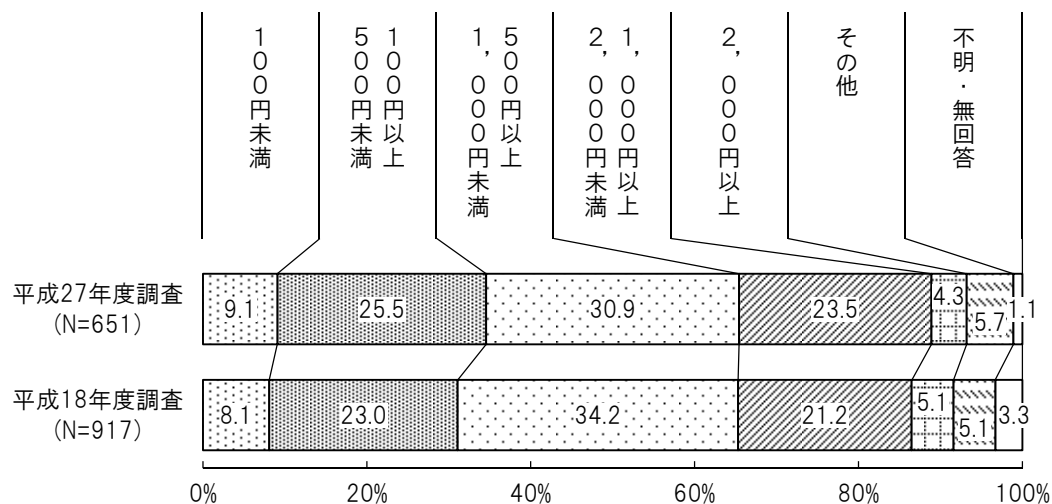


[地域別]



（４）森林の維持について

問 7 雨水の貯留や土砂崩れなどの災害の防止、二酸化炭素の吸収など、私たちの生活に欠かせない重要な機能を持つ森林を健全に維持していくために必要な費用について、市民のみなさんから一定額を負担していただくとしたら、あなたは1年間にいくらくらいなら負担してもよいと思いますか。（○は1つ）



森林を維持するために負担してもよいと考える金額については、「500円以上1,000円未満」が30.9%で最も多く、次いで「100円以上500円未満」が25.5%、「1,000円以上2,000円未満」が23.5%となっている。

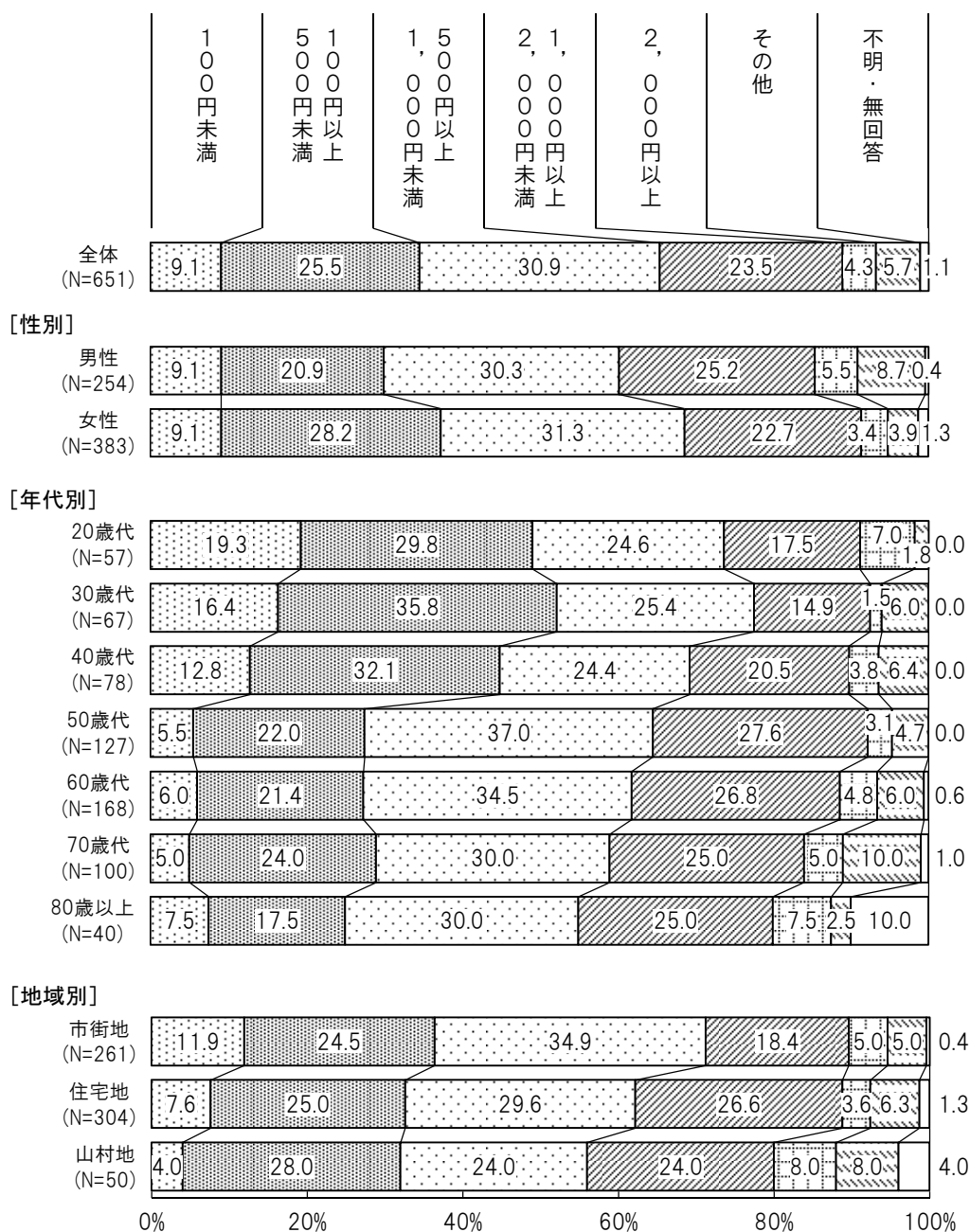
前回調査（平成18年度）と比較すると、「500円以上1,000円未満」が前回調査の34.2%に対し今回調査は3.3ポイント少ない30.9%となっており、「100円以上500円未満」「1,000円以上2,000円未満」がそれぞれ2.5ポイント、2.3ポイント多くなっている。

■ 性別、年代別、地域別

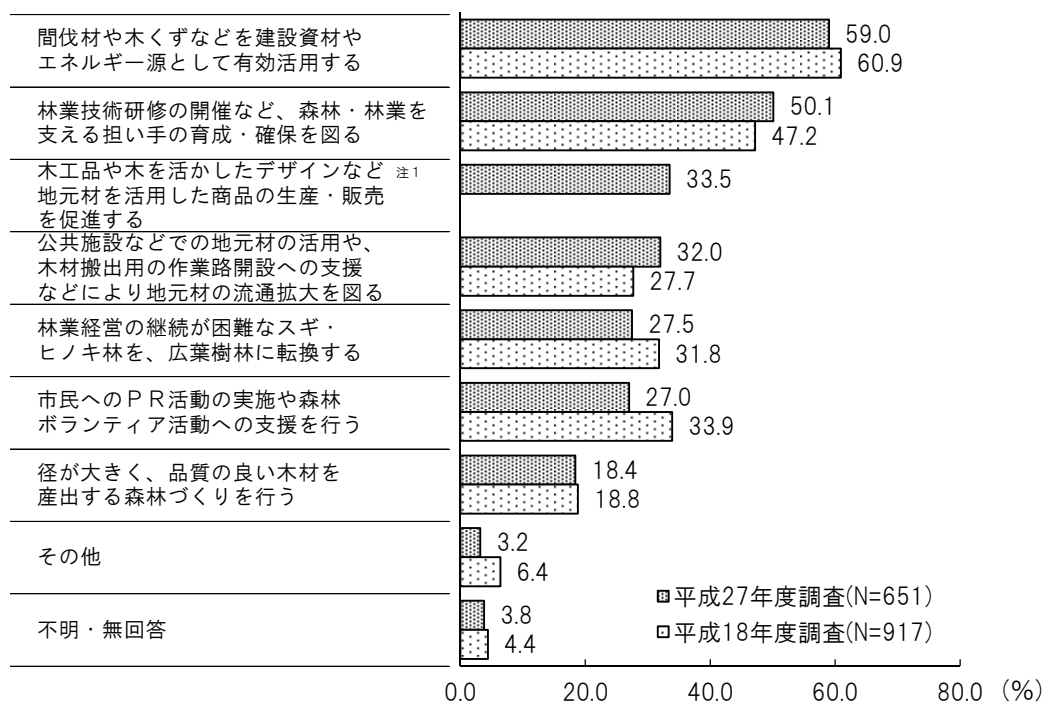
森林を維持するために負担してもよいと考える金額について性別にみると、「100 円未満」「100 円以上 500 円未満」「500 円以上 1,000 円未満」を合計した、『1,000 円未満』の割合は男性で 60.3%、女性で 68.6%となっており、女性の方が割合が多くなっている。

年代別にみると、50 歳未満の年代では「100 円以上 500 円未満」が最も多くなっている。一方 50 歳以上の年代では、「500 円以上 1,000 円未満」の割合が最も多くなっている。

地域別にみると、『1,000 円未満』の割合は市街地で 71.3%、住宅地で 62.2%、山村地で 56.0%となっており、全体（65.5%）と比較して、市街地では『1,000 円未満』の割合が多く、山村地では少なくなっている。



問 8 あなたは、市域の森林を健全に維持していくためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



注1 平成27年度調査のみの項目

※間伐材：木の生長のため、混みあった森林の木々を間引く際に伐採された木材

森林を維持していくために力を入れるべきことについては、「間伐材や木くずなどを建設資材やエネルギー源として有効活用する」が59.0%で最も多く、これに次いで「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」(50.1%)、「木工品や木を活かしたデザインなど地元材を活用した商品の生産・販売を促進する」(33.5%)、「公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る」(32.0%)となっている。

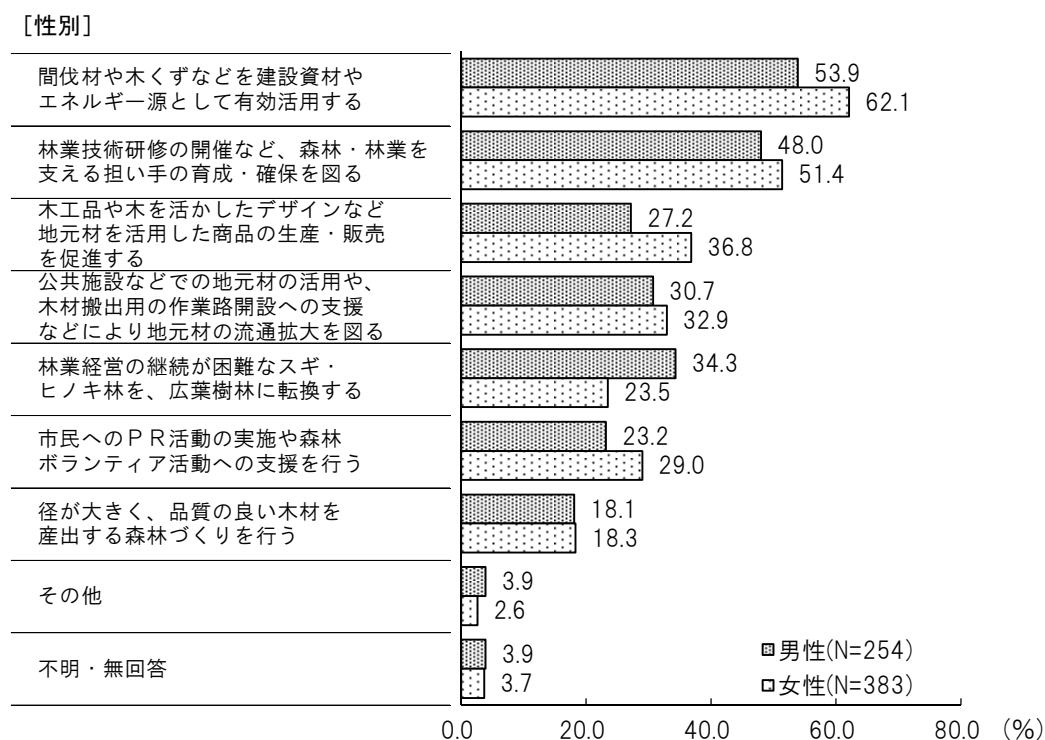
前回調査(平成18年度)と比較すると、「公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る」では4.3ポイント、「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」では2.9ポイント、それぞれ前回調査よりも割合が多くなっている。一方、「市民へのPR活動の実施や森林ボランティア活動への支援を行う」では6.9ポイント、「林業経営の継続が困難なスギ・ヒノキ林を、広葉樹林に転換する」では4.3ポイント、それぞれ前回調査よりも割合が少なくなっている。

■ 性別、年代別、地域別

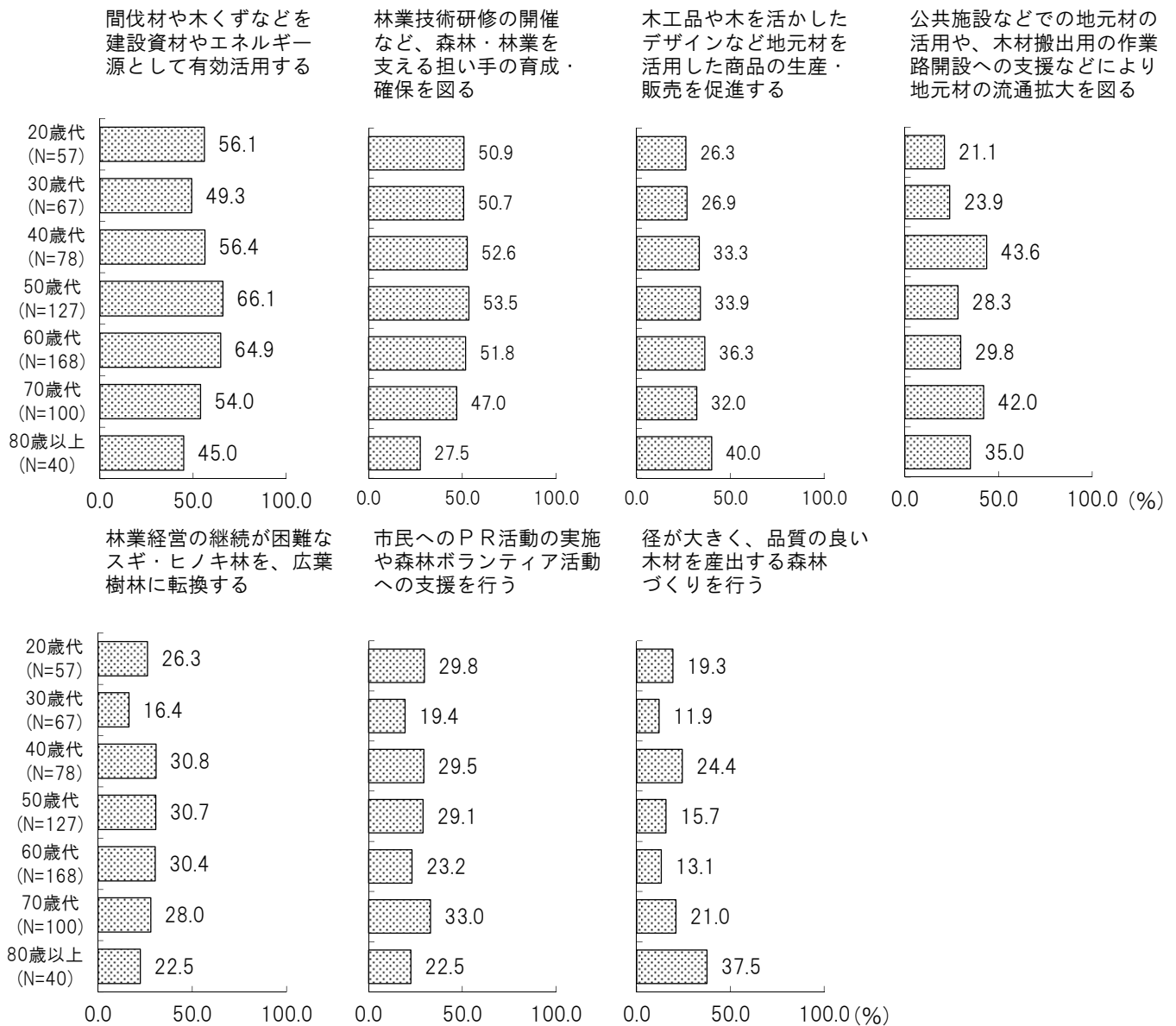
森林を維持していくために力を入れるべきことについて性別にみると、「林業経営の継続が困難なスギ・ヒノキ林を、広葉樹林に転換する」は男性 34.3%・女性 23.5%となっており、男性の方が 10.8 ポイント多い。「木工品や木を活かしたデザインなど地元材を活用した商品の生産・販売を促進する」と「間伐材や木くずなどを建設資材やエネルギー源として有効活用する」については、それぞれ 9.6 ポイント、8.2 ポイント、女性の方が男性よりも割合が多くなっている。

年代別にみると、40 歳代と 70 歳代では「公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る」が 4 割を超えている。80 歳以上では「径が大きく、品質の良い木材を産出する森林づくりを行う」が 37.5%と他の年代と比較して割合が多くなっている。

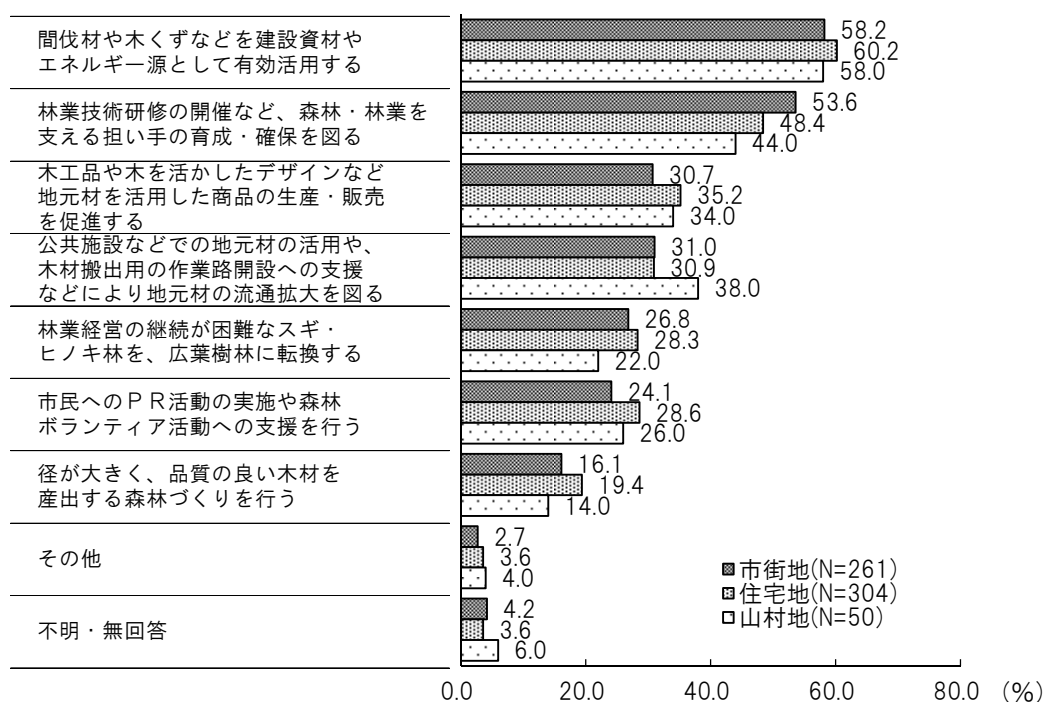
地域別にみると、市街地では「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」が 53.6%と比較的多くなっている。山村地では「公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る」が 4 割近くとなっている。



[年代別]



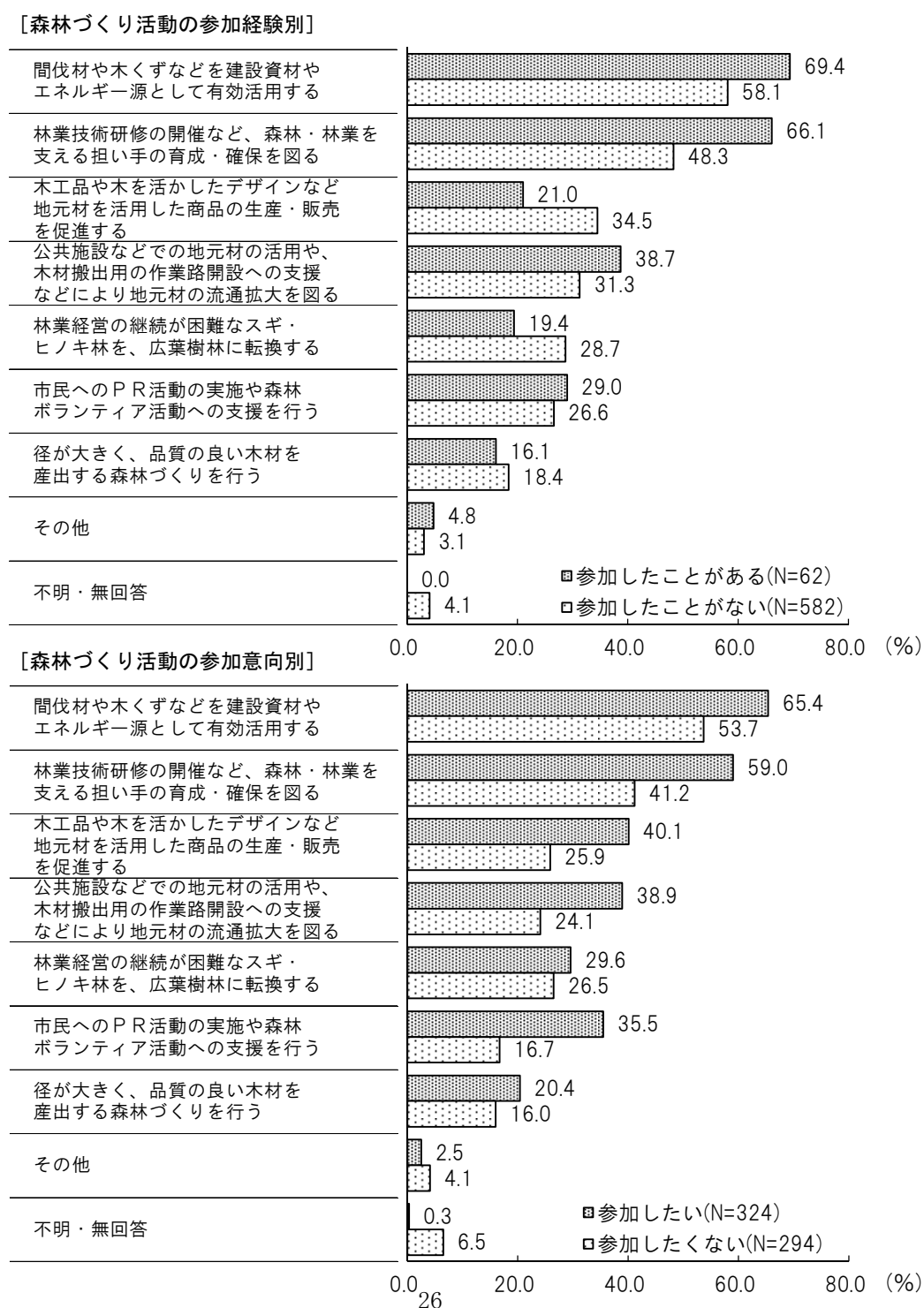
[地域別]



■ もり 森林づくり活動の参加経験・参加意向別

森林を維持していくために力を入れるべきことを問6-1の森林づくり活動への参加経験別にみると、参加経験がある人は、参加経験がない人よりも「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」で17.8ポイント、「間伐材や木くずなどを建設資材やエネルギー源として有効活用する」で11.3%、「公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る」で7.4ポイント多くなっている。

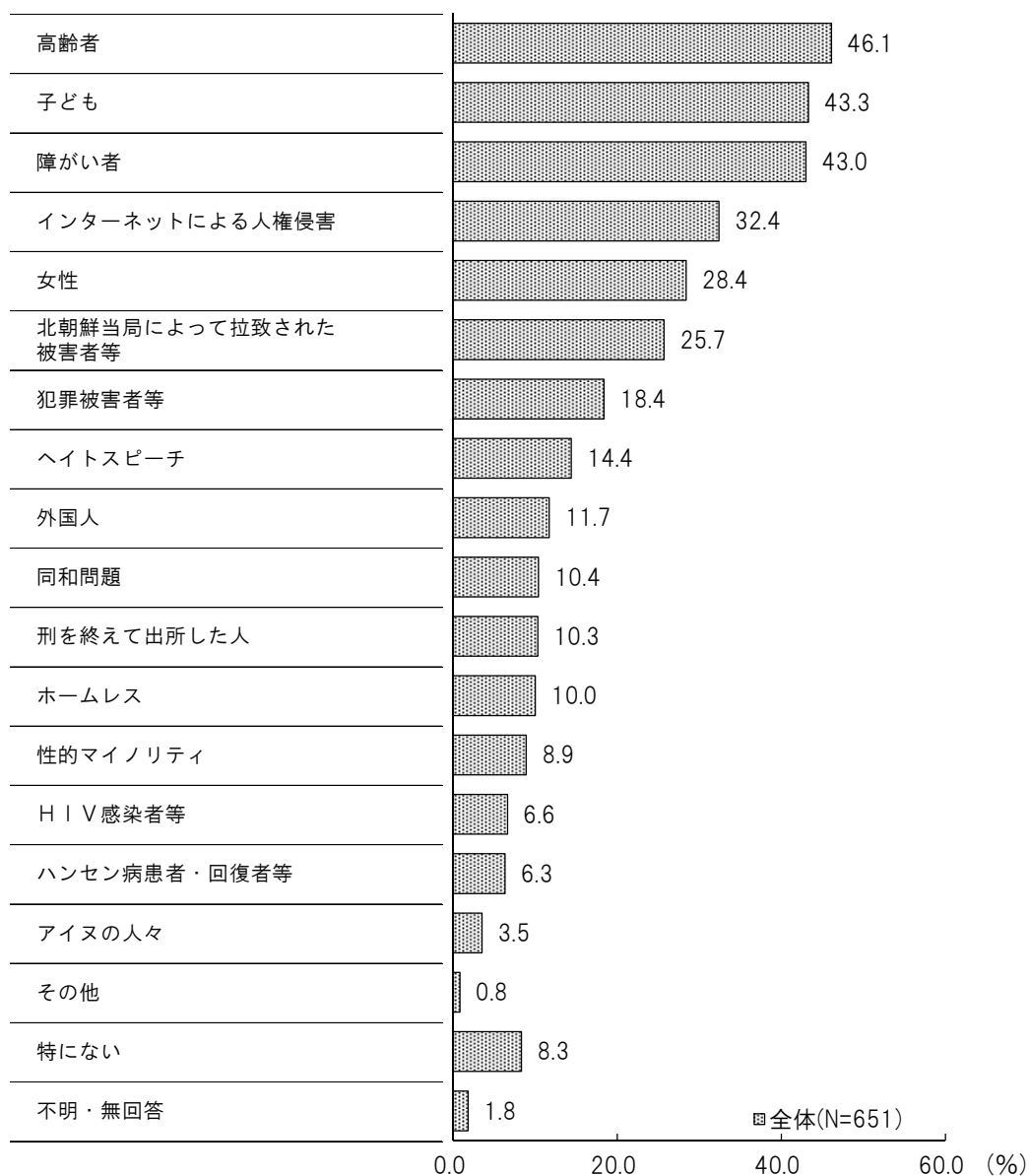
同じく、問6-2の森林づくり活動への参加意向別にみると、参加意向のある人が「その他」をのぞいたすべての項目で割合が多くなっており、なかでも「市民へのPR活動の実施や森林ボランティア活動への支援を行う」では18.8ポイント、「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」では、17.8ポイント、それぞれ割合が多くなっている。



2. 人権問題について

(1) 人権問題全般について

問9 次の人権課題について、あなたが関心のあるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



※HIV：ヒト免疫不全ウイルス。エイズ（後天性免疫不全症候群）の原因となるウイルス

※ハンセン病：「らい菌」によって引き起こされる感染症。現在は後遺症を残さず治る病気

※性的マイノリティ：性的少数者。同性愛や両性愛など性的指向において少数派である人々や性別に違和感を覚える人々、性同一性障がいなどの人々

※ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動

関心のある人権問題については、「高齢者」が46.1%で最も多く、これに「子ども」が43.3%、「障がい者」が43.0%、「インターネットによる人権侵害」が32.4%、「女性」が28.4%、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」が25.7%で続いている。

「犯罪被害者等」「ヘイトスピーチ」「外国人」「同和問題」などは1割台、「性的マイノリティ」「HIV感染者等」「ハンセン病患者・回復者等」などでは1割未満となっている。

■ 性別・年代別

関心のある人権問題について性別にみると、女性では「女性」「子ども」などの割合が男性よりも多くなっており、特に「女性」では21.2ポイント多くなっている。また、男性では、「ヘイトスピーチ」「同和問題」などの割合が女性よりも多い。

年代別にみると、50歳以上の年代では「高齢者」が最も多くなっている。30歳代と40歳代では、「子ども」が最も多く5割を超えている。20歳代では、「障がい者」が49.1%で最も多く、次いで「女性」と「子ども」がともに47.4%となっている。そのほか、20歳代では「性的マイノリティ」「外国人」、60歳代と70歳代では「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」、80歳以上では「ホームレス」が、他の年代と比べて多くなっている。

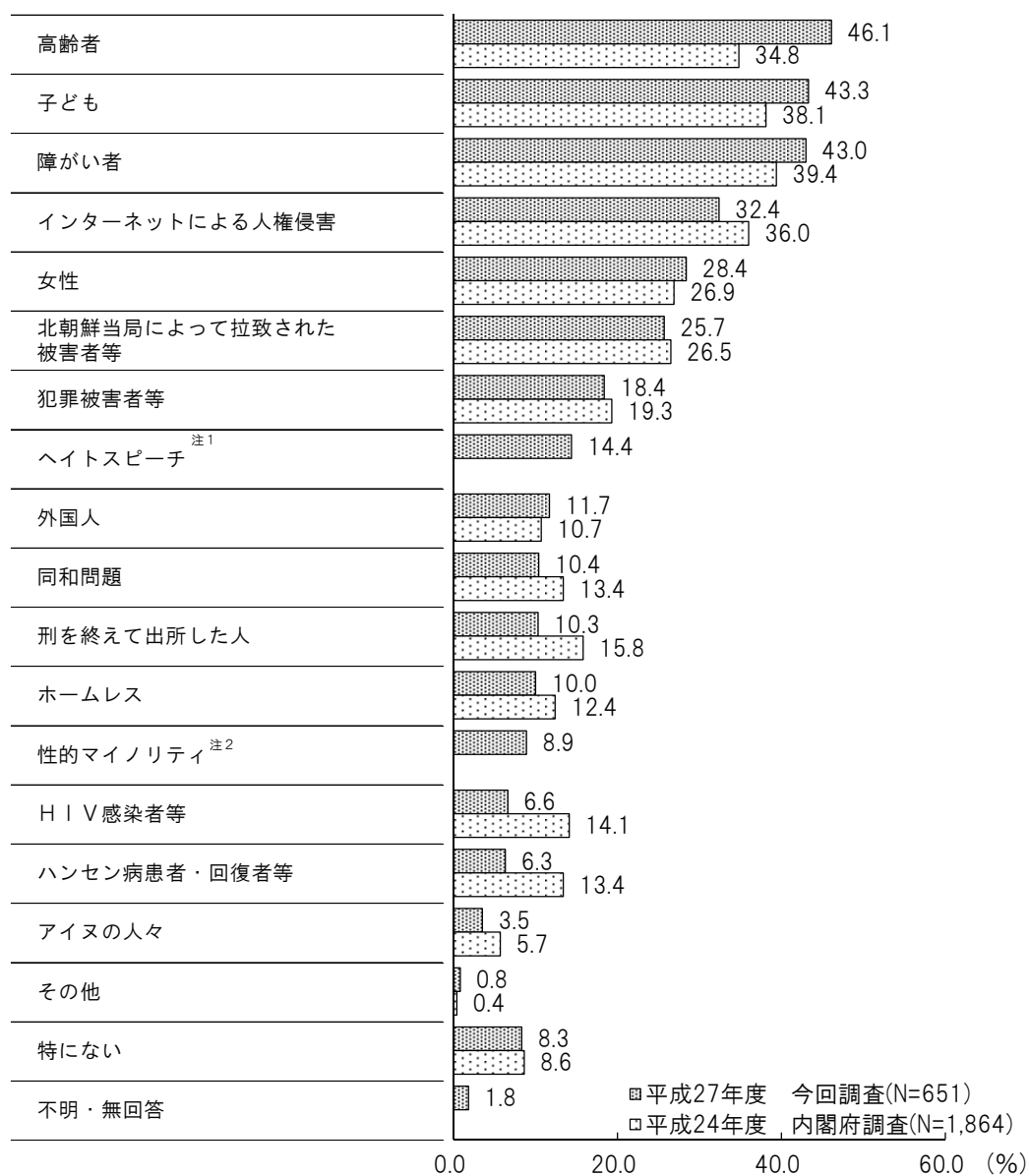
	全体 (人)	高齢者	子ども	障がい者	インターネット による人権侵害	女性	北朝鮮当局に よって拉致 された被害者等	犯罪被害者等	ヘイトスピーチ	外国人	同和問題
全体	651	46.1	43.3	43.0	32.4	28.4	25.7	18.4	14.4	11.7	10.4
性別 男性	254	44.1	37.8	40.6	29.9	16.1	26.8	17.7	19.7	13.0	14.2
性別 女性	383	47.0	47.3	45.2	33.9	37.3	24.5	19.1	11.2	11.0	7.8
年代別 20歳代	57	26.3	47.4	49.1	28.1	47.4	10.5	21.1	17.5	22.8	12.3
30歳代	67	19.4	55.2	44.8	32.8	37.3	10.4	13.4	13.4	14.9	3.0
40歳代	78	29.5	52.6	34.6	29.5	33.3	16.7	21.8	11.5	11.5	12.8
50歳代	127	46.5	36.2	41.7	32.3	27.6	20.5	14.2	12.6	11.0	9.4
60歳代	168	53.6	39.9	44.6	39.3	23.2	35.7	24.4	18.5	11.3	11.9
70歳代	100	65.0	38.0	44.0	28.0	23.0	39.0	13.0	13.0	7.0	12.0
80歳以上	40	70.0	45.0	47.5	22.5	22.5	25.0	20.0	10.0	7.5	7.5

	全体 (人)	刑を終えて 出所した人	ホームレス	性的 マイノリティ	HIV感染者等	ハンセン病 患者・回復者等	アイヌの人々	その他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	651	10.3	10.0	8.9	6.6	6.3	3.5	0.8	8.3	1.8
性別 男性	254	10.6	11.8	7.1	7.5	5.1	4.7	0.8	9.4	2.0
性別 女性	383	9.9	8.9	10.2	5.5	7.0	2.6	0.8	7.6	1.6
年代別 20歳代	57	12.3	12.3	28.1	12.3	3.5	1.8	-	10.5	1.8
30歳代	67	13.4	10.4	16.4	3.0	-	3.0	-	9.0	1.5
40歳代	78	9.0	6.4	9.0	3.8	6.4	2.6	3.8	7.7	1.3
50歳代	127	5.5	4.7	7.9	5.5	7.1	3.9	-	11.0	0.8
60歳代	168	10.7	14.3	4.2	7.1	8.9	4.2	0.6	5.4	2.4
70歳代	100	12.0	7.0	5.0	8.0	6.0	5.0	1.0	8.0	1.0
80歳以上	40	12.5	20.0	5.0	5.0	7.5	-	-	10.0	5.0

■ 全国調査との比較

関心のある人権問題について内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、「高齢者」の割合は内閣府調査の 34.8%に対して、今回調査は 46.1%と、11.3 ポイント多くなっている。また、「子ども」「障がい者」などの割合も、今回調査のポイントが多くなっている。

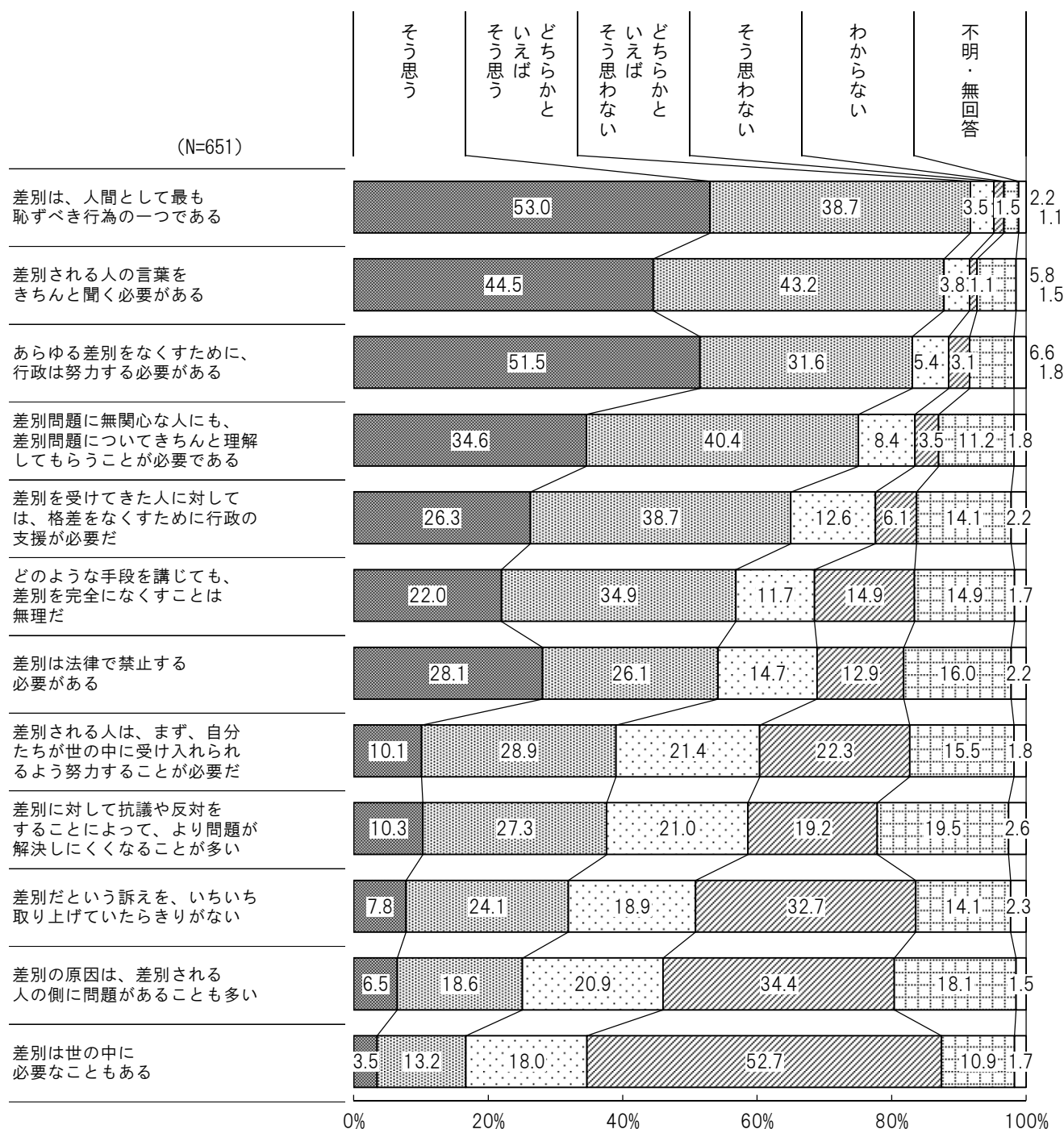
一方、「刑を終えて出所した人」「H I V感染者等」「ハンセン病患者・回復者等」の割合は、内閣府調査よりも 5 ポイント以上少なくなっている。



注1 今回調査のみの項目

注2 内閣府調査では、「性同一性障害者（生物学的な性と性の自己意識（こころの性）が一致しない者）」（9.6%）、「性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）」（9.2%）として質問している

問 10 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのような考えをお持ちですか。(○はそれぞれ1つ)



差別に関する基本的な考えについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う』の割合をみると、「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」で最も多く 91.7%、次いで「差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」の 87.7%、「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」の 83.1%、「差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」の 75.0%となっている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した『そう思わない』の割合は、「差別は世の中に必要なこともある」で最も多く 70.7%、次いで「差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い」が 55.3%、「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない」が 51.6%となっている。

■ 前回調査・大阪府調査との比較

大阪府調査（平成 22 年度）と比較すると、「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」「差別は法律で禁止する必要がある」「差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」「差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」「差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ」の 6 設問では、大阪府調査よりも『そう思う』の割合が多く、「差別は世の中に必要なこともある」「差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い」「差別される人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない」「差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い」「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」の 6 設問では『そう思わない』の割合が多くなっており、全体の傾向として、差別の解決に積極的な回答の割合が大阪府調査よりも多くなっている。

前回調査と比較すると、「差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い」と「差別される人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」では前回調査よりも『そう思わない』が多くなっており、それぞれ 18.6 ポイント差、15.9 ポイント差となっている。また、「差別は世の中に必要なこともある」「差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない」も、前回調査より『そう思う』が少なくなり、『そう思わない』の割合が多くなっている。

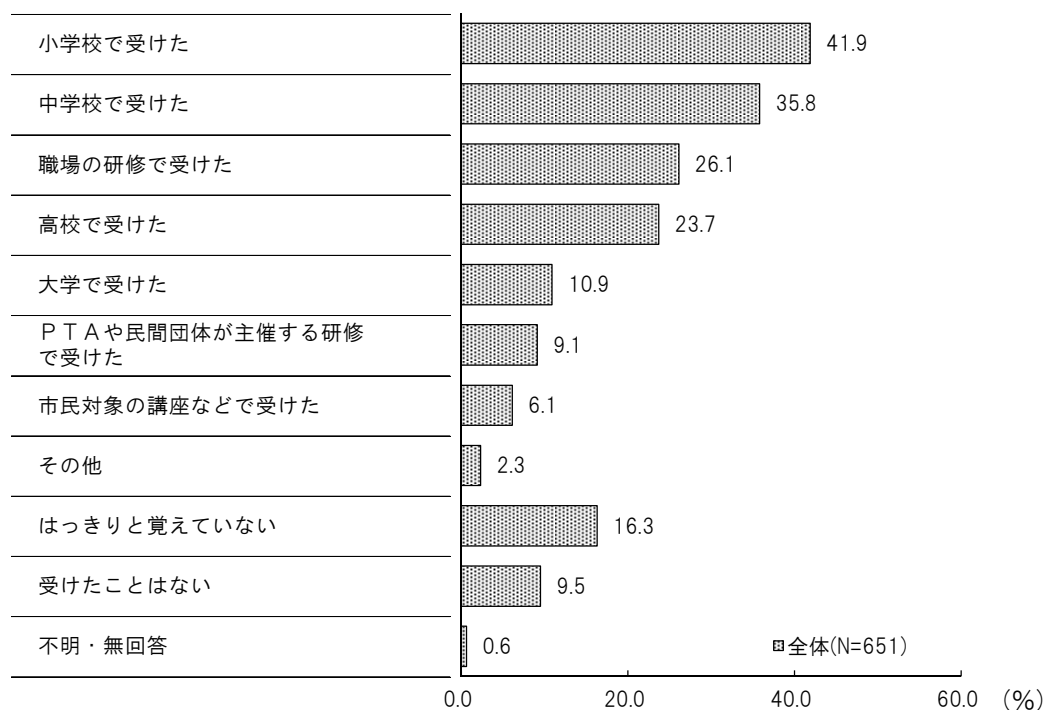
一方、「差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い」では『そう思う』が前回調査よりも 9.1 ポイント多くなっている。

また、「差別は法律で禁止する必要がある」では、『そう思う』の割合には前回調査との違いがみられないものの、『そう思わない』が前回調査よりも 9.2 ポイント多くなっている。

「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」「差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」「差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」はいずれも『そう思う』が大多数を占めているが、前回調査と比べると『そう思わない』の割合がわずかに多くなっている。

(2) 人権問題についての学習経験について

問 11 あなたは、学校、職場及び地域で、人権問題についての学習を経験したことがありますか。
(○はいくつでも)



人権問題についての学習経験については、「小学校で受けた」が 41.9%で最も多く、次いで「中学校で受けた」が 35.8%、「職場の研修で受けた」が 26.1%、「高校で受けた」が 23.7%となっている。

「受けたことはない」と回答した人は 9.5%、「はっきりと覚えていない」は 16.3%となっている。

■ 性別・年代別

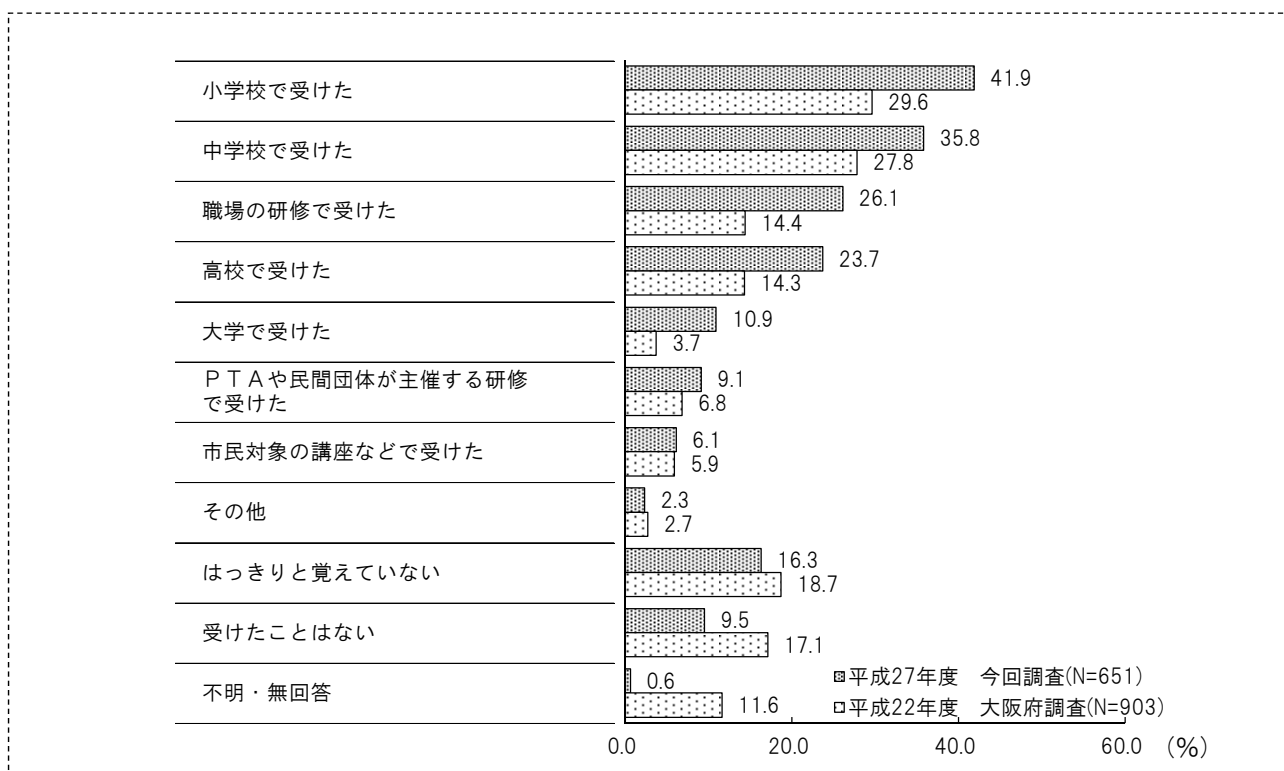
人権問題についての学習経験を性別にみると、男性では、「職場の研修で受けた」が 37.0%と比較的多くなっている。

年代別にみると、60 歳未満の年代では、「小学校で受けた」が 7～8 割前後、「中学校で受けた」が 5～7 割前後と多くなっている。20 歳代では加えて「高校で受けた」「大学で受けた」が 4 割を超えて多い。

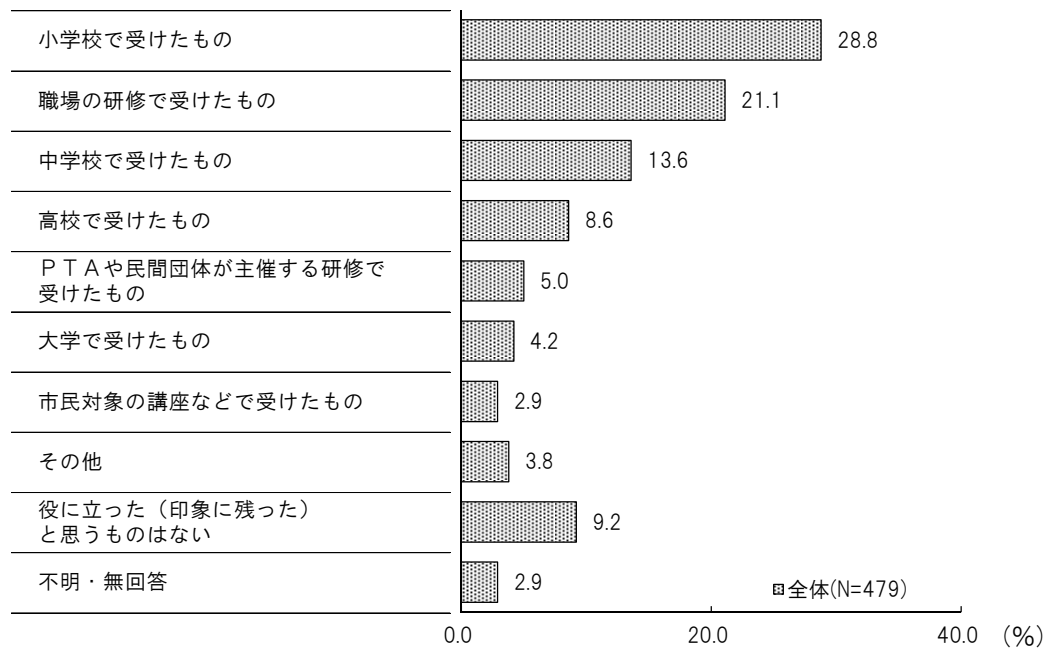
	全体 (人)	小学校で 受けた	中学校で 受けた	職場の 研修で 受けた	高校で 受けた	大学で 受けた	P T A や 民間団 体が 主催す る研修 で 受けた	市民対 象の講 座など で 受けた	その他	はつき りと覚 えてい ない	受けた ことは ない	不明・ 無回答
全体	651	41.9	35.8	26.1	23.7	10.9	9.1	6.1	2.3	16.3	9.5	0.6
性別 男性	254	37.4	32.7	37.0	19.7	8.7	5.9	6.3	2.0	15.4	11.0	-
性別 女性	383	45.7	37.9	18.8	26.6	12.5	11.5	6.3	2.6	16.4	8.9	0.8
年代別 20 歳代	57	66.7	56.1	8.8	45.6	42.1	-	-	1.8	14.0	3.5	-
30 歳代	67	77.6	65.7	19.4	35.8	17.9	-	-	-	4.5	1.5	-
40 歳代	78	71.8	52.6	26.9	25.6	15.4	10.3	2.6	5.1	9.0	5.1	-
50 歳代	127	71.7	48.8	28.3	26.0	7.1	6.3	1.6	0.8	8.7	2.4	-
60 歳代	168	11.3	16.7	32.7	20.8	6.5	13.7	11.3	3.0	23.2	14.9	1.2
70 歳代	100	6.0	13.0	21.0	8.0	2.0	14.0	12.0	3.0	28.0	21.0	-
80 歳以上	40	17.5	17.5	37.5	15.0	-	15.0	12.5	2.5	17.5	15.0	2.5

■ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成 22 年度）と比較すると、「小学校で受けた」「職場の研修で受けた」「高校で受けた」「中学校で受けた」がいずれも 10 ポイント前後多くなっており、「受けたことはない」が大阪府調査の 17.1%より 7.6 ポイント少なくなっている。



問 12 問 11 で人権問題についての学習を受けたと回答された方にお聞きします。その中で、あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った（いちばん印象に残っている）ものはどれですか。（○は1つ）



特に役に立った人権問題についての学習経験については、「小学校で受けたもの」が 28.8%で最も多く、次いで「職場の研修で受けたもの」が 21.1%、「中学校で受けたもの」が 13.6%となっている。一方、「役に立った（印象に残った）と思うものはない」は 9.2%となっている。

■ 性別・年代別

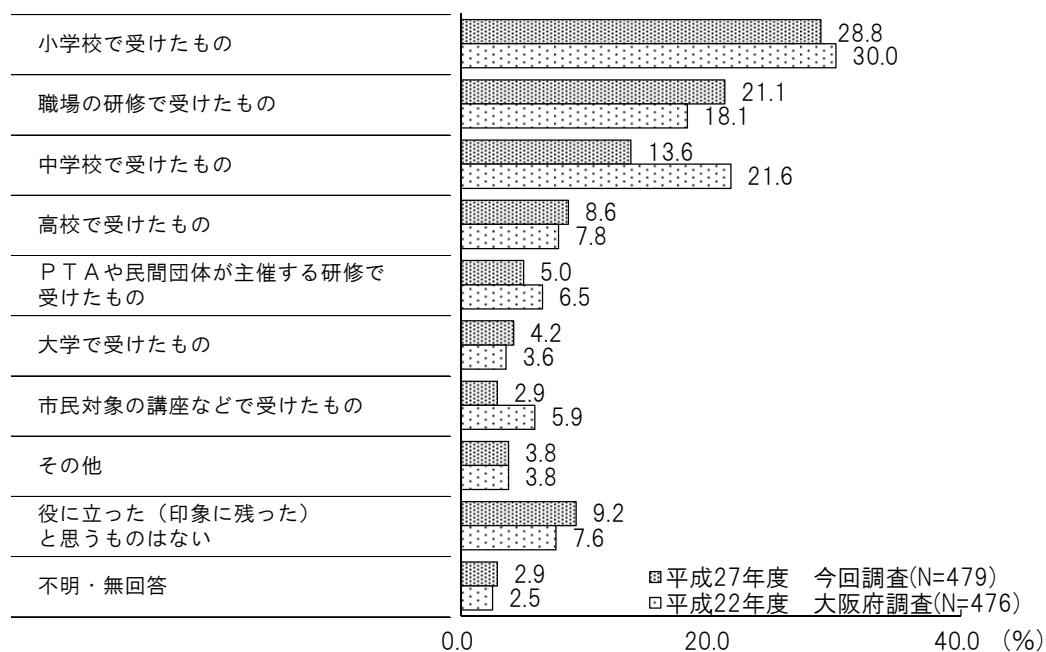
特に役に立った人権問題についての学習経験について性別にみると、男性では「職場の研修で受けたもの」が31.6%、女性では「小学校で受けたもの」が31.4%と、最も多くなっている。

年代別にみると、60歳未満の年代では「小学校で受けたもの」、60歳以上の年代では「職場の研修で受けたもの」が最も多い。

	全体 (人)	小学校で 受けたもの	職場の 研修で 受けたもの	中学校で 受けたもの	高校で 受けたもの	P T Aや民間 団体が主催する 研修で受けた もの	大学で 受けたもの	市民対象の講座 などで受けた もの	その他	役に立った（印象に 残った）と思うもの はない	不明・無回答
全体	479	28.8	21.1	13.6	8.6	5.0	4.2	2.9	3.8	9.2	2.9
性別 男性	187	25.7	31.6	12.8	3.7	2.7	3.2	3.2	3.2	12.3	1.6
性別 女性	283	31.4	13.4	13.8	11.7	6.7	4.9	2.8	4.2	7.4	3.5
年代別 20歳代	47	34.0	6.4	17.0	10.6	-	21.3	-	2.1	8.5	-
30歳代	63	39.7	9.5	22.2	7.9	-	6.3	-	-	14.3	-
40歳代	67	49.3	13.4	10.4	7.5	1.5	1.5	-	3.0	10.4	3.0
50歳代	113	44.2	18.6	12.4	5.3	1.8	0.9	-	6.2	8.0	2.7
60歳代	102	5.9	31.4	10.8	11.8	7.8	2.0	6.9	5.9	12.7	4.9
70歳代	51	7.8	31.4	7.8	7.8	17.6	3.9	11.8	3.9	3.9	3.9
80歳以上	26	7.7	42.3	15.4	11.5	15.4	-	3.8	-	-	3.8

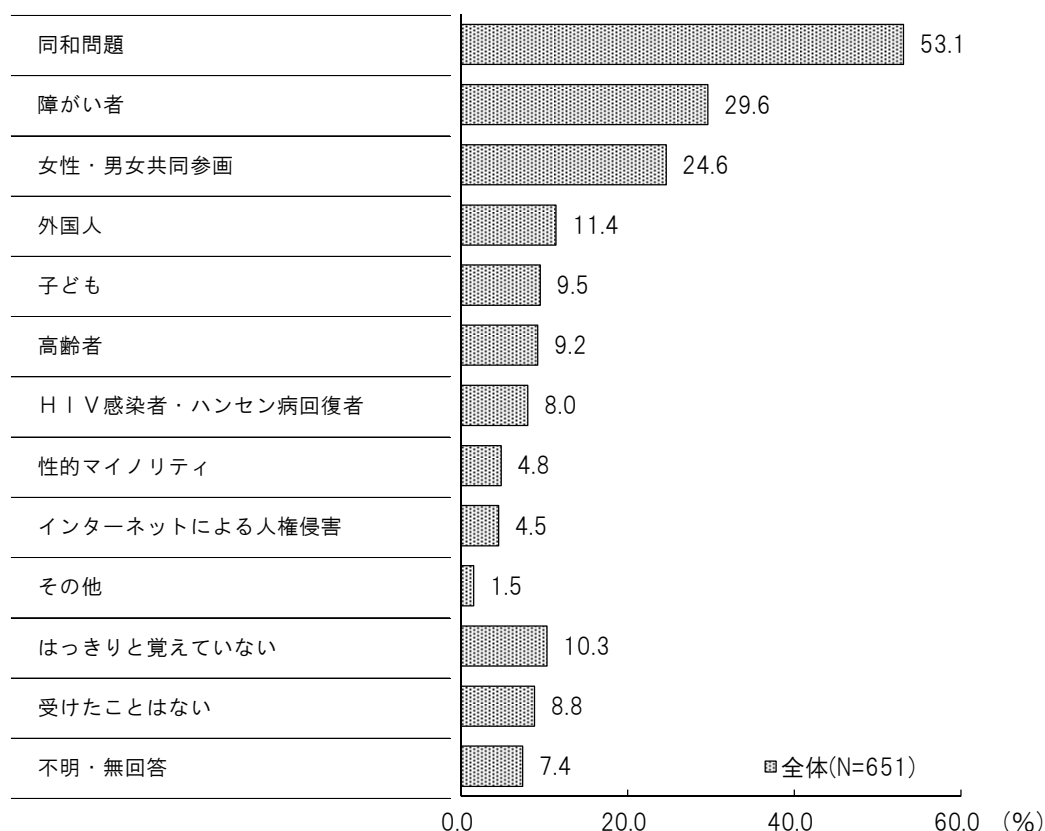
■ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成22年度）と比較すると、「中学校で受けたもの」は大阪府調査の21.6%に対し、今回調査は13.6%と8.0ポイント少なくなっている。



注） 単一回答の設問だが、大阪府調査では、複数回答が多数あったためすべて有効としている。

問 13 これまでにあなたが、学校、職場及び地域で、経験したことがある人権問題についての学習は、どのような分野についてのものでしたか。(○はいくつでも)



経験したことがある人権問題についての学習分野は、「同和問題」が 53.1%と 5 割を超えて多く、これに「障がい者」が 29.6%、「女性・男女共同参画」が 24.6%と続いている。

■ 性別・年代別

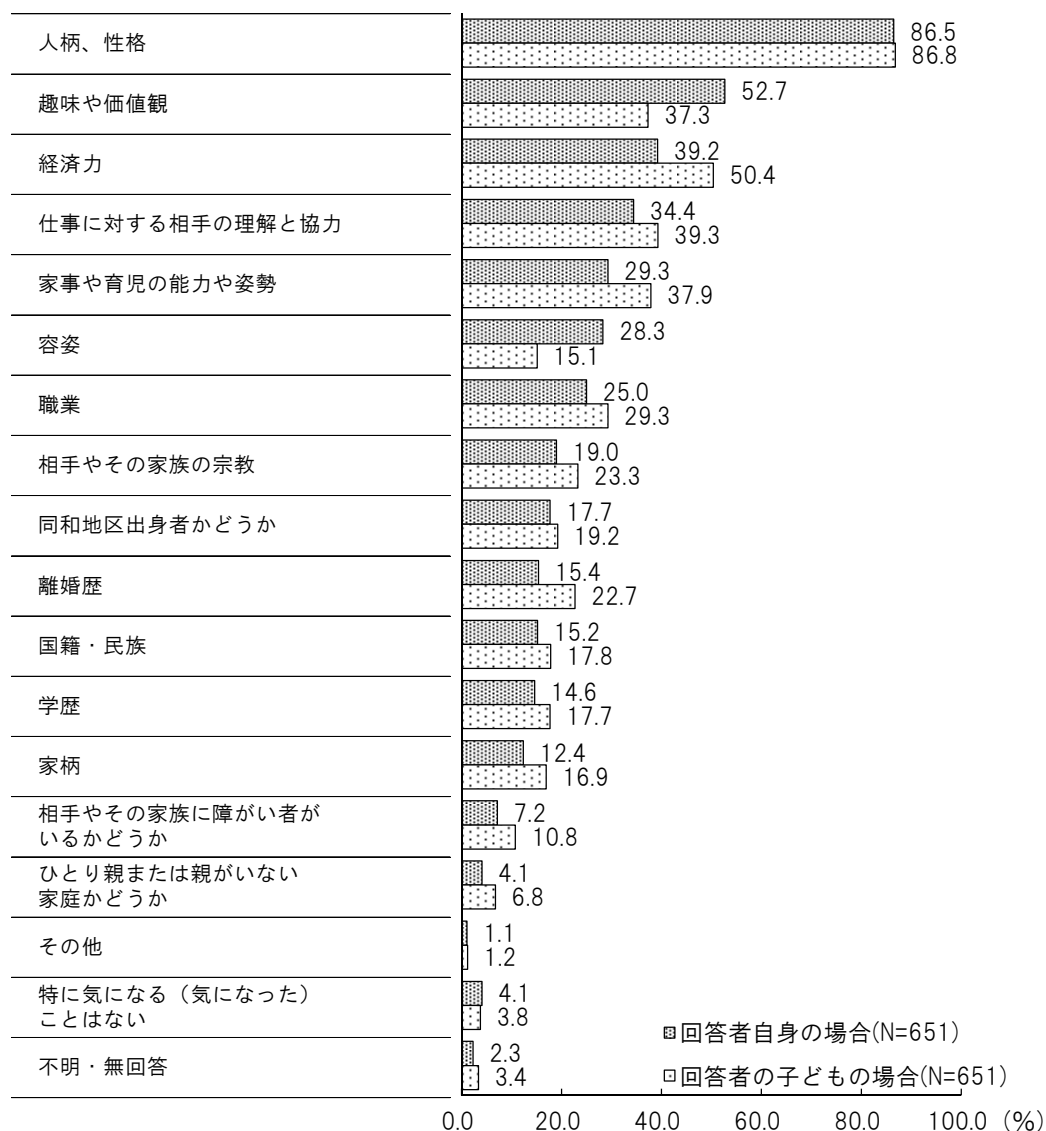
性別にみると、性別による割合の違いは小さいものの、女性では「障がい者」、男性では「女性・男女共同参画」と「はっきりと覚えていない」が全体よりもやや多くなっている。

年代別にみると、20 歳代は「障がい者」が 50.9%、「女性・男女共同参画」が 43.9%、「子ども」が 24.6%などと、多くの項目で全体よりも 10 ポイント以上多くなっているが、「同和問題」は 31.6%と全年代中最も少なくなっている。30 歳代では「女性・男女共同参画」と「障がい者」が全体よりも 10 ポイント以上多くなっている。40 歳代と 50 歳代では「同和問題」が 7 割を超えて多くなっている。

	全体 (人)	同和 問題	障が い者	女性・ 男女 共同 参画	外国 人	子ど も	高 齢 者	HIV感 染者・ ハン セン 病 回 復 者	性的 マイ ノ リ ティ	人権 侵害 ネット による	その他	は っ き り と 覚 え て い な い	受 け た こ と は な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	651	53.1	29.6	24.6	11.4	9.5	9.2	8.0	4.8	4.5	1.5	10.3	8.8	7.4
性別 男性	254	52.4	26.8	27.2	13.4	8.7	11.0	6.7	5.5	3.9	2.8	13.0	9.1	5.5
性別 女性	383	53.8	31.3	22.7	10.2	10.2	7.8	8.4	4.4	5.0	0.8	8.6	8.4	8.4
年代別 20 歳代	57	31.6	50.9	43.9	24.6	24.6	21.1	19.3	17.5	10.5	5.3	12.3	1.8	3.5
30 歳代	67	55.2	43.3	38.8	14.9	10.4	7.5	13.4	3.0	1.5	-	4.5	3.0	1.5
40 歳代	78	70.5	30.8	32.1	15.4	15.4	9.0	14.1	11.5	9.0	1.3	2.6	6.4	5.1
50 歳代	127	70.1	29.1	20.5	11.0	10.2	8.7	3.9	3.1	4.7	0.8	6.3	6.3	4.7
60 歳代	168	45.8	25.6	20.2	9.5	6.0	7.1	3.6	3.0	3.0	2.4	18.5	11.9	8.9
70 歳代	100	38.0	19.0	13.0	5.0	4.0	9.0	6.0	1.0	4.0	1.0	14.0	13.0	14.0
80 歳以上	40	60.0	17.5	17.5	5.0	2.5	7.5	2.5	-	-	-	2.5	15.0	12.5

(3) 人権問題についての考え

問 14 結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか。あなたご自身の結婚の場合と、お子さんの結婚の場合とに分け、気になる項目を選んでください。お子さんがいらっしゃらない方も、いると想定してお答えください。（○はいくつでも）



自分自身の結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）については、「人柄、性格」が最も多く 86.5%、これに「趣味や価値観」が 52.7%、「経済力」が 39.2%、「仕事に対する相手の理解と協力」が 34.4%で続いている。「同和地区出身者かどうか」については 17.7%、「国籍・民族」については 15.2%、「相手やその家族に障がい者がいるかどうか」については 7.2%となっている。

回答者の子どもの場合に気になること（なったこと）については、「人柄、性格」が最も多く 86.8%、これに「経済力」50.4%、「仕事に対する相手の理解と協力」が 39.3%で続いており、自分自身の場合と比べて、「趣味や価値観」「容姿」が少なく、「経済力」「家事や育児の能力や姿勢」「離婚歴」などが多くなっている。「同和地区出身者かどうか」については 19.2%、「国籍・民族」については 17.8%、「相手やその家族に障がい者がいるかどうか」については 10.8%となっている。

■ 性別・年代別

【回答者自身の場合】

性別にみると、「経済力」は男性の14.2%に対し、女性は56.4%と42.2ポイントの差がみられる。また、「職業」でも男性は7.9%、女性は36.8%と性別による違いが大きい。「容姿」については、男性35.4%・女性23.8%と、男性の方が11.6ポイント多くなっている。

年代別にみると、「趣味や価値観」「仕事に対する相手の理解と協力」「家事や育児の能力や姿勢」「容姿」「離婚歴」は年代が低い層で回答が多くなる傾向がみられる。これに対し「家柄」「学歴」「同和地区出身者かどうか」などは年代が高い層で回答がやや多くなる傾向がみられる。

	全体 (人)	人柄、 性格	趣味や 価値観	経済 力	仕事 に対する 相手の 理解と 協力	家事 や育児 の能力 や姿勢	容姿	職業	相手 やその 家族の 宗教	同和 地区 出身者 かどう か
全体	651	86.5	52.7	39.2	34.4	29.3	28.3	25.0	19.0	17.7
性別 男性	254	85.0	50.0	14.2	34.3	33.5	35.4	7.9	14.2	17.3
性別 女性	383	88.3	54.6	56.4	35.0	27.2	23.8	36.8	22.5	18.3
年代別 20歳代	57	86.0	64.9	49.1	57.9	63.2	36.8	26.3	26.3	14.0
30歳代	67	89.6	67.2	37.3	34.3	28.4	37.3	23.9	19.4	6.0
40歳代	78	87.2	60.3	39.7	47.4	39.7	30.8	25.6	26.9	16.7
50歳代	127	90.6	59.1	40.2	22.0	26.0	32.3	24.4	16.5	16.5
60歳代	168	91.1	51.8	41.7	33.9	25.6	25.0	28.0	17.3	20.8
70歳代	100	80.0	35.0	37.0	30.0	21.0	18.0	27.0	15.0	22.0
80歳以上	40	70.0	27.5	22.5	35.0	15.0	22.5	12.5	20.0	20.0

	全体 (人)	離婚 歴	国籍・ 民族	学歴	家柄	相手に 対する 理解と 協力が あるか どうか	ひとり 親が いない 家庭 かどう か	その他	特に 気にな る(気 になった こと はない)	不明・ 無回 答
全体	651	15.4	15.2	14.6	12.4	7.2	4.1	1.1	4.1	2.3
性別 男性	254	12.2	18.1	12.2	10.2	7.5	4.7	1.2	5.9	2.4
性別 女性	383	17.8	13.8	16.7	14.1	7.3	3.9	1.0	3.1	1.8
年代別 20歳代	57	26.3	19.3	12.3	12.3	8.8	5.3	-	5.3	1.8
30歳代	67	19.4	16.4	10.4	11.9	1.5	3.0	-	3.0	1.5
40歳代	78	21.8	11.5	14.1	11.5	6.4	7.7	1.3	3.8	1.3
50歳代	127	12.6	13.4	13.4	10.2	6.3	3.1	0.8	2.4	0.8
60歳代	168	13.1	13.7	14.3	10.7	7.7	3.0	1.8	4.2	1.8
70歳代	100	10.0	19.0	19.0	15.0	8.0	5.0	2.0	7.0	3.0
80歳以上	40	12.5	22.5	25.0	22.5	17.5	5.0	-	5.0	7.5

【回答者の子どもの場合】

子どもの結婚相手を考える際に気になること（なったこと）について回答者の性別にみると、回答者本人の場合と同様に、女性で「経済力」「職業」、男性で「容姿」が多くなる傾向がみられるが、回答者本人の場合と比較するとその違いは小さくなっている。

回答者の年代別にみると、「家事や育児の能力や姿勢」「相手やその家族の宗教」「離婚歴」は50歳未満の年代で多くなる傾向がみられる。80歳以上では「学歴」と「同和地区出身者かどうか」が3割以上となっている。

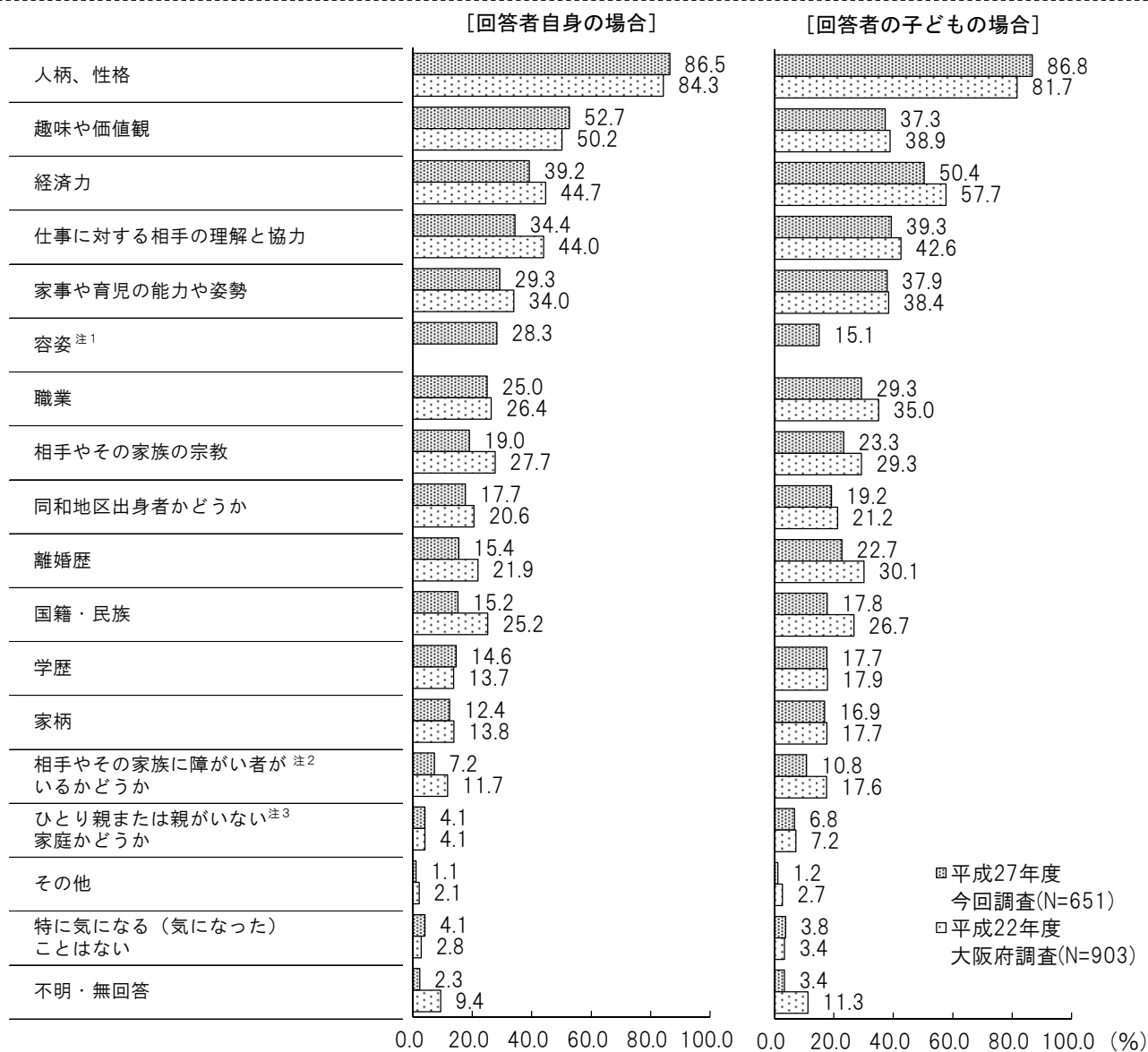
		全体 (人)	人柄、 性格	趣味や価値観	経済力	仕事に対する 相手の理解と 協力	家事や育児の 能力や姿勢	容姿	職業	相手やその 家族の宗教	同和地区 出身者かどう か
全体		651	86.8	37.3	50.4	39.3	37.9	15.1	29.3	23.3	19.2
性別	男性	254	87.0	35.0	42.1	37.4	37.0	18.9	18.9	18.9	17.3
	女性	383	86.9	38.9	56.4	41.0	38.4	12.5	36.6	26.1	20.6
年代別	20歳代	57	77.2	35.1	45.6	38.6	45.6	14.0	31.6	28.1	7.0
	30歳代	67	92.5	40.3	55.2	38.8	44.8	17.9	37.3	29.9	13.4
	40歳代	78	87.2	57.7	59.0	46.2	55.1	20.5	34.6	30.8	23.1
	50歳代	127	89.8	42.5	48.8	37.8	37.8	15.0	29.1	22.0	19.7
	60歳代	168	88.1	31.5	53.0	39.9	30.4	11.9	29.2	20.2	20.2
	70歳代	100	84.0	32.0	45.0	39.0	30.0	13.0	19.0	19.0	18.0
	80歳以上	40	85.0	20.0	40.0	40.0	32.5	20.0	30.0	17.5	30.0

	全体 (人)	離婚歴	国籍・民族	学歴	家柄	相手やその家族 に障がい者が いるかどうか	ひとり親または 親がいない家庭 かどうか	その他	特に気になる (気になった) ことはない	不明・無回答
全体	651	22.7	17.8	17.7	16.9	10.8	6.8	1.2	3.8	3.4
性別										
男性	254	20.5	17.7	15.7	13.8	9.8	6.3	1.6	6.7	2.4
女性	383	24.5	17.8	19.6	19.6	11.7	7.3	1.0	2.1	3.9
年代別										
20歳代	57	28.1	12.3	14.0	14.0	10.5	10.5	-	5.3	8.8
30歳代	67	26.9	19.4	13.4	26.9	9.0	7.5	-	1.5	4.5
40歳代	78	30.8	20.5	21.8	21.8	14.1	11.5	2.6	3.8	1.3
50歳代	127	22.8	16.5	15.7	17.3	10.2	7.9	-	2.4	3.1
60歳代	168	21.4	13.1	14.9	8.9	11.3	4.2	1.8	4.8	1.8
70歳代	100	12.0	27.0	20.0	18.0	9.0	5.0	3.0	6.0	1.0
80歳以上	40	25.0	20.0	37.5	25.0	15.0	5.0	-	2.5	10.0

■ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成 22 年度）と比較すると、回答者自身の場合は「国籍・民族」「仕事に対する相手の理解と協力」「相手やその家族の宗教」などの割合が大阪府調査よりも少なくなっている。

回答者の子どもの場合については、「国籍・民族」「離婚歴」「経済力」などが大阪府調査よりも少なくなっている。

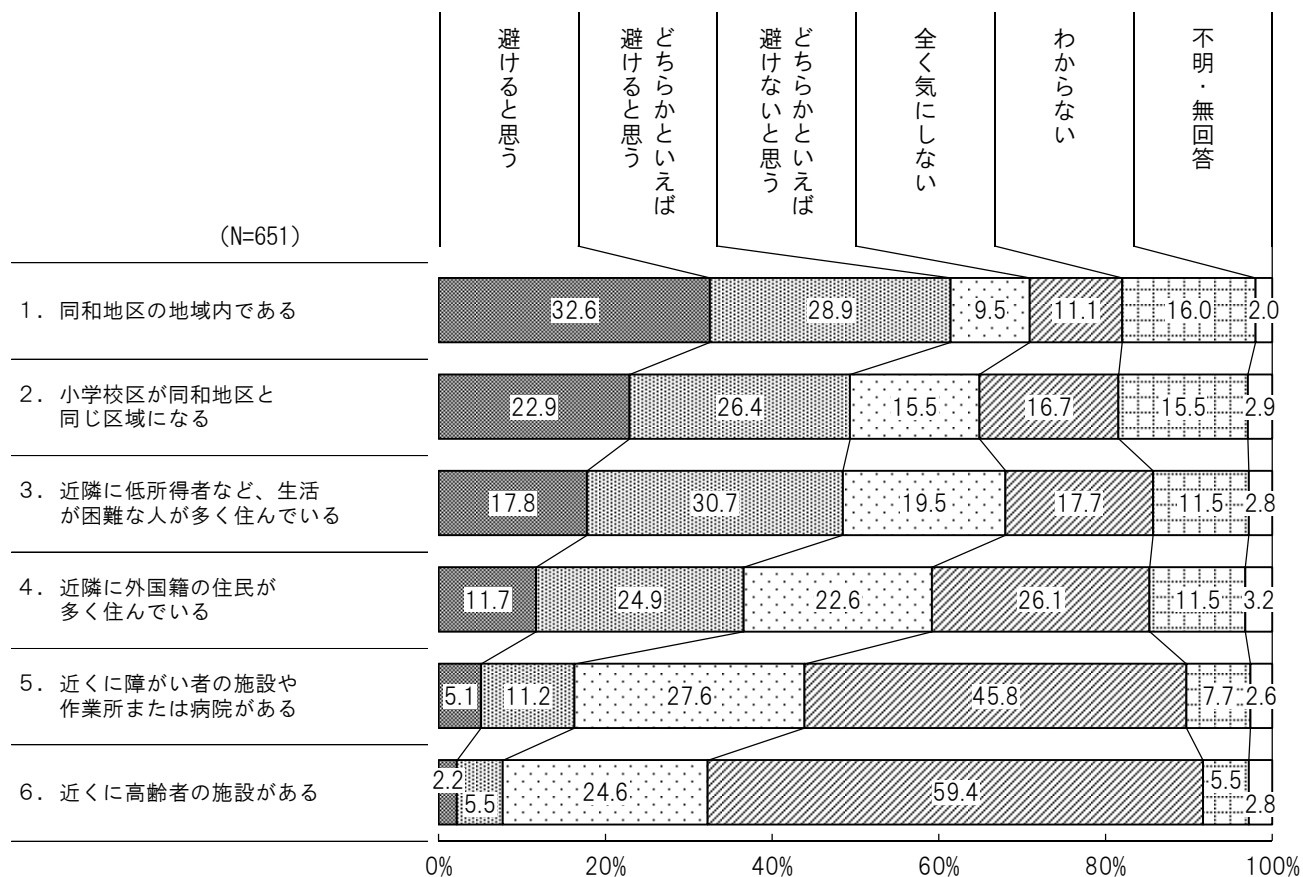


注1 今回調査のみの項目

注2 大阪府調査は「相手やその家族に障がいのある人がいるかどうか」

注3 大阪府調査は「一人親家庭かどうか」

問 15 あなたは、家を購入したり、マンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けることがあると思いますか。すべての場合についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)



住宅を選ぶ際の意識についてたずねたところ、「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」を合計した『避けると思う』は「1. 同和地区の地域内である」で 61.5%と多くなっている。『避けると思う』は「2. 小学校区が同和地区と同じ区域になる」で 49.3%、「3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」で 48.5%、「4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」で 36.6%となっている。「5. 近くに障がい者の施設や作業所または病院がある」と「6. 近くに高齢者の施設がある」では、『避けると思う』はそれぞれ 16.3%、7.7%となっており、「全く気にしない」のそれぞれ 45.8%、59.4%に対し、かなり少なくなっている。

■ 性別・年代別

『避けると思う』（「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」の合計）の割合について性別にみると、いずれの項目も男性よりも女性の方が多くなっている。

年代別にみると、20 歳代は「1. 同和地区の地域内である」「2. 小学校区が同和地区と同じ区域になる」「4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」について『避けると思う』が全体よりも 10 ポイント以上少ない一方、「5. 近くに障がい者の施設や作業所または病院がある」では 26.4%と全体よりも 10.1 ポイント多くなっている。30 歳代でも「5. 近くに障がい者の施設や作業所または病院がある」は『避けると思う』が 26.9%と比較的多い割合となっている。

30 歳代と 40 歳代、50 歳代では「3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」を『避けると思う』が 5 割以上、「4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」を『避けると思う』が 4 割以上となっている。

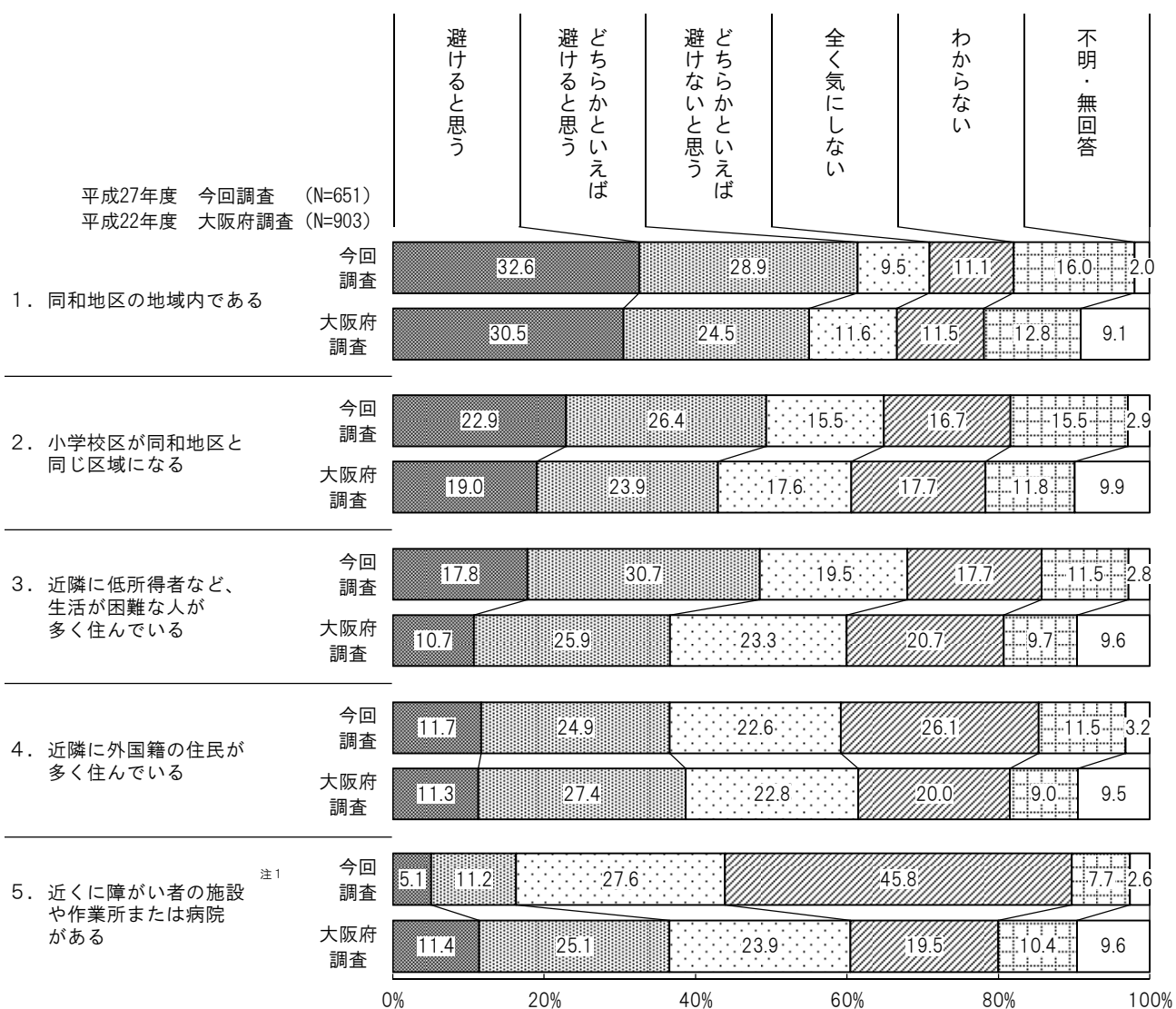
	全体 (人)	1. 同和地区の地域内である						2. 小学校区が同和地区と同じ区域になる					
		避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答
全体	651	32.6	28.9	9.5	11.1	16.0	2.0	22.9	26.4	15.5	16.7	15.5	2.9
性別 男性	254	29.5	29.9	11.0	13.8	14.6	1.2	20.1	27.6	16.1	19.7	14.2	2.4
性別 女性	383	34.2	28.7	8.6	9.4	16.7	2.3	25.1	25.3	15.4	14.9	16.2	3.1
年代別 20歳代	57	31.6	10.5	12.3	21.1	22.8	1.8	26.3	12.3	15.8	24.6	19.3	1.8
年代別 30歳代	67	25.4	38.8	9.0	7.5	19.4	-	19.4	31.3	13.4	17.9	17.9	-
年代別 40歳代	78	35.9	21.8	9.0	10.3	21.8	1.3	26.9	21.8	17.9	16.7	16.7	-
年代別 50歳代	127	40.2	29.1	5.5	9.4	14.2	1.6	26.8	29.9	13.4	13.4	14.2	2.4
年代別 60歳代	168	28.6	34.5	13.7	8.9	13.1	1.2	19.0	29.2	19.0	16.1	14.9	1.8
年代別 70歳代	100	34.0	29.0	9.0	10.0	15.0	3.0	25.0	25.0	13.0	16.0	15.0	6.0
年代別 80歳以上	40	27.5	32.5	5.0	22.5	5.0	7.5	15.0	25.0	15.0	22.5	10.0	12.5

	全体 (人)	3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる						4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる					
		避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答
全体	651	17.8	30.7	19.5	17.7	11.5	2.8	11.7	24.9	22.6	26.1	11.5	3.2
性別 男性	254	16.1	27.2	24.8	19.7	9.4	2.8	9.1	26.4	21.3	30.3	10.2	2.8
性別 女性	383	18.8	33.4	16.2	16.4	12.5	2.6	13.8	24.3	23.2	23.0	12.3	3.4
年代別 20歳代	57	14.0	33.3	22.8	15.8	12.3	1.8	8.8	15.8	26.3	36.8	10.5	1.8
年代別 30歳代	67	19.4	40.3	13.4	16.4	10.4	-	16.4	25.4	28.4	22.4	7.5	-
年代別 40歳代	78	28.2	34.6	16.7	12.8	7.7	-	11.5	33.3	17.9	21.8	15.4	-
年代別 50歳代	127	23.6	29.1	17.3	12.6	14.2	3.1	17.3	24.4	17.3	18.9	18.1	3.9
年代別 60歳代	168	12.5	25.6	26.8	21.4	11.9	1.8	8.9	23.8	28.0	28.0	9.5	1.8
年代別 70歳代	100	11.0	36.0	18.0	18.0	12.0	5.0	8.0	28.0	20.0	27.0	11.0	6.0
年代別 80歳以上	40	17.5	20.0	12.5	32.5	7.5	10.0	12.5	25.0	10.0	37.5	2.5	12.5

	全体 (人)	5. 近くに障がい者の施設や作業所または病院がある						6. 近くに高齢者の施設がある					
		避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	全く気にしない	わからない	不明・無回答
全体	651	5.1	11.2	27.6	45.8	7.7	2.6	2.2	5.5	24.6	59.4	5.5	2.8
性別 男性	254	5.9	9.4	27.6	46.1	8.3	2.8	2.8	4.3	25.2	58.3	6.7	2.8
性別 女性	383	4.7	12.5	26.9	46.2	7.3	2.3	1.8	6.5	23.5	60.8	4.7	2.6
年代別 20歳代	57	5.3	21.1	17.5	40.4	14.0	1.8	3.5	5.3	19.3	59.6	10.5	1.8
年代別 30歳代	67	6.0	20.9	28.4	38.8	6.0	-	1.5	14.9	22.4	55.2	6.0	-
年代別 40歳代	78	7.7	7.7	30.8	46.2	7.7	-	5.1	5.1	23.1	62.8	3.8	-
年代別 50歳代	127	6.3	11.0	30.7	38.6	10.2	3.1	3.1	7.1	28.3	49.6	8.7	3.1
年代別 60歳代	168	2.4	7.7	32.7	50.0	5.4	1.8	-	4.2	26.8	63.7	3.6	1.8
年代別 70歳代	100	5.0	9.0	24.0	53.0	5.0	4.0	1.0	1.0	26.0	65.0	3.0	4.0
年代別 80歳以上	40	7.5	10.0	10.0	57.5	5.0	10.0	5.0	5.0	12.5	62.5	2.5	12.5

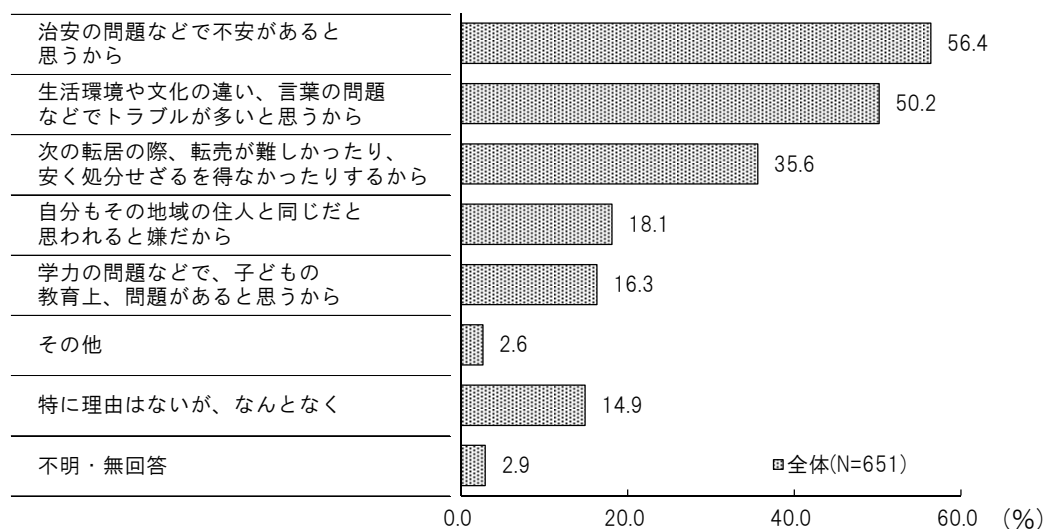
■ 大阪府調査との比較

住宅を選ぶ際の意識について大阪府調査（平成 22 年度）と比較すると、「1. 同和地区の地域内である」、「2. 小学校区が同和地区と同じ区域になる」「3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」ではいずれも、『避けると思う』が大阪府調査よりも多く、「どちらかといえば避けないと思う」、「全く気にしない」が少なくなっている。「4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」は、大阪府調査よりも「まったく気にしない」が多くなっている。



注1 大阪府調査は「近くに精神科病院や障がい者施設がある」

問 16 問 15 のような場合に、住宅の購入や入居を避ける人がいるのはなぜだと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)



問 15 のような場合に、住宅の購入や入居を避ける人がいる理由については、「治安の問題などで不安があると思うから」と「生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから」がともに5割を超えて多く、これに「次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから」が35.6%で続いている。

■ 性別・年代別

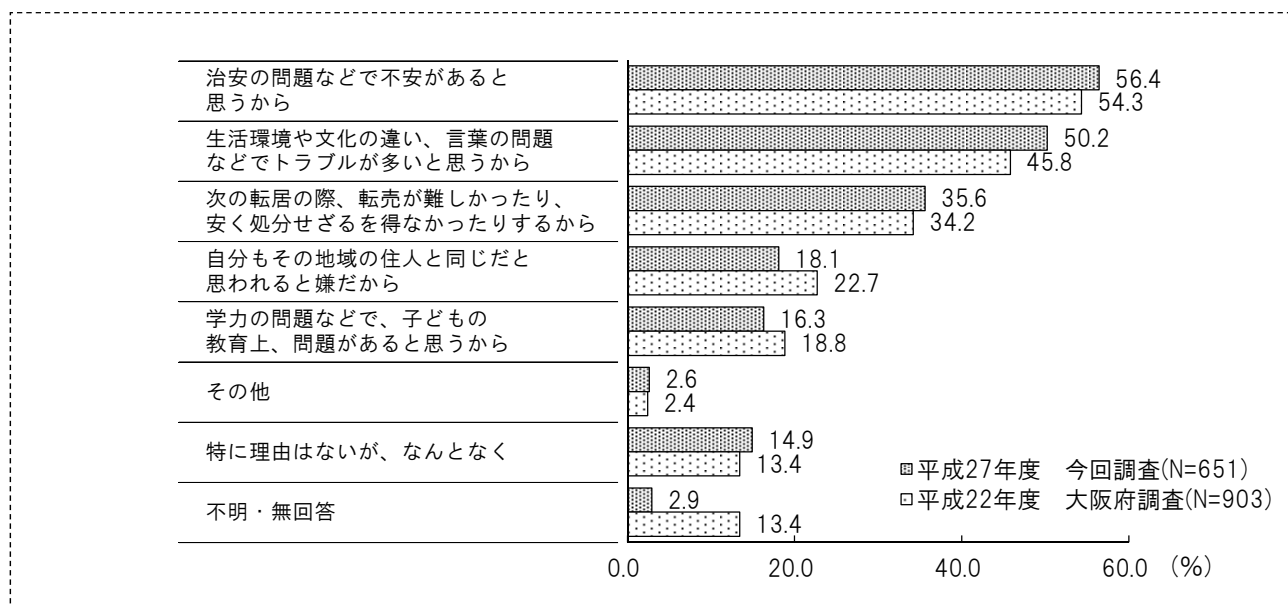
問 15 のような場合に、住宅の購入や入居を避ける人がいる理由について性別にみると、男性では「生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから」、女性では「治安の問題などで不安があると思うから」が最も多くなっている。

年代別にみると、60 歳代と 80 歳以上をのぞいた年代では「治安の問題などで不安があると思うから」が最も多く、50 歳未満の年代では 7 割を超えている。60 歳代と 80 歳以上では、「生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから」が最も多くなっている。

	全体 (人)	治安の問題などで不安がある と思うから	生活環境や文化の違い、 言葉の問題などでトラブル が多いと思うから	次の転居の際、転売が難し かったり、安く処分せざるを 得なかったりするから	自分もその地域の住人と 同じだと思われると嫌だ から	学力の問題などで、 子どもの教育上、問題が あると思うから	その他	特に理由はないが、 なんとなく	不明・無回答
全体	651	56.4	50.2	35.6	18.1	16.3	2.6	14.9	2.9
性別 男性	254	50.4	52.0	39.4	20.5	15.4	2.4	16.5	3.5
性別 女性	383	61.9	49.6	32.9	16.4	17.5	2.6	13.6	2.3
年代別 20 歳代	57	75.4	42.1	28.1	21.1	12.3	1.8	12.3	3.5
30 歳代	67	79.1	52.2	26.9	14.9	20.9	3.0	4.5	-
40 歳代	78	73.1	62.8	41.0	15.4	20.5	3.8	3.8	-
50 歳代	127	64.6	51.2	35.4	12.6	13.4	3.1	9.4	2.4
60 歳代	168	39.9	52.4	37.5	20.2	16.1	2.4	17.9	1.8
70 歳代	100	42.0	40.0	36.0	19.0	18.0	3.0	32.0	4.0
80 歳以上	40	47.5	50.0	45.0	25.0	17.5	-	17.5	15.0

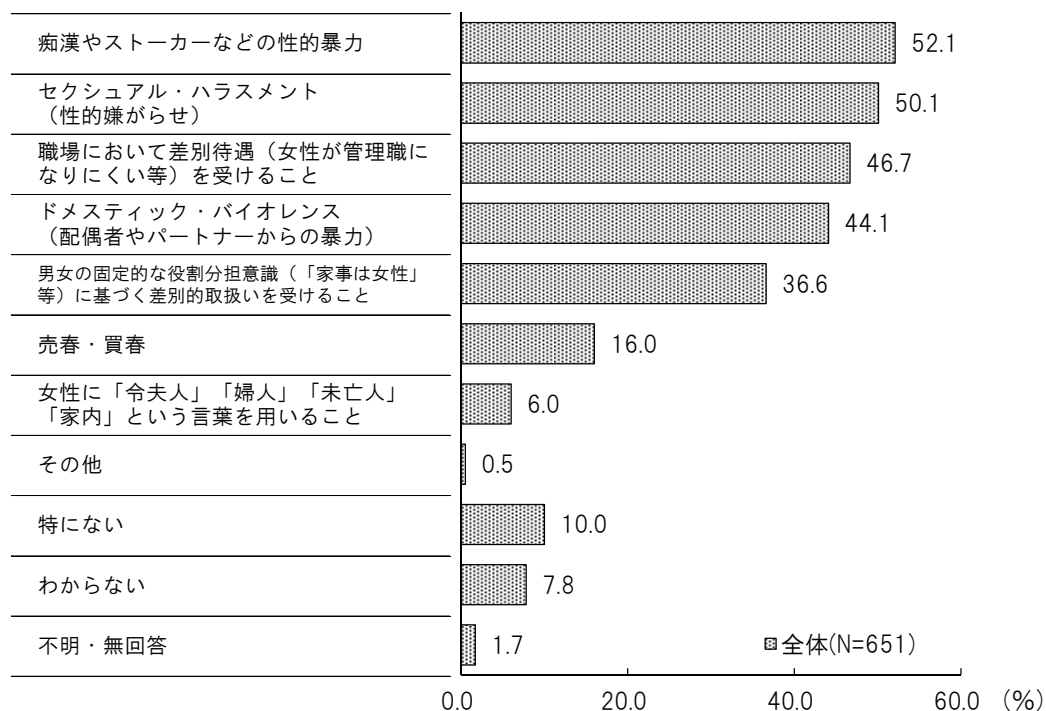
■ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成 22 年度）と比較すると、「治安の問題などで不安があると思うから」「生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから」「次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから」「特に理由はないが、なんとなく」が、大阪府調査よりもわずかに多くなっている。



(4) さまざまな人権問題について

問 17 あなたは、女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



女性に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「痴漢やストーカーなどの性的暴力」が最も多く 52.1%、次いで「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」が 50.1%、「職場において差別待遇 (女性が管理職になりにくい等) を受けること」が 46.7%、「ドメスティック・バイオレンス (配偶者やパートナーからの暴力)」が 44.1%、「男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等) に基づく差別的取扱いを受けること」が 36.6%となっている。

一方、「特にない」は 10.0%となっている。

■ 性別・年代別

性別にみると、「ドメスティック・バイオレンス (配偶者やパートナーからの暴力)」は男性 38.2%・女性 48.3%、「男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等) に基づく差別的取扱いを受けること」は男性 28.7%・女性 41.5%となっており、それぞれ 10.1 ポイント、12.8 ポイントずつ女性の方が多くなっている。「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」は男性 52.0%・女性 48.8%と男性の方が 3.2 ポイント多く、女性では「痴漢やストーカーなどの性的暴力」、男性では「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」が最も多くなっている。

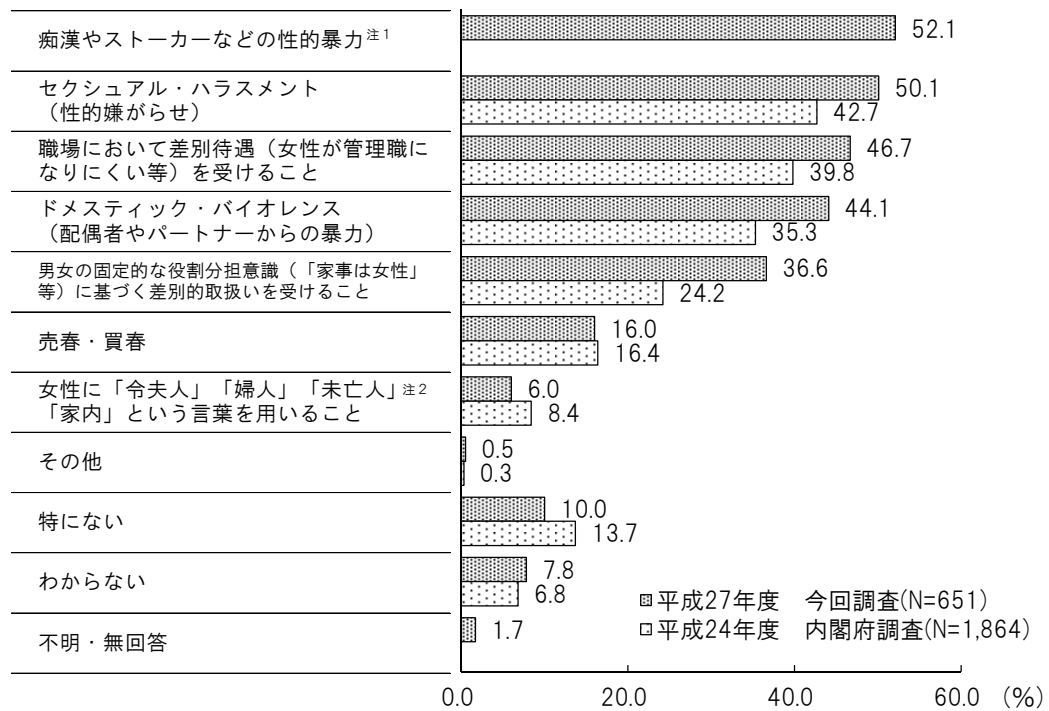
年代別にみると、20 歳代では「痴漢やストーカーなどの性的暴力」「職場において差別待遇 (女性が管理職になりにくい等) を受けること」「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」「男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等) に基づく差別的取扱いを受けること」がいずれも 6 割前後と多くなっている。30 歳代は「痴漢やストーカーなどの性的暴力」と「セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)」がともに 58.2%で最も多い。40 歳代では「職場において差別待遇 (女性が管理職になりにくい等) を受けること」が 56.4%で最も多くなっている。

70 歳代と 80 歳以上では、「特にない」が比較的多く、それぞれ 17.0%、25.0%となっている。

	全体 (人)	痴漢やストーカーなどの 性的暴力	セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	職場において差別待遇(女性が 管理職になりにくい等)を 受けること	暴力) ドメスティック・バイオレンス (配偶者やパートナーからの	男女の固定的な役割分担意識 (「家事は女性」等)に基づく 差別的取扱いを受けること	売春・買春	女性に「令夫人」「婦人」 「未亡人」「家内」という 言葉を用いること	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体	651	52.1	50.1	46.7	44.1	36.6	16.0	6.0	0.5	10.0	7.8	1.7
性別 男性	254	49.6	52.0	45.3	38.2	28.7	11.8	3.9	-	11.0	7.1	1.2
女性	383	53.8	48.8	47.3	48.3	41.5	19.1	7.3	0.8	9.1	8.1	1.8
年代別 20歳代	57	63.2	59.6	63.2	52.6	59.6	31.6	5.3	1.8	7.0	3.5	3.5
30歳代	67	58.2	58.2	46.3	44.8	44.8	11.9	7.5	1.5	4.5	7.5	-
40歳代	78	53.8	55.1	56.4	52.6	35.9	20.5	7.7	1.3	6.4	6.4	-
50歳代	127	55.9	52.8	44.9	44.1	34.6	14.2	5.5	-	5.5	5.5	1.6
60歳代	168	51.8	49.4	47.6	45.2	33.9	14.9	4.8	-	10.7	8.3	1.2
70歳代	100	43.0	40.0	39.0	34.0	30.0	9.0	7.0	-	17.0	12.0	-
80歳以上	40	35.0	30.0	25.0	32.5	25.0	20.0	7.5	-	25.0	10.0	10.0

■ 全国調査との比較

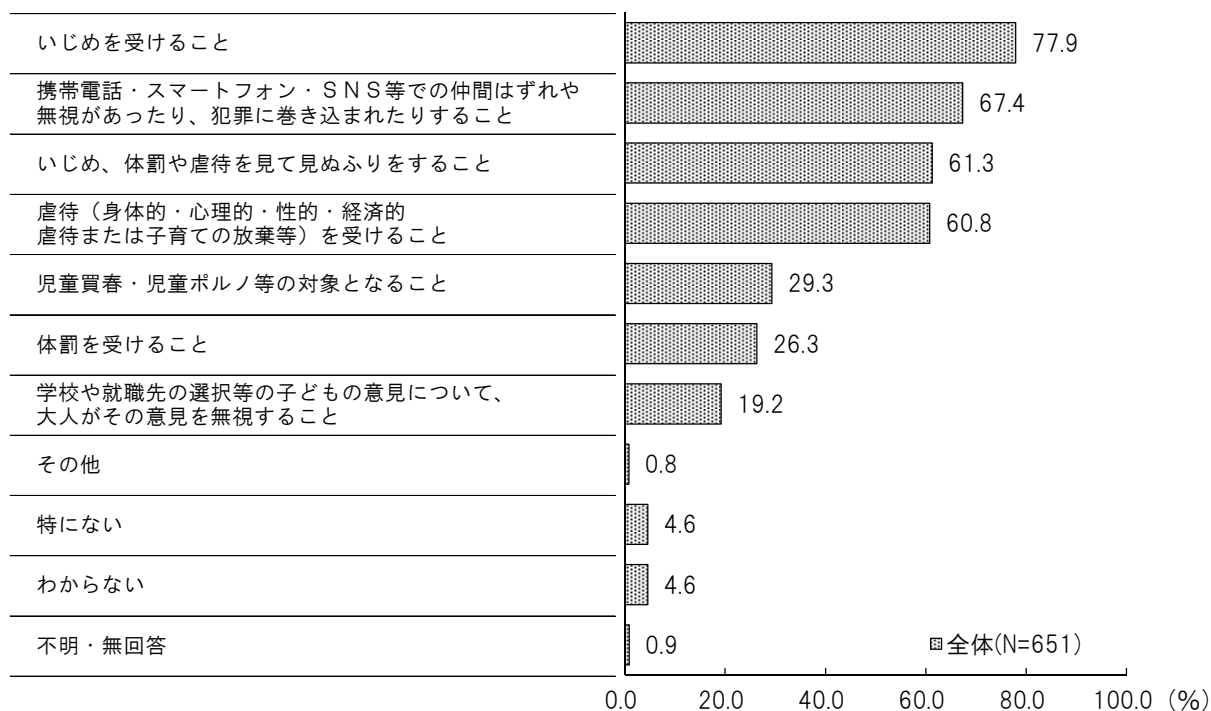
内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい等）を受けること」「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取扱いを受けること」はいずれも内閣府調査より多くなっている。



注1 今回調査のみの項目

注2 内閣府調査は、「「令夫人」「婦人」「未亡人」「家内」のように女性に用いられる言葉が使われること」

問 18 あなたは、子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とする、コミュニティ型のサービス

子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「いじめを受けること」が77.9%と多く、他に「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」(67.4%)、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする」(61.3%)、「虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること」(60.8%)が、いずれも6割を超えて多くなっている。

■ 性別・年代別

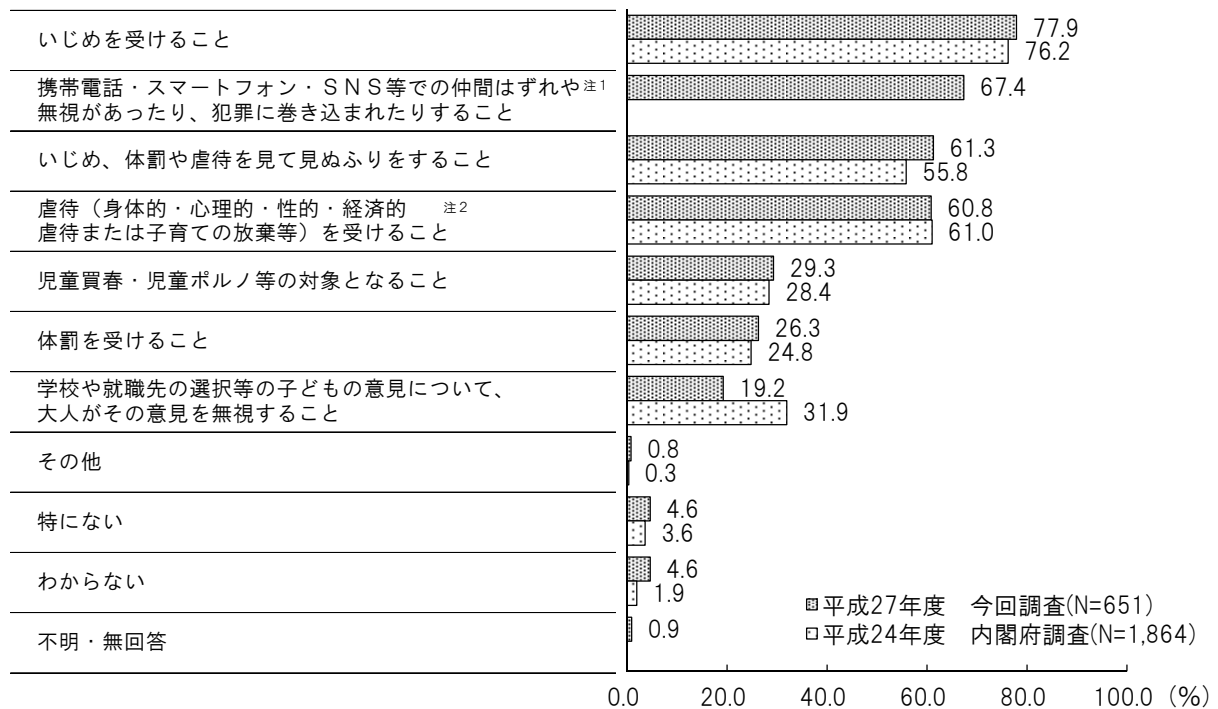
性別にみると、「その他」を除いたすべての人権問題について女性の方が男性よりも多くなっており、「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」では9.7ポイント差、「虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること」では9.3ポイント差と、差が大きくなっている。

年代別にみると、「いじめを受けること」はいずれの年代でも最も多くなっているが、特に20歳代で89.5%と多くなっている。20歳代はまた、「虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること」が78.9%と多く、「児童買春・児童ポルノ等の対象となること」や「学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を見無視すること」「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする」も他の年代より割合が多くなっている。30歳代、40歳代、50歳代では、「いじめを受けること」に次いで、「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」「虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること」の割合が多くなっている。

	全体 (人)	いじめを受けること	携帯電話・スマートフォン・SNS等 での仲間はすれや無視があったり、 犯罪に巻き込まれたりすること	いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふり をすること	虐待(身体的・心理的・性的・経済的 虐待または子育ての放棄等)を受ける こと	児童買春・児童ポルノ等の対象 となること	体罰を受けること	学校や就職先の選択等の子どもの 意見について、大人がその意見を 無視すること	その他	特 に な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	651	77.9	67.4	61.3	60.8	29.3	26.3	19.2	0.8	4.6	4.6	0.9
性別 男性	254	77.2	61.8	58.7	55.5	25.6	22.4	18.5	0.8	5.1	3.9	0.4
性別 女性	383	78.9	71.5	63.4	64.8	31.9	28.7	20.1	0.8	3.9	5.0	0.8
年代別 20歳代	57	89.5	70.2	70.2	78.9	42.1	35.1	36.8	-	1.8	-	-
30歳代	67	79.1	73.1	59.7	71.6	31.3	25.4	22.4	1.5	1.5	1.5	-
40歳代	78	80.8	75.6	61.5	65.4	28.2	25.6	19.2	1.3	2.6	1.3	-
50歳代	127	78.7	78.0	63.0	63.0	32.3	26.8	17.3	0.8	1.6	2.4	1.6
60歳代	168	77.4	62.5	61.9	54.2	26.2	25.0	13.7	0.6	6.0	7.7	0.6
70歳代	100	72.0	58.0	61.0	54.0	25.0	25.0	15.0	-	9.0	7.0	1.0
80歳以上	40	67.5	47.5	42.5	47.5	27.5	25.0	27.5	2.5	10.0	10.0	2.5

■ 全国調査との比較

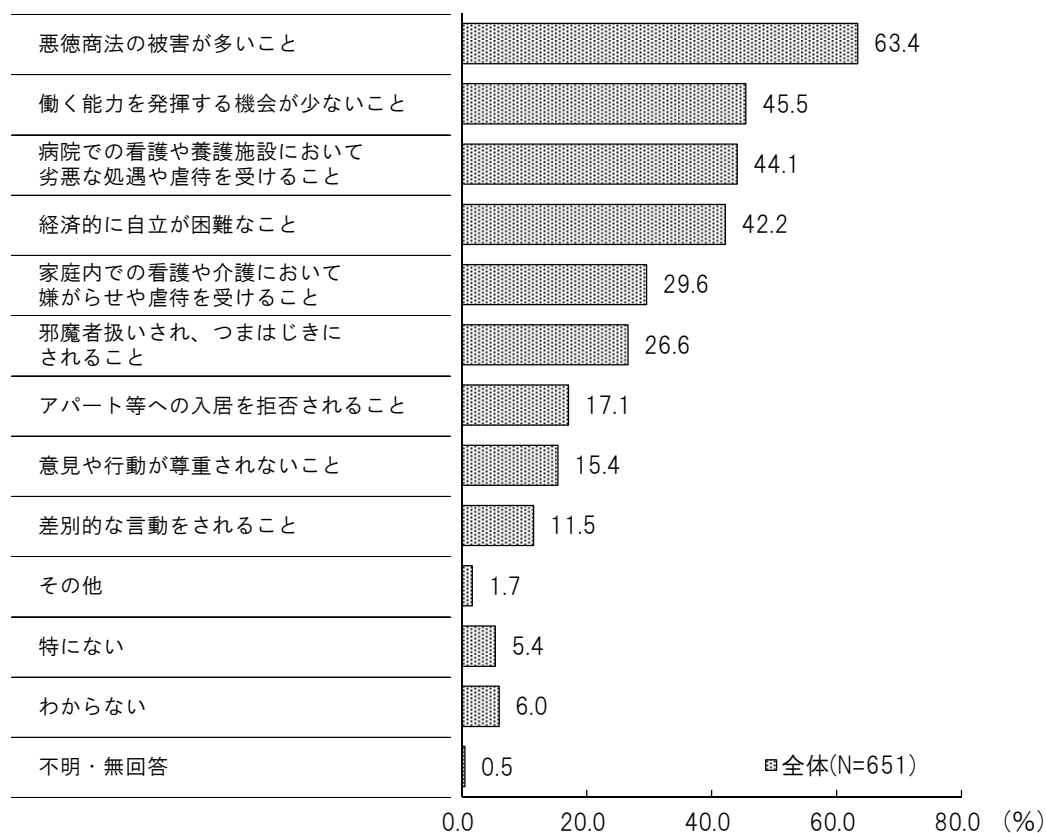
内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする事」は内閣府調査の55.8%に対し、今回調査は61.3%と5.5ポイント多くなっている。「学校や就職先の選択等の子どもの意見について、大人がその意見を無視すること」は、内閣府調査の31.9%に対し、今回調査は19.2%と12.7ポイント少なくなっている。



注1 今回調査のみの項目

注2 内閣府調査は「虐待を受けること」

問 19 あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「悪徳商法の被害が多いこと」が63.4%で最も多く、次いで、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」(45.5%)、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」(44.1%)、「経済的に自立が困難なこと」(42.2%)が4割台となっている。

■ 性別・年代別

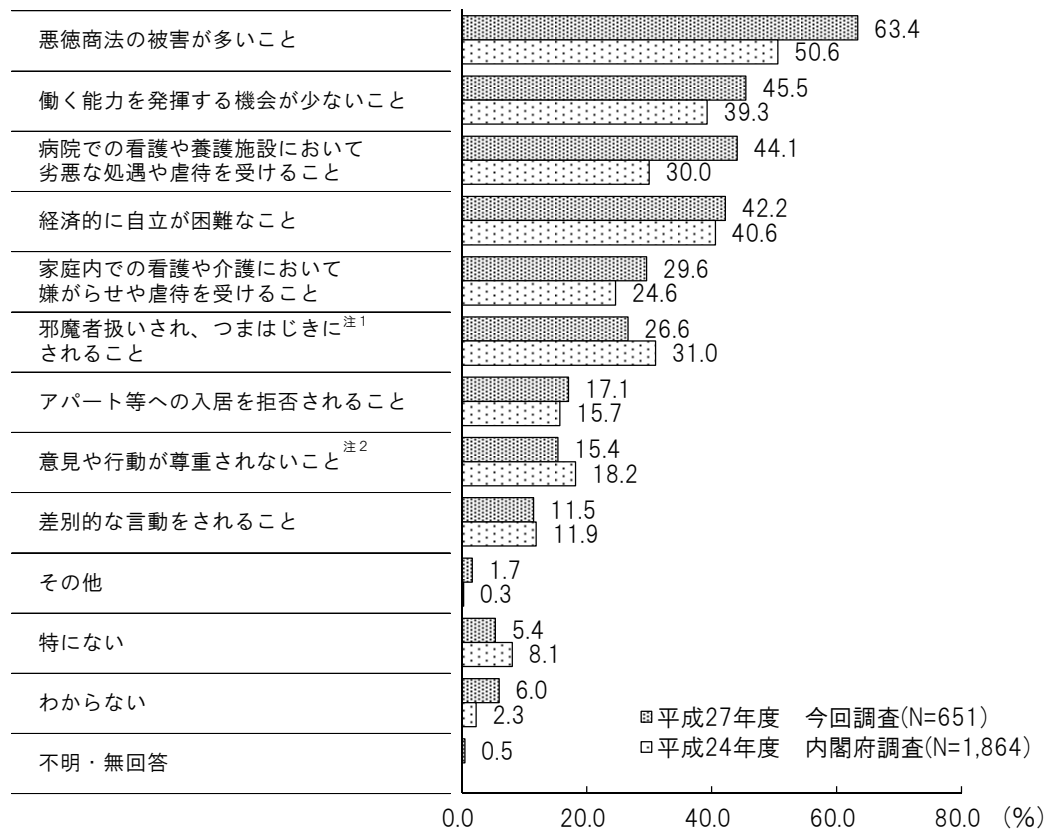
性別にみると、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」以外の人権問題の割合は、女性の方が男性よりも多くなっており、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」「経済的に自立が困難なこと」「悪徳商法の被害が多いこと」でその差が大きい。

年代別にみると、いずれの年代でも「悪徳商法の被害が多いこと」が最も多く、これに、60歳未満の年代では「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」、60歳以上の年代では「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が続いている。80歳以上では「特にない」が17.5%とやや多くなっている。

	全体 (人)	悪徳商法の被害が多いこと	働く能力を発揮する機会が 少ないこと	病院での看護や養護施設に おいて劣悪な処遇や虐待を 受けること	経済的に自立が困難なこと	家庭内での看護や介護に おいて嫌がらせや虐待を 受けること	邪魔者扱いされ、 つまはじきにされること	アパート等への入居を 拒否されること	意見や行動が尊重 されないこと	差別的な言動をされること	その他	特にな い	わから ない	不明・無 回答
全体	651	63.4	45.5	44.1	42.2	29.6	26.6	17.1	15.4	11.5	1.7	5.4	6.0	0.5
性別 男性	254	57.9	45.3	34.6	35.0	20.9	24.0	14.6	13.4	9.8	2.4	5.9	8.3	-
女性	383	67.4	45.2	50.4	46.0	35.8	28.5	18.8	17.0	12.8	1.3	4.7	4.7	0.5
年代別 20歳代	57	68.4	43.9	54.4	38.6	50.9	43.9	24.6	15.8	17.5	-	1.8	8.8	-
30歳代	67	62.7	34.3	46.3	44.8	43.3	17.9	4.5	10.4	13.4	-	4.5	3.0	-
40歳代	78	67.9	42.3	57.7	41.0	35.9	28.2	14.1	6.4	7.7	3.8	3.8	6.4	-
50歳代	127	65.4	45.7	53.5	42.5	28.3	26.8	20.5	15.0	11.0	1.6	2.4	5.5	0.8
60歳代	168	61.3	54.2	36.9	45.2	19.0	25.6	16.1	17.9	8.3	1.8	4.8	6.5	-
70歳代	100	62.0	44.0	34.0	40.0	25.0	21.0	21.0	23.0	16.0	2.0	9.0	7.0	-
80歳以上	40	52.5	37.5	25.0	27.5	27.5	32.5	20.0	15.0	12.5	2.5	17.5	5.0	2.5

■ 全国調査との比較

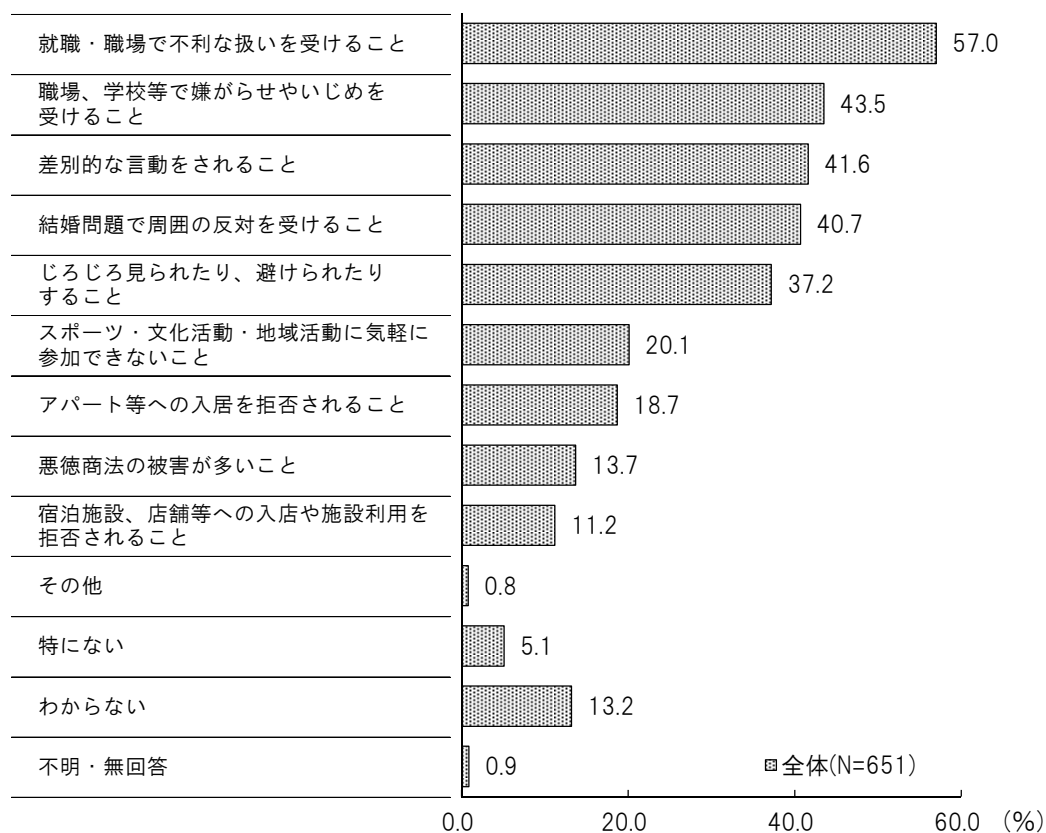
内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」では14.1ポイント、「悪徳商法の被害が多いこと」では12.8ポイント、「働く能力を発揮する機会が少ないこと」では6.2ポイント、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること」では5.0ポイント、内閣府調査よりも多くなっている。



注1 内閣府調査は「高齢者が邪魔者扱いされ、つまはじきにされること」

注2 内閣府調査は「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」

問 20 あなたは、障がい者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



障がい者に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 57.0% で最も多く、これに「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が 43.5%、「差別的な言動をされること」が 41.6%、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が 40.7%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が 37.2% で続いている。

■ 性別・年代別

性別にみると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は 8.8 ポイント、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」は 8.7 ポイント、女性の方が男性よりもそれぞれ多く、「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」は男性の方が 6.2 ポイント多くなっている。

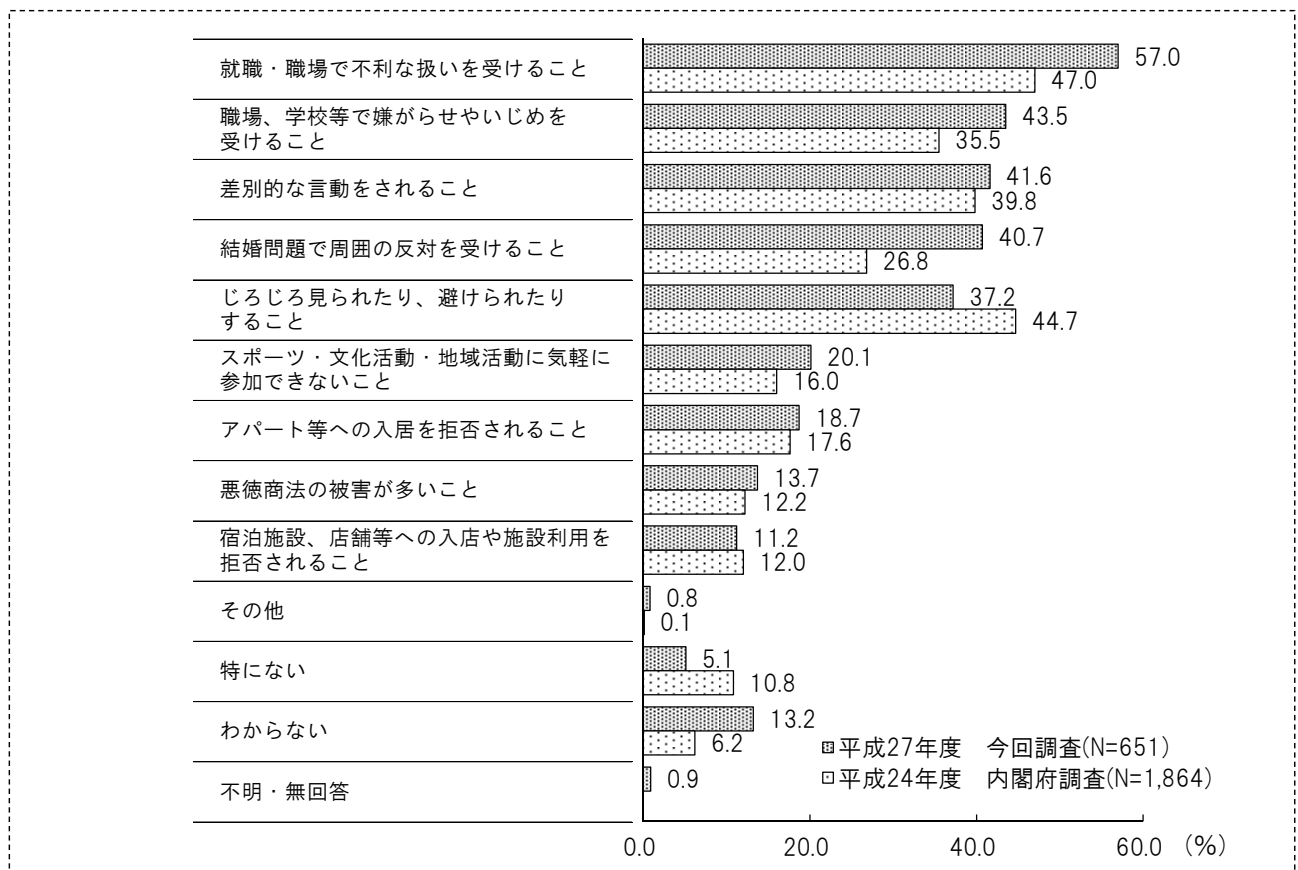
年代別にみると、20 歳代と 30 歳代では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が最も多く、以下「就職・職場で不利な扱いを受けること」「差別的な言動をされること」の順となっており、いずれも 5 割を超えている。40 歳代と 50 歳代では「就職・職場で不利な扱いを受けること」が約 6 割で最も多く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が 4 割台となっている。60 歳以上の年代では「就職・職場で不利な扱いを受けること」に次いで「結婚問題で周囲の反対を受けること」が多い。

	全体（人）	就職・職場で不利な扱いを受けること	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	差別的な言動をされること	結婚問題で周囲の反対を受けること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと	アパート等への入居を拒否されること	悪徳商法の被害が多いこと	宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体	651	57.0	43.5	41.6	40.7	37.2	20.1	18.7	13.7	11.2	0.8	5.1	13.2	0.9
性別 男性	254	53.9	38.6	38.6	37.0	31.9	24.0	16.1	13.0	9.8	1.2	5.1	12.6	－
性別 女性	383	58.7	47.3	43.9	42.8	40.7	17.8	20.6	14.1	12.0	0.5	5.0	13.8	1.3
年代別 20歳代	57	68.4	71.9	66.7	49.1	61.4	21.1	22.8	24.6	15.8	－	3.5	3.5	1.8
30歳代	67	56.7	59.7	55.2	43.3	44.8	14.9	25.4	7.5	14.9	－	4.5	11.9	－
40歳代	78	60.3	44.9	42.3	41.0	41.0	19.2	15.4	12.8	11.5	2.6	3.8	9.0	1.3
50歳代	127	59.8	41.7	36.2	33.9	28.3	17.3	13.4	8.7	10.2	－	2.4	15.0	0.8
60歳代	168	58.3	36.9	39.3	43.5	36.3	22.0	19.0	11.3	9.5	0.6	5.4	13.7	－
70歳代	100	49.0	37.0	38.0	41.0	31.0	25.0	19.0	18.0	11.0	2.0	9.0	17.0	－
80歳以上	40	37.5	25.0	20.0	30.0	25.0	17.5	22.5	22.5	7.5	－	7.5	25.0	5.0

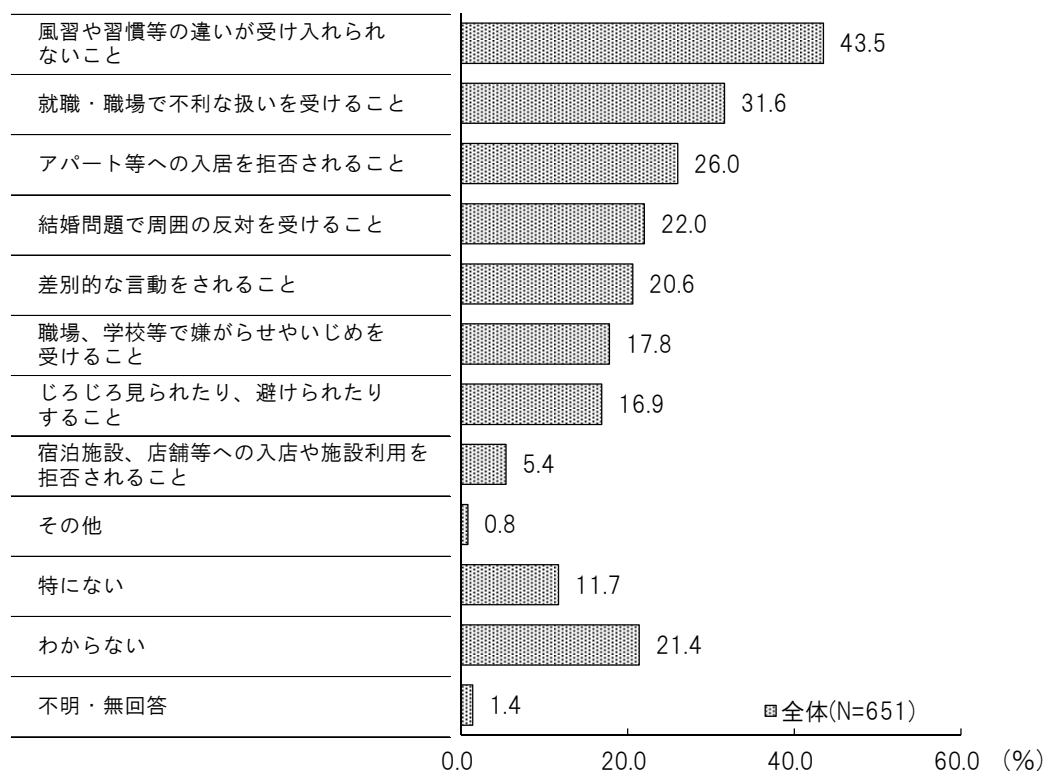
■ 全国調査との比較

内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「結婚問題で周囲の反対を受けること」で13.9ポイント、「就職・職場で不利な扱いを受けること」で10.0ポイント、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」で8.0ポイント、それぞれ内閣府調査よりも多くなっている。内閣府調査では「就職・職場で不利な扱いを受けること」に次いで多い「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が今回調査では37.2%と、内閣府調査より7.5ポイント少なくなっている。

「特にない」は内閣府調査の10.8%に対して、今回調査は5.1%と少なくなっている。一方、「わからない」は内閣府調査の6.2%よりも7.0ポイント多い13.2%となっている。



問 21 あなたは、日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が 43.5%で最も多く、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(31.6%)、「アパート等への入居を拒否されること」(26.0%)、「結婚問題で周囲の反対を受けること」(22.0%)、「差別的な言動をされること」(20.6%)が2～3割程度となっている。

「特にない」は 11.7%、「わからない」は 21.4%となっている。

■ 性別・年代別

性別にみると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は男性の 12.6%に対し、女性は 19.3%と 6.7 ポイント多くなっている。

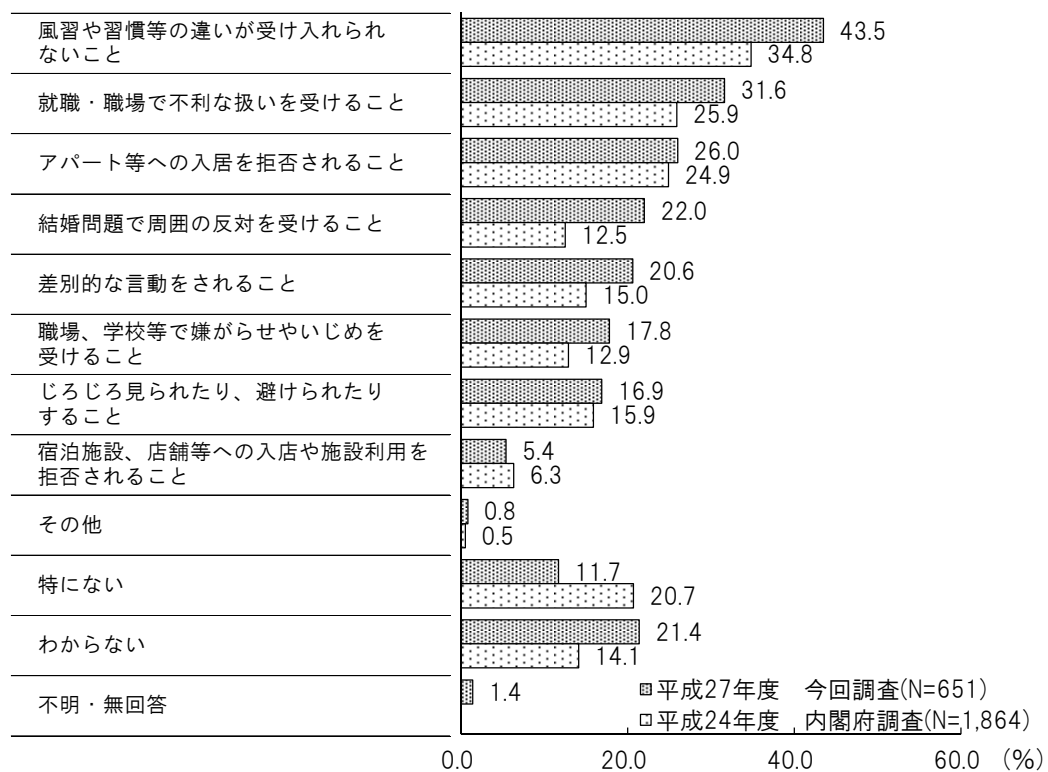
年代別にみると、いずれの年代でも「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」で最も多くなっている。20 歳代と 30 歳代では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」「差別的な言動をされること」「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が他の年代よりも多くなっている。

「わからない」はいずれの年代でも 1 割を超えているが、70 歳代と 80 歳以上で約 3 割と比較的多い割合となっている。

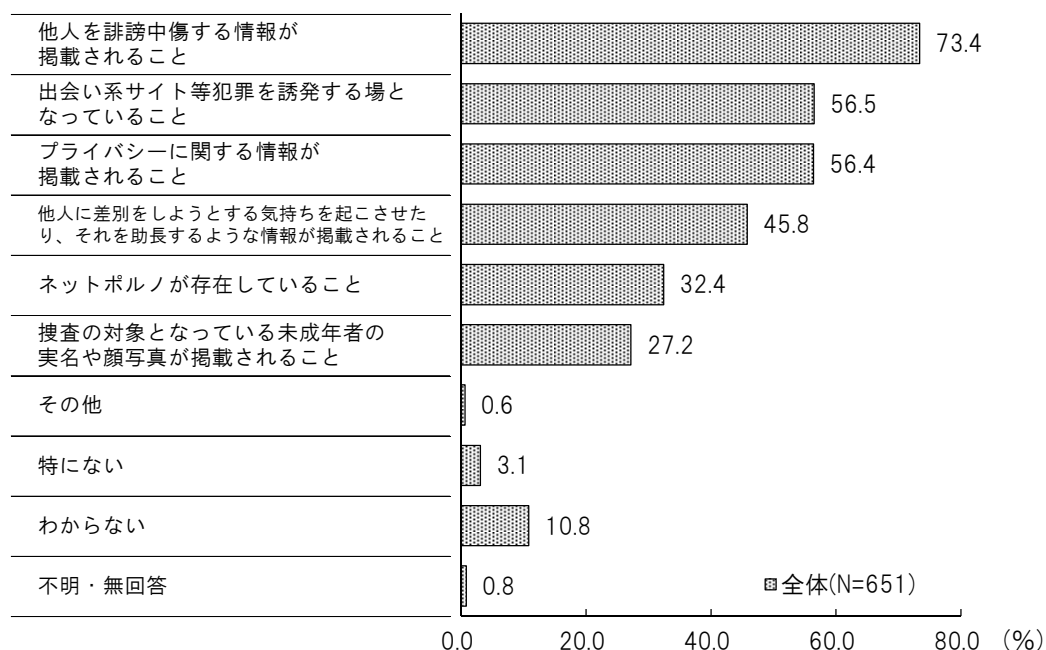
	全体 (人)	風習や習慣等の違いが 受け入れられないこと	就職・職場で不利な扱いを 受けること	アパート等への入居を 拒否されること	結婚問題で周囲の反対を 受けること	差別的な言動をされること	職場、学校等で嫌がらせや いじめを受けること	じろじろ見られたり、 避けられたりすること	宿泊施設、店舗等への入店や 施設利用を拒否されること	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体	651	43.5	31.6	26.0	22.0	20.6	17.8	16.9	5.4	0.8	11.7	21.4	1.4
性別 男性	254	43.3	28.7	25.2	19.7	19.7	15.0	12.6	4.7	1.6	13.0	18.1	0.8
性別 女性	383	43.6	33.4	26.9	23.0	21.1	20.1	19.3	5.7	0.3	11.0	23.2	1.6
年代別 20歳代	57	56.1	35.1	21.1	28.1	31.6	33.3	28.1	10.5	-	3.5	17.5	-
30歳代	67	47.8	28.4	26.9	29.9	28.4	29.9	25.4	4.5	-	6.0	16.4	-
40歳代	78	51.3	34.6	34.6	17.9	17.9	17.9	23.1	9.0	2.6	5.1	17.9	1.3
50歳代	127	40.9	34.6	27.6	21.3	19.7	14.2	13.4	5.5	-	11.8	17.3	0.8
60歳代	168	42.9	33.9	26.8	19.6	16.7	14.9	12.5	3.6	0.6	14.9	21.4	0.6
70歳代	100	36.0	25.0	22.0	21.0	17.0	13.0	13.0	4.0	2.0	17.0	32.0	1.0
80歳以上	40	30.0	25.0	20.0	20.0	25.0	15.0	12.5	2.5	-	17.5	27.5	10.0

■ 全国調査との比較

内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「結婚問題で周囲の反対を受けること」では9.5ポイント、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」では8.7ポイント、それぞれ内閣府調査よりも多くなっている。「特にない」は今回調査11.7%・内閣府調査20.7%と、内閣府調査より9.0ポイント少なくなっているが、「わからない」は今回調査21.4%・内閣府調査14.1%と、内閣府調査より7.3ポイント多くなっている。



問 22 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が73.4%と多くなっており、また「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が56.5%、「プライバシーに関する情報が掲載されること」が56.4%と5割を超えている。

■ 性別・年代別

性別にみると、すべての人権問題について女性の方が男性よりも多くなっている。「ネットポルノが存在していること」は男性の26.4%に対し、女性は36.6%と10.2ポイント多くなっている。

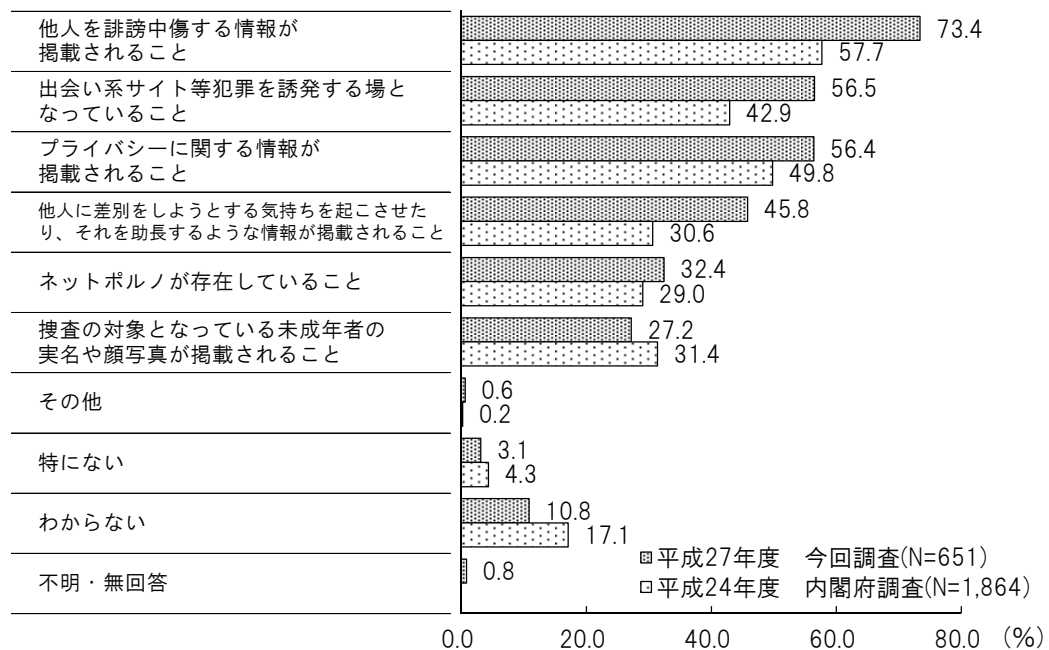
年齢別にみると、すべての年代で「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も多くなっており、50歳未満の年代では8割を超えている。これに次いで、60歳未満の年代では「プライバシーに関する情報が掲載されること」、60歳以上の年代では「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が多い傾向にある。20歳代は「プライバシーに関する情報が掲載されること」が73.7%、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」と「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が63.2%と、他の年代よりも多くなっている。70歳代と80歳以上では「わからない」がそれぞれ21.0%、30.0%と多い。

	全体（人）	他人を誹謗中傷する情報が掲載されること	出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること	プライバシーに関する情報が掲載されること	他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること	ネットポルノが存在していること	捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体	651	73.4	56.5	56.4	45.8	32.4	27.2	0.6	3.1	10.8	0.8
性別 男性	254	69.3	54.7	51.6	42.1	26.4	22.8	0.8	4.3	10.2	0.4
女性	383	76.8	58.0	60.1	48.6	36.6	30.3	0.5	2.1	11.0	0.8
年代別 20歳代	57	82.5	63.2	73.7	63.2	35.1	31.6	－	－	3.5	－
30歳代	67	89.6	44.8	58.2	52.2	31.3	28.4	1.5	1.5	－	－
40歳代	78	82.1	51.3	60.3	52.6	35.9	24.4	2.6	－	5.1	－
50歳代	127	74.8	59.1	62.2	50.4	37.0	25.2	－	2.4	9.4	0.8
60歳代	168	75.0	63.1	58.9	45.8	30.4	29.2	－	3.0	10.7	－
70歳代	100	59.0	54.0	43.0	30.0	28.0	28.0	1.0	6.0	21.0	2.0
80歳以上	40	45.0	42.5	27.5	25.0	22.5	22.5	－	10.0	30.0	2.5

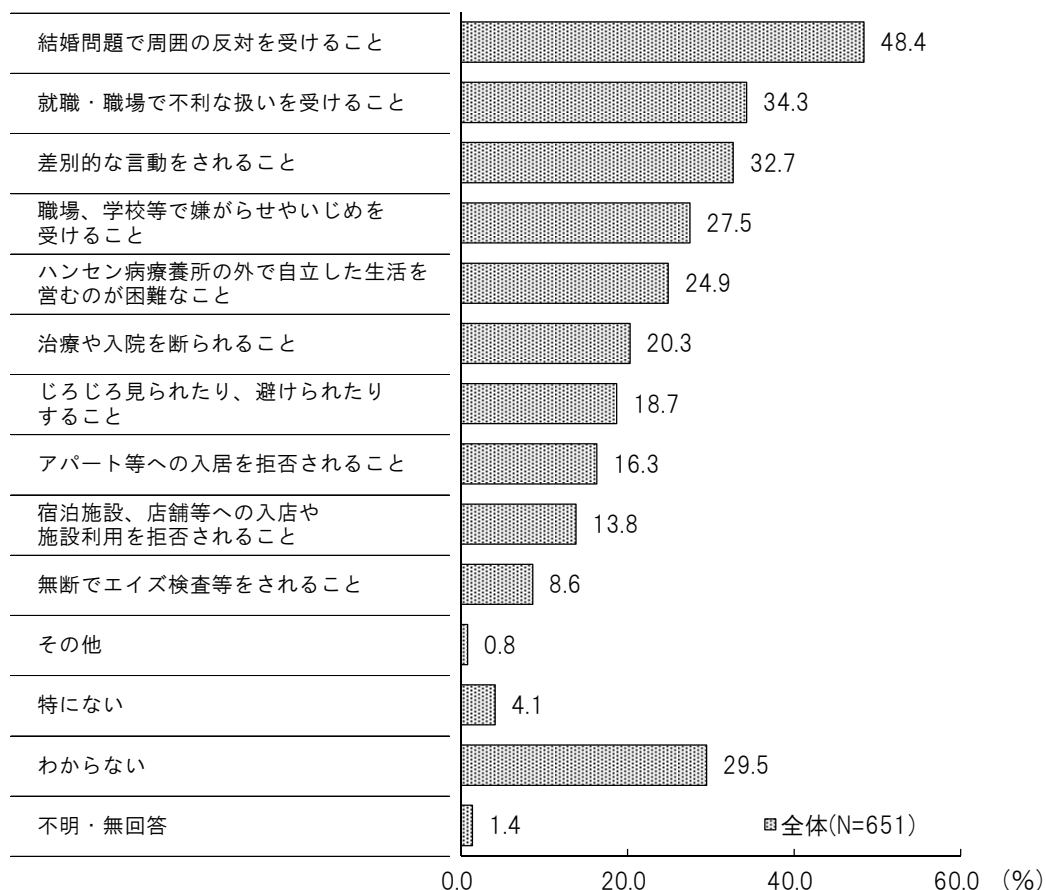
■ 全国調査との比較

内閣府調査（平成24年度）と比較すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」では15.7ポイント、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」では15.2ポイント、「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」では13.6ポイント、それぞれ内閣府調査よりも多くなっている。

「わからない」は、内閣府調査よりも6.3ポイント少なくなっている。



問 23 あなたは、エイズ患者・H I V感染者やその家族、ハンセン病患者・回復者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



エイズ患者・H I V感染者やその家族、ハンセン病患者・回復者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が 48.4%で最も多く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が 34.3%、「差別的な言動をされること」が 32.7%となっている。

「わからない」は 29.5%となっており、各人権問題に関する設問（問 17～問 25）の中で「性的マイノリティ」（問 25）の 37.8%に次いで多い。

■ 性別・年代別

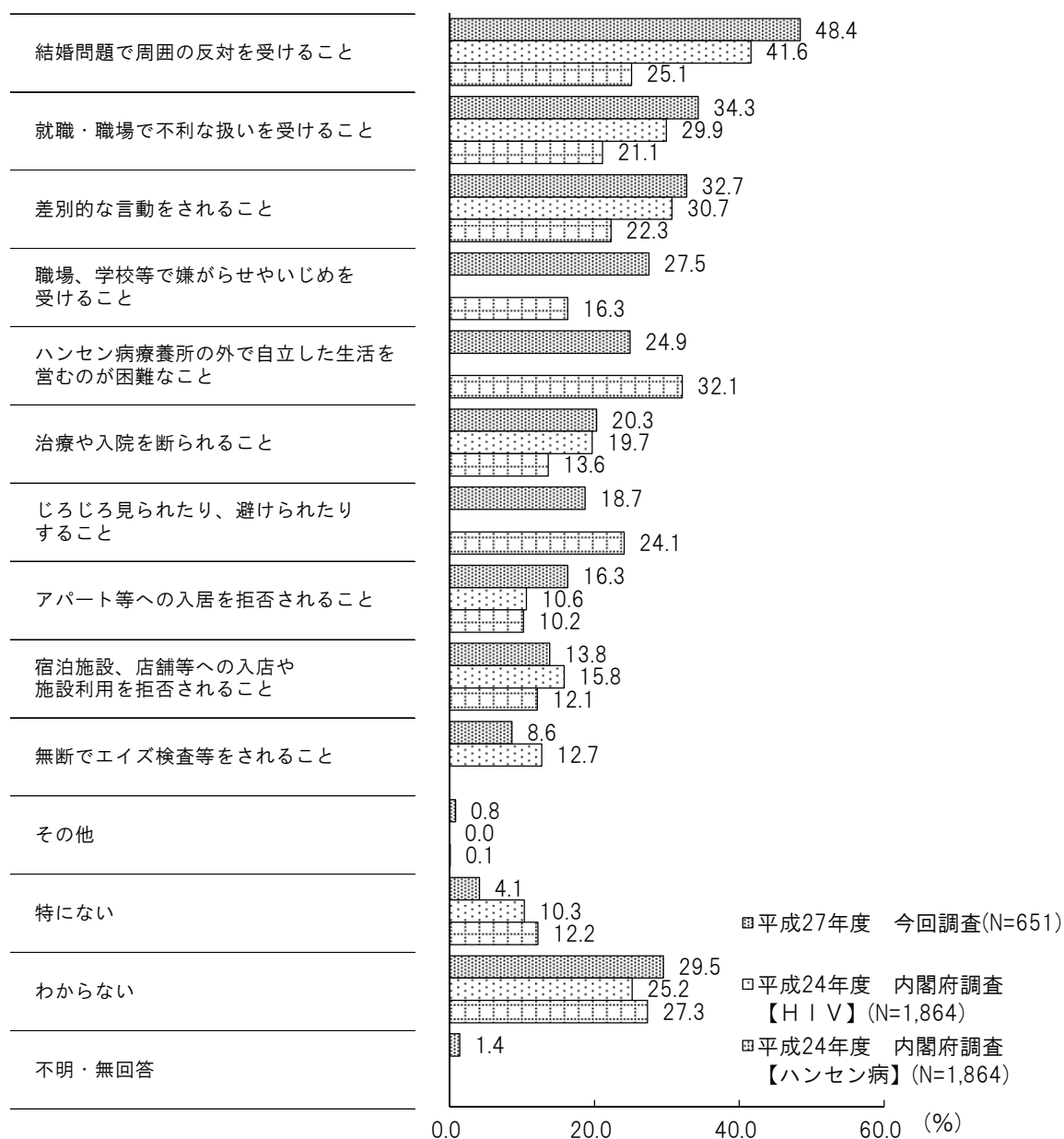
エイズ患者・H I V感染者やその家族、ハンセン病患者・回復者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについて性別にみると、「差別的な言動をされること」は男性 26.4%・女性 36.8%と女性が 10.4 ポイント多くなっている。

年代別にみると、30 歳代をのぞく 80 歳未満の年代では、「結婚問題で周囲の反対を受けること」、30 歳代では「差別的な言動をされること」が最も多くなっている。「わからない」はいずれの年代でも 2 割を超え、特に 80 歳以上では 42.5%を占め最も多くなっている。

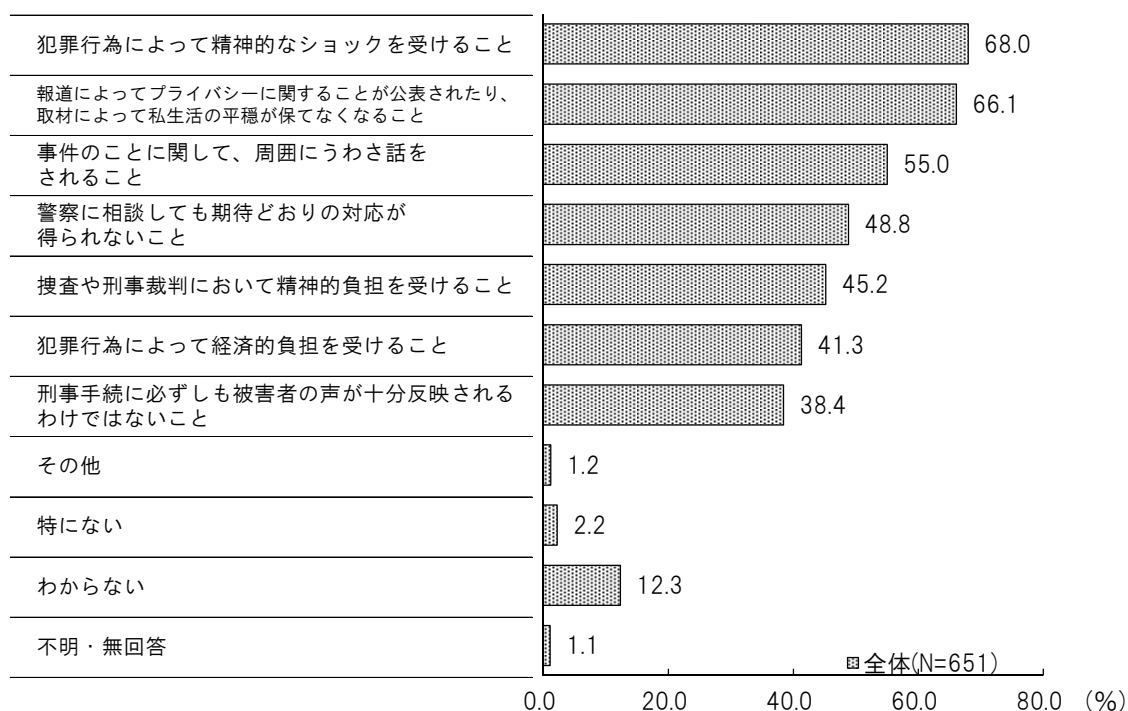
	全体 (人)	結婚問題で周囲の反対を受けること	就職・職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと	治療や入院を断られること	じろじろ見られたり、避けられたりすること	アパート等への入居を拒否されること	施設利用を拒否されること	無断でエイズ検査等をされること	その他	特にない	わからない	不明・無回答
全体	651	48.4	34.3	32.7	27.5	24.9	20.3	18.7	16.3	13.8	8.6	0.8	4.1	29.5	1.4
性別 男性	254	43.3	29.9	26.4	25.6	22.4	16.9	16.9	15.4	15.4	8.7	0.4	5.9	29.9	1.6
性別 女性	383	51.7	36.8	36.8	29.0	26.4	22.7	19.8	16.4	12.3	8.1	1.0	2.6	29.8	1.0
年代別 20 歳代	57	63.2	33.3	45.6	35.1	33.3	26.3	21.1	19.3	17.5	14.0	1.8	—	22.8	1.8
30 歳代	67	50.7	35.8	52.2	41.8	25.4	25.4	20.9	19.4	16.4	10.4	—	—	26.9	—
40 歳代	78	52.6	41.0	35.9	29.5	23.1	25.6	17.9	9.0	10.3	6.4	1.3	—	23.1	1.3
50 歳代	127	46.5	33.9	35.4	26.0	28.3	23.6	18.1	15.7	10.2	10.2	0.8	3.1	29.9	0.8
60 歳代	168	48.8	35.7	25.6	24.4	26.8	17.9	18.5	16.7	14.9	7.1	0.6	4.8	31.5	0.6
70 歳代	100	44.0	31.0	23.0	24.0	17.0	11.0	18.0	19.0	15.0	7.0	1.0	8.0	32.0	2.0
80 歳以上	40	30.0	22.5	17.5	15.0	15.0	17.5	15.0	12.5	12.5	5.0	—	12.5	42.5	5.0

■ 全国調査との比較

内閣府調査（平成 24 年度）では「エイズ患者・H I V感染者」と「ハンセン病患者・回復者」に分けて質問しているため比較することは難しいが、「結婚問題で周囲の反対を受けること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」では内閣府調査よりも回答が多くなっている。その一方で、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」は、今回調査で 24.9%、内閣府調査（ハンセン病患者・回復者）で 32.1%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は今回調査で 18.7%、内閣府調査（ハンセン病患者・回復者）で 24.1%となっており、それぞれ 7.2 ポイント、5.4 ポイント今回調査が少なくなっている。



問 24 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」(68.0%)と、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」(66.1%)が6割を超えて多く、これに、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」が55.0%、「警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと」が48.8%で続いている。

■ 性別・年代別

性別にみると、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」は15.0ポイント、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」は14.8ポイント、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」は10.8ポイント、女性の方が男性よりも多くなっている。

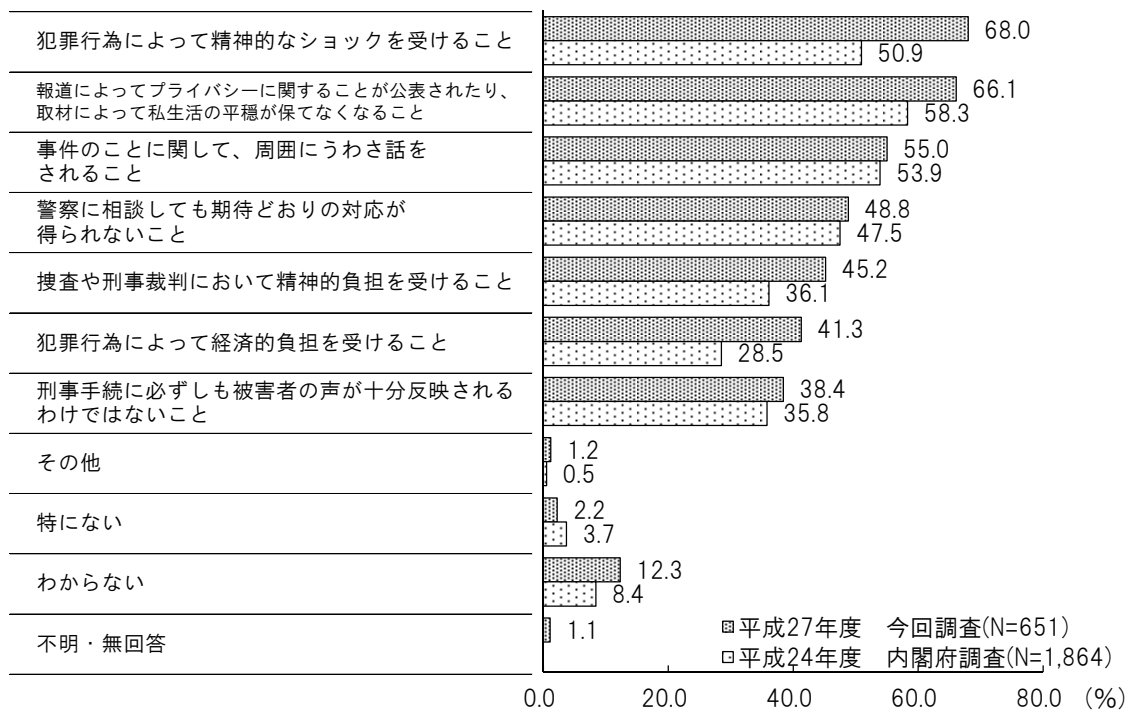
年代別にみると、40歳代、50歳代で「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が最も多く、それぞれ75.6%、78.7%となっている。70歳未満の年代では「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が7割を超えており、20歳代、30歳代、60歳代では最も割合の多い項目となっている。

20歳代は、「犯罪行為によって経済的負担を受けること」以外の人権問題がいずれも5割を超えている。一方、70歳代と80歳以上では「わからない」が2割を超えている。

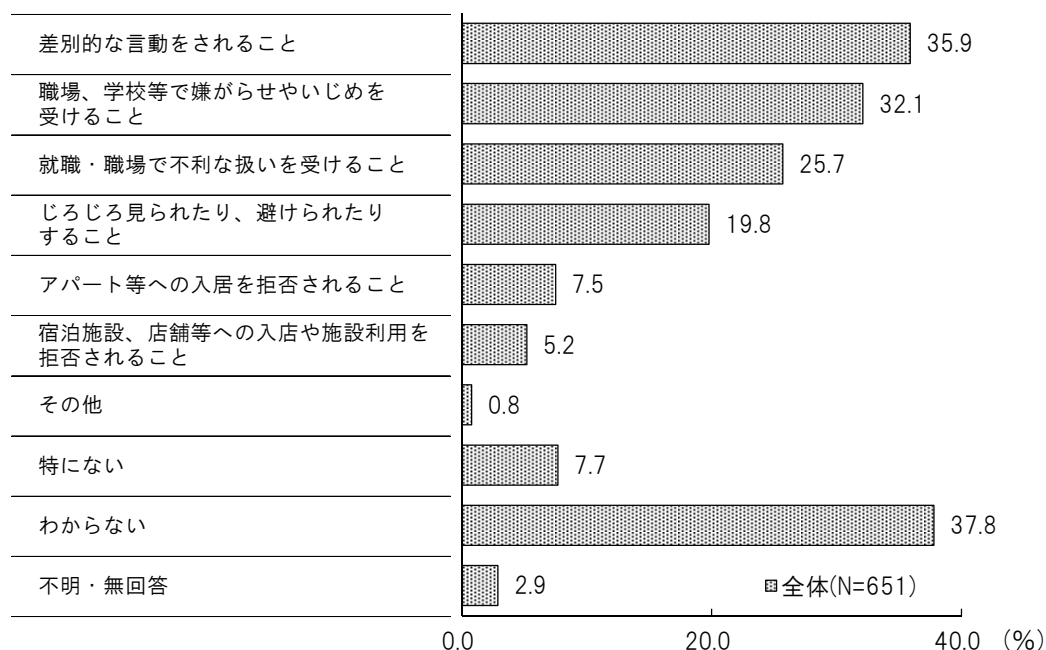
	全体 (人)	犯罪行為によって精神的な ショックを受けること	報道によってプライバシーに関する ことが公表されたり、取材によって 私生活の平穩が保てなくなること	事件のことにに関して、周囲にうわさ話を されること	警察に相談しても期待どおりの対応が 得られないこと	捜査や刑事裁判において精神的負担を 受けること	犯罪行為によって経済的負担を 受けること	刑事手続に必ずしも被害者の声が 十分反映されるわけではないこと	その他	特 に な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	651	68.0	66.1	55.0	48.8	45.2	41.3	38.4	1.2	2.2	12.3	1.1
性 別												
男性	254	61.8	57.5	46.1	44.1	39.4	42.1	34.3	1.2	3.5	11.8	1.2
女性	383	72.6	72.3	61.1	52.0	49.1	41.3	40.7	1.3	1.0	12.5	0.8
年 代 別												
20 歳代	57	70.2	71.9	66.7	61.4	56.1	43.9	50.9	-	-	7.0	-
30 歳代	67	65.7	74.6	67.2	55.2	47.8	44.8	34.3	-	-	6.0	-
40 歳代	78	75.6	70.5	64.1	53.8	57.7	46.2	37.2	5.1	-	6.4	1.3
50 歳代	127	78.7	71.7	59.1	52.0	52.0	46.5	42.5	-	2.4	10.2	0.8
60 歳代	168	70.2	73.2	54.2	47.0	42.3	45.8	39.9	1.8	1.2	10.7	-
70 歳代	100	55.0	50.0	40.0	39.0	33.0	30.0	30.0	1.0	4.0	24.0	2.0
80 歳以上	40	45.0	32.5	30.0	30.0	22.5	22.5	27.5	-	10.0	25.0	5.0

■ 全国調査との比較

内閣府調査（平成 24 年度）と比較すると、すべての人権問題について今回調査は内閣府調査よりも多くなっている。「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」と「犯罪行為によって経済的負担を受けること」で特に内閣府調査との差が大きく、それぞれ 17.1 ポイント差、12.8 ポイント差となっている。



問 25 あなたは、性的マイノリティに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



性的マイノリティに関し、現在、どのような人権問題が起きているかについては、「わからない」が37.8%で最も多くなっている。

具体的な人権問題については、「差別的な言動をされること」が最も多く35.9%、これに「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が32.1%、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が25.7%となっている。

■ 性別・年代別

性別にみると、「差別的な言動をされること」では男性29.9%・女性39.9%、「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」では男性26.4%・女性35.8%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」では男性15.4%・女性22.5%となっており、いずれも女性の方が多くなっている。

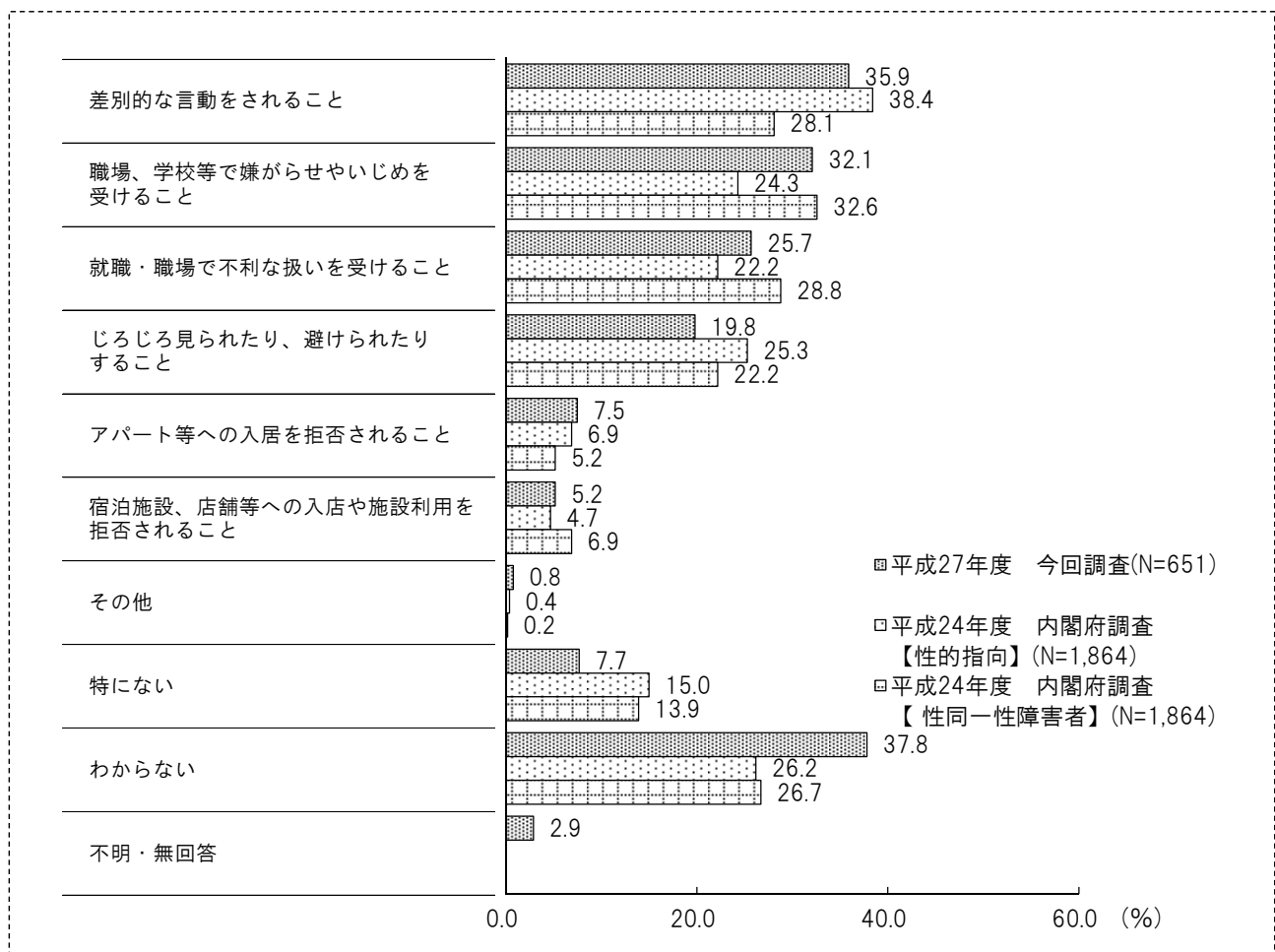
年代別にみると、50歳未満の年代では「差別的な言動をされること」が最も多く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」となっている。50歳以上の年代では「わからない」が最も多く4割を超えている。

	全体 (人)	差別的な言動を されること	職場、学校等で 嫌がらせやいじめ を受けること	就職・職場で不利な 扱いを受けること	じろじろ見られ たり、避けられ たりすること	アパート等への 入居を拒否され ること	宿泊施設、店舗等 への入店や施設利 用を拒否されるこ と	その他	特 に な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	651	35.9	32.1	25.7	19.8	7.5	5.2	0.8	7.7	37.8	2.9
性別 男性	254	29.9	26.4	26.4	15.4	7.1	5.5	0.8	11.8	37.4	3.1
性別 女性	383	39.9	35.8	25.1	22.5	7.6	4.7	0.8	4.7	37.9	2.6
年代別 20歳代	57	59.6	52.6	28.1	29.8	8.8	8.8	1.8	3.5	19.3	5.3
30歳代	67	49.3	43.3	32.8	23.9	7.5	4.5	-	-	26.9	-
40歳代	78	43.6	42.3	34.6	28.2	9.0	3.8	2.6	7.7	21.8	1.3
50歳代	127	35.4	29.9	22.0	17.3	9.4	4.7	-	7.1	41.7	1.6
60歳代	168	31.0	26.8	26.8	17.3	3.6	3.6	0.6	8.9	42.9	2.4
70歳代	100	24.0	21.0	18.0	14.0	9.0	6.0	-	8.0	53.0	6.0
80歳以上	40	15.0	20.0	17.5	12.5	7.5	7.5	2.5	20.0	42.5	5.0

■ 全国調査との比較

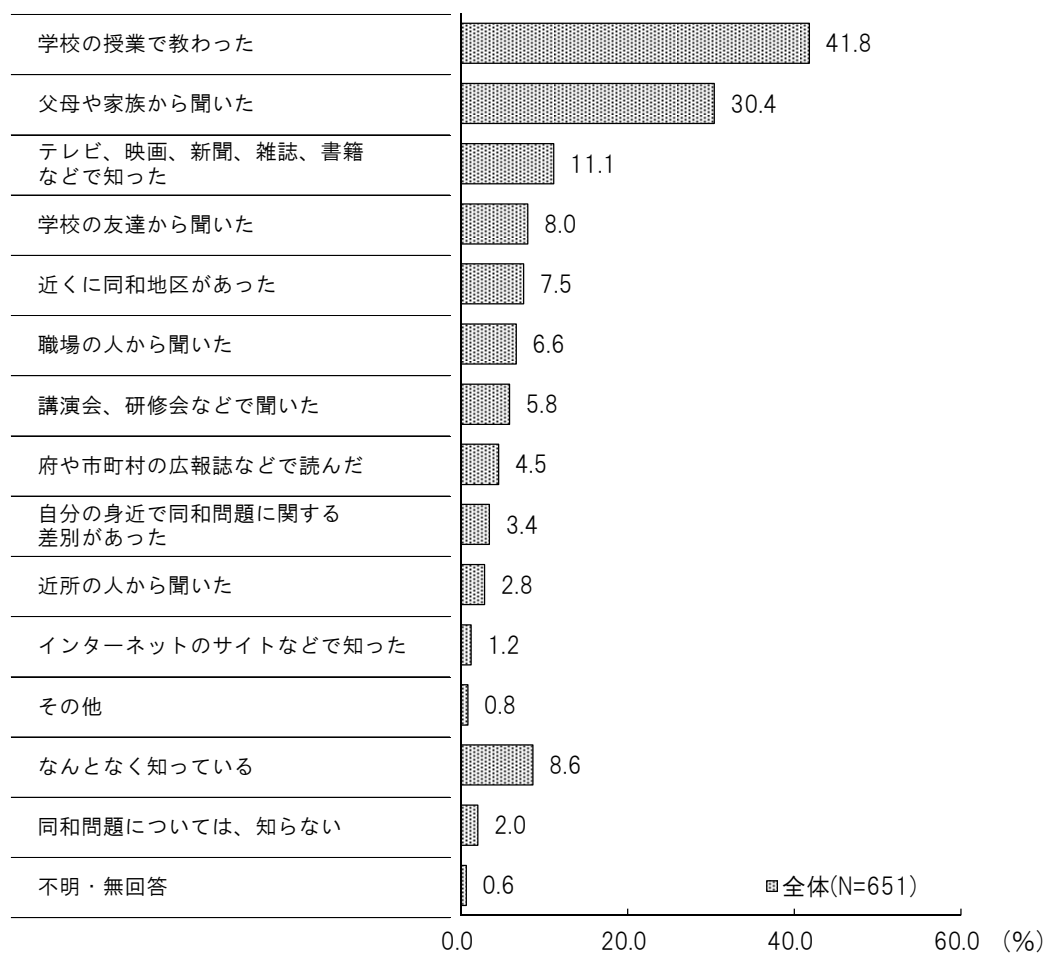
内閣府調査（平成24年度）では「異性愛、同性愛、両性愛といった性的指向」と「生物学的な性とこころの性が一致しない性同一性障害者」に分けて質問しているため比較することは難しいが、今回調査での各人権問題の割合は内閣府調査と同じような傾向になっている。

「性的マイノリティ」として質問した今回調査は、対象を限定した内閣府調査と比べて、「特にない」が少なく、「わからない」が多くなっている。



（５）同和問題について

問 26 あなたが日本の社会において、同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることをはじめて知ったのは、どういうことがきっかけですか。（○は１つ）



注） 単一回答の設問だが、複数回答が多数あったため、すべて有効とした。

同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることをはじめて知ったきっかけについては、「学校の授業で教わった」が41.8%で最も多く、次いで「父母や家族から聞いた」が30.4%、「テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った」が11.1%となっており、その他の項目は1割未満となっている。

■ 性別・年代別

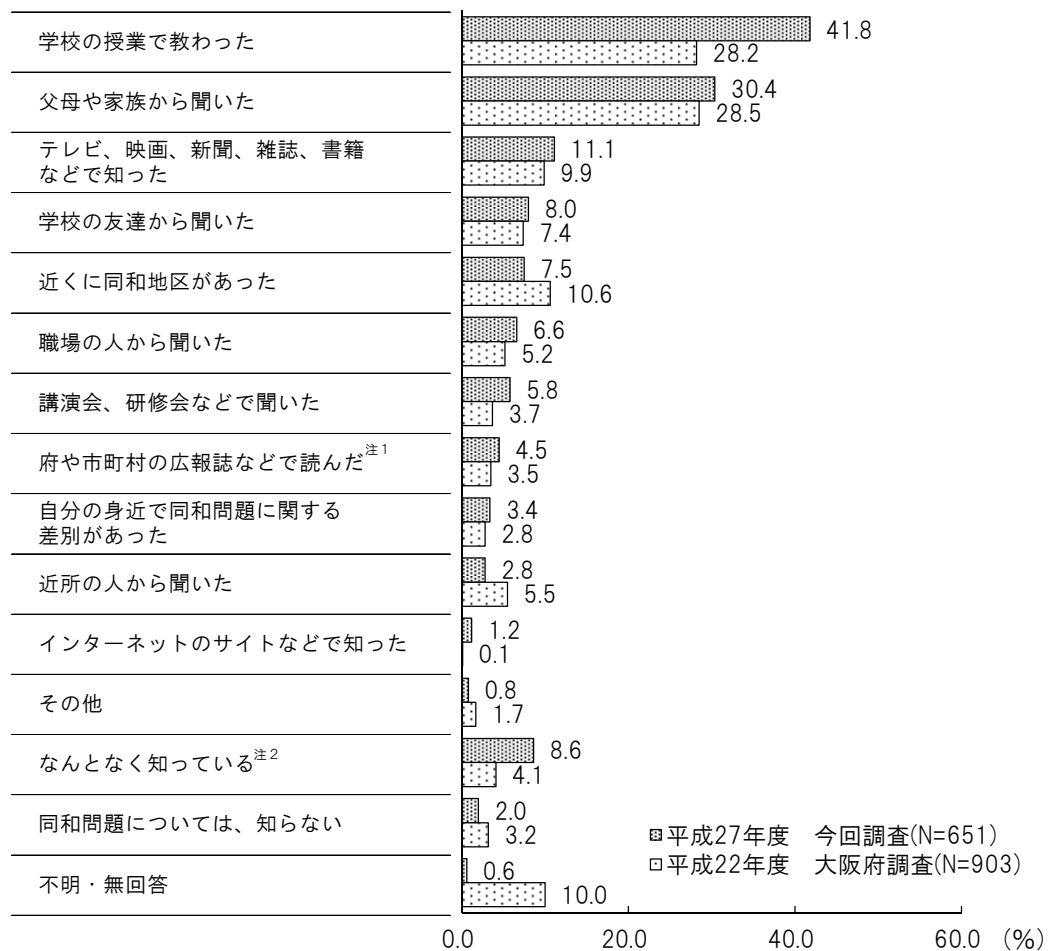
性別にみると、「学校の授業で教わった」は、男性の35.8%に対し、女性は46.5%と10.7ポイント多くなっている。また、「父母や家族から聞いた」も女性の方が男性よりも多く5.8ポイントの差がある。一方、「テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った」「府や市町村の広報誌などで読んだ」は男性の方が女性よりも多く、それぞれ5.7ポイント、5.2ポイント差となっている。

年代別にみると、60歳未満の年代では「学校の授業で教わった」、60歳以上の年代では「父母や家族から聞いた」が最も多くなっている。

	全体（人）	学校の授業で教わった	父母や家族から聞いた	テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った	学校の友達から聞いた	近くに同和地区があった	職場の人から聞いた	講演会、研修会などで聞いた	府や市町村の広報誌などで読んだ	自分の身近で同和問題に関する差別があった	近所の人から聞いた	インターネットのサイトなどで知った	その他	なんとなく知っている	同和問題については、知らない	不明・無回答
全体	651	41.8	30.4	11.1	8.0	7.5	6.6	5.8	4.5	3.4	2.8	1.2	0.8	8.6	2.0	0.6
性別 男性	254	35.8	26.8	14.6	6.7	6.7	9.1	8.7	7.5	3.9	2.0	0.8	0.8	9.1	1.2	0.4
性別 女性	383	46.5	32.6	8.9	9.1	8.1	4.7	3.9	2.3	3.1	3.4	1.6	0.8	8.4	2.6	0.3
年代別 20歳代	57	47.4	31.6	12.3	7.0	-	3.5	1.8	-	-	-	3.5	-	10.5	7.0	-
30歳代	67	76.1	22.4	4.5	4.5	1.5	4.5	1.5	1.5	3.0	3.0	1.5	-	3.0	1.5	-
40歳代	78	70.5	16.7	7.7	11.5	3.8	2.6	2.6	3.8	1.3	1.3	-	-	5.1	1.3	-
50歳代	127	64.6	24.4	4.7	7.9	10.2	3.9	3.1	0.8	3.1	1.6	1.6	0.8	4.7	-	-
60歳代	168	23.2	38.1	16.1	8.9	8.9	8.9	8.3	4.2	4.8	2.4	1.8	1.2	12.5	1.2	-
70歳代	100	10.0	35.0	17.0	8.0	12.0	10.0	11.0	13.0	7.0	5.0	-	1.0	12.0	5.0	2.0
80歳以上	40	15.0	37.5	12.5	7.5	10.0	10.0	10.0	10.0	-	10.0	-	2.5	10.0	-	2.5

■ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成22年度）と比較すると、「学校の授業で教わった」が、今回調査で41.8%、大阪府調査で28.2%となっており、今回調査が13.6ポイント多い。「近くに同和地区があった」は、大阪府調査の10.6%に対して、今回調査は7.5%と3.1ポイント少なくなっている。

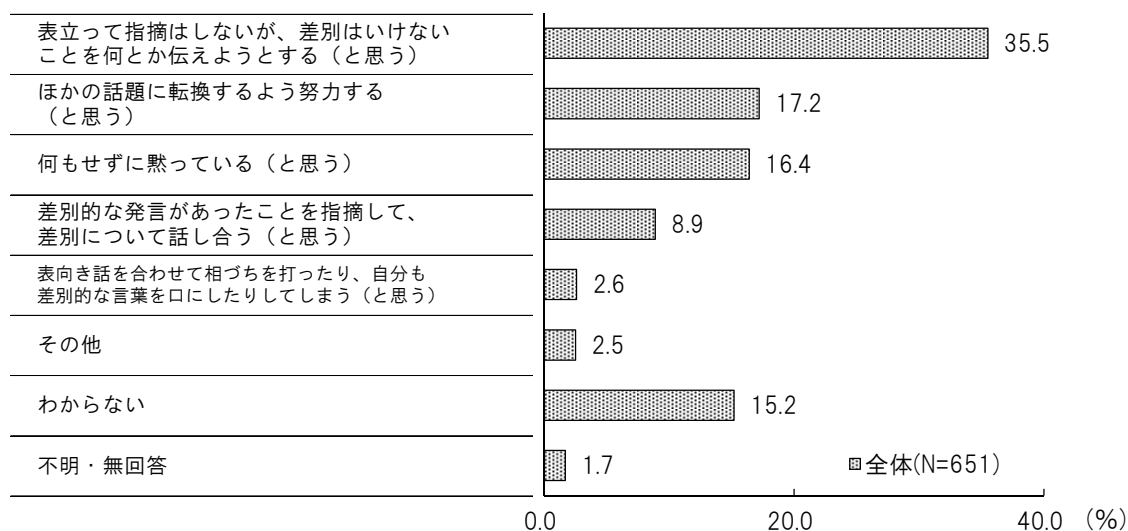


注) 今回調査、大阪府調査ともに、単一回答の設問だが、複数回答が多数あったため、すべて有効としている。

注1 大阪府調査では「府県や市町村の広報誌などで読んだ」

注2 大阪府調査では「覚えていない」

問 27 学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区の人に対する差別的な発言をしたとき、あなたはこういった態度をとりますか。(○は1つ)



学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区の人に対する差別的な発言をしたときの対応については、「表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする(と思う)」が 35.5%で最も多く、次いで、「ほかの話題に転換するよう努力する(と思う)」が 17.2%、「何もせずに黙っている(と思う)」が 16.4%となっている。

■ 性別・年代別

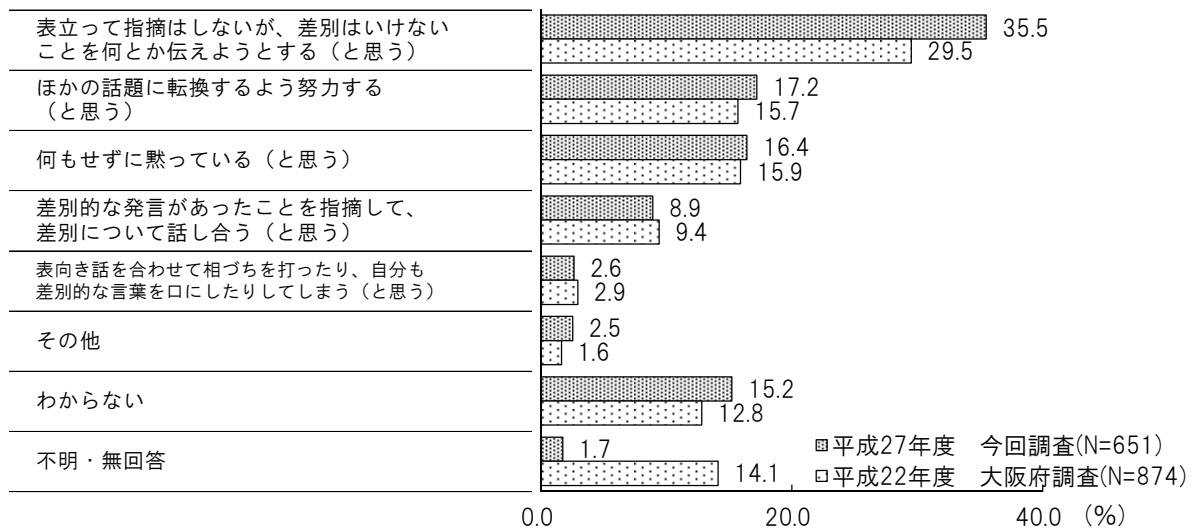
性別にみると、「表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする(と思う)」は男性 39.0%・女性 32.9%と男性の方が 6.1 ポイント多い。また、「差別的な発言があったことを指摘して、差別について話し合う(と思う)」と「表向き話を合わせて相づちを打ったり、自分も差別的な言葉を口にしたりしてしまう(と思う)」も男性の方がやや多くなっている。一方、「ほかの話題に転換するよう努力する(と思う)」「何もせずに黙っている(と思う)」は女性の方が男性より 5 ポイント以上多くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする(と思う)」が最も多くなっているが、60 歳以上の年代と比べて 60 歳未満の年代では割合が少なくなっており、「ほかの話題に転換するよう努力する(思う)」と「何もせずに黙っている(思う)」が多くなる傾向がみられる。

	全体（人）	表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする（と思う）	ほかの話題に転換するよう努力する（と思う）	何もせずに黙っている（と思う）	差別的な発言があったことを指摘して、差別について話し合う（と思う）	表向き話を合わせて相づちを打ったり、自分も差別的な言葉を口にしたりしてしまう（と思う）	その他	わからない	不明・無回答
全体	651	35.5	17.2	16.4	8.9	2.6	2.5	15.2	1.7
性別 男性	254	39.0	14.2	13.4	10.6	3.9	2.4	15.4	1.2
性別 女性	383	32.9	19.8	18.5	7.6	1.8	2.6	15.1	1.6
年代別 20歳代	57	24.6	17.5	22.8	1.8	5.3	3.5	22.8	1.8
30歳代	67	25.4	23.9	25.4	6.0	1.5	6.0	10.4	1.5
40歳代	78	30.8	25.6	15.4	6.4	3.8	1.3	15.4	1.3
50歳代	127	28.3	19.7	17.3	13.4	3.9	3.9	12.6	0.8
60歳代	168	44.0	15.5	14.3	10.1	1.8	0.6	13.7	-
70歳代	100	44.0	9.0	16.0	8.0	1.0	2.0	19.0	1.0
80歳以上	40	37.5	12.5	7.5	10.0	2.5	2.5	17.5	10.0

■ 大阪府調査との比較

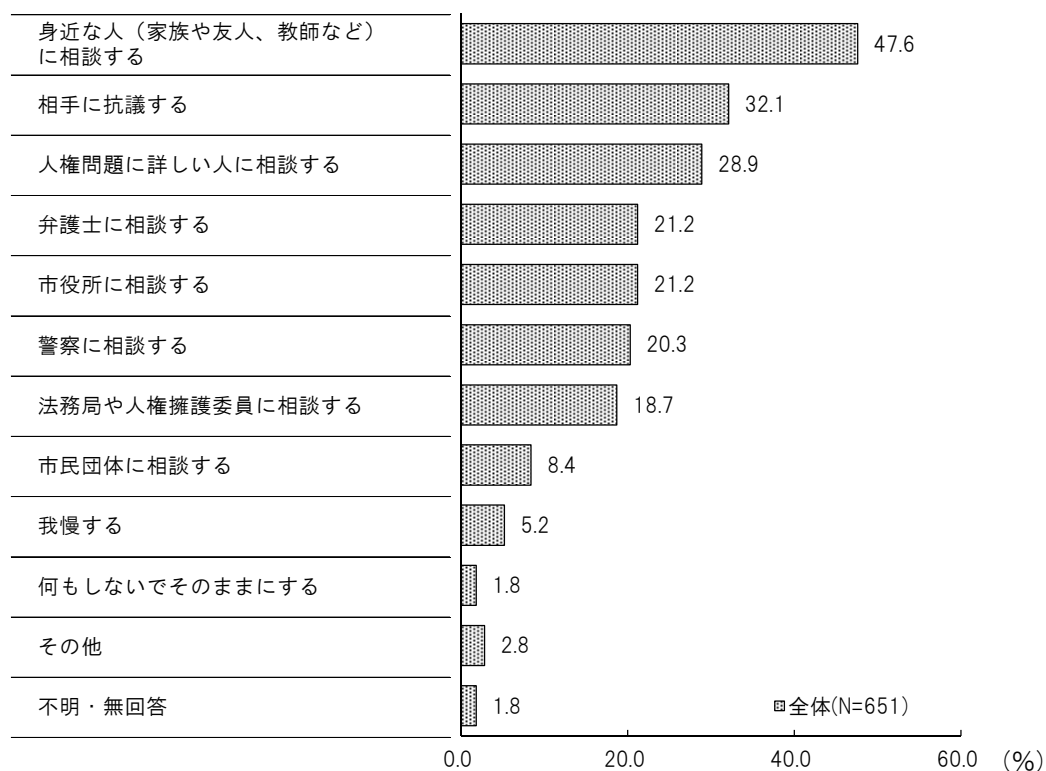
大阪府調査（平成22年度）と比較すると、今回調査では、「表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする（と思う）」が35.5%と、大阪府調査の29.5%よりも、6.0ポイント多くなっている。



注） 単一回答の設問だが、大阪府調査では、複数回答が多数あったためすべて有効としている。

（６）人権侵害について

問 28 もし、あなたや家族の方が人権侵害を受けたら、どのように対応しますか。あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）



自身や家族が人権侵害を受けたときの対応については、「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が最も多く 47.6% となっており、次いで「相手に抗議する」が 32.1%、「人権問題に詳しい人に相談する」が 28.9% となっている。

■ 性別・年代別

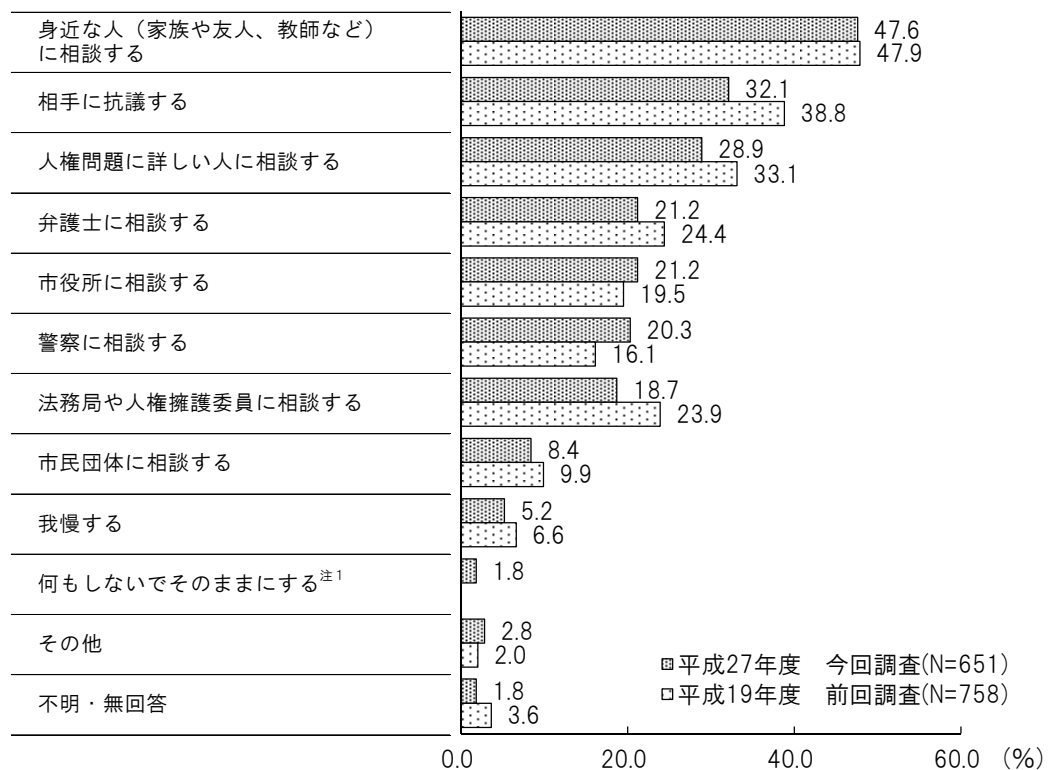
性別にみると、男性では「相手に抗議する」が 41.3% で最も多く、女性の 26.9% より 14.4 ポイント多い。女性では、「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が 55.6% で最も多く、男性の 36.2% より 19.4 ポイント多い。

年代別にみると、「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が、いずれの年代層でも最も多く、20 歳代と 40 歳代では 6 割を超えている。20 歳代は「相手に抗議する」が 47.4% と、他の年代と比較して割合が多くなっている。

	全体 (人)	身近な人(家族や 友人、教師など) に相談する	相手に抗議する	人権問題に詳しい 人に相談する	弁護士に相談する	市役所に相談する	警察に相談する	法務局や人権擁護 委員に相談する	市民団体に 相談する	我慢する	何もしないで そのままにする	その他	不明・無回答
全体	651	47.6	32.1	28.9	21.2	21.2	20.3	18.7	8.4	5.2	1.8	2.8	1.8
性別 男性	254	36.2	41.3	24.4	26.4	24.0	26.0	23.6	10.2	4.3	2.8	2.8	1.6
女性	383	55.6	26.9	31.3	17.5	19.3	16.7	15.1	7.0	6.0	1.3	2.9	1.3
年代別 20歳代	57	61.4	47.4	31.6	15.8	8.8	17.5	15.8	8.8	8.8	-	-	-
30歳代	67	50.7	28.4	37.3	22.4	19.4	22.4	6.0	4.5	6.0	1.5	3.0	-
40歳代	78	64.1	33.3	30.8	23.1	17.9	19.2	14.1	9.0	11.5	-	7.7	-
50歳代	127	48.0	33.9	28.3	19.7	19.7	18.9	18.1	7.1	5.5	2.4	3.9	-
60歳代	168	39.3	34.5	26.2	25.0	25.0	20.2	25.6	8.3	3.6	3.6	1.8	0.6
70歳代	100	39.0	25.0	28.0	18.0	31.0	23.0	21.0	10.0	2.0	2.0	1.0	3.0
80歳以上	40	50.0	22.5	17.5	17.5	17.5	22.5	22.5	15.0	2.5	-	2.5	10.0

■ 前回調査との比較

前回調査（平成19年度）と比較すると、最も割合の多い「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」には前回調査との違いがみられないが、「相手に抗議する」「人権問題に詳しい人に相談する」「弁護士に相談する」「法務局や人権擁護委員に相談する」「市民団体に相談する」「我慢する」はいずれも前回調査よりも少なくなっている。「警察に相談する」については、前回調査の16.1%と比べて、今回調査は4.2ポイント多い20.3%となっている。



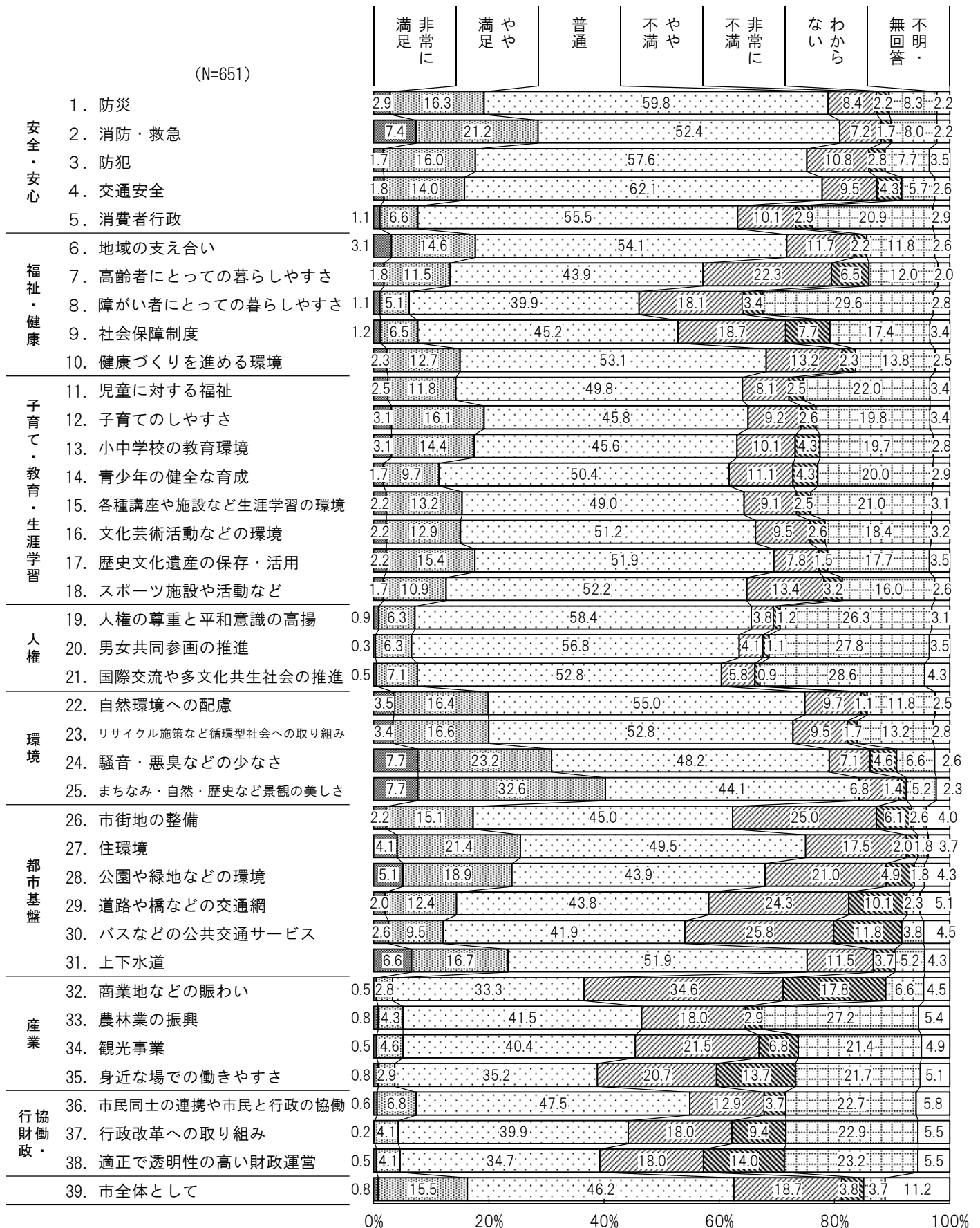
問 29 河内長野市の人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

意見の分類	件数
①意識調査に関すること	
設問内容が分かりにくい	3
アンケートによって差別を想起することへの懸念	2
アンケートの実施を評価する	1
②女性の人権について	
母子家庭への子育て支援を積極的に進めてほしい	1
女性同士で人の生活を詮索することなく接してほしい	1
男女共にフェアに関わる意識をもつ	1
③子どもの人権について	
人権や命についての早期教育やインターネットに関する教育の充実	2
子どもにやさしいまちづくりを考えてほしい	1
土日祝日の保育園での預りを積極的に進めてほしい	1
親として子どもの教育にまちがいのないように子どもの目を見て生活していきたい	1
④高齢者の人権について	
高齢者にやさしいまちづくりを考えてほしい	1
⑤障がい者の人権について	
生まれながらに一人では生活することの出来ない弱者は社会で守ってもらいたい	1
⑥同和問題について	
取り上げることによって気になるから何も知らない方がよいこともある	3
私の回りでは聞いたことがない	2
忘れていた同和問題のことをアンケートで思い出した	1
⑦外国人の人権について	
外国人にも生活が容易な町へ	1
公民館や公的学校教育現場で“多文化共生社会”実現のための努力をしてほしい	1
⑧情報社会の人権問題について	
成長途中の子どもはネットの影響を受けやすいので、プラス面マイナス面の両方を知る教育が重要	2
ネットでの中傷はおそろしい。スマホはなくなれば良いと思う	1
⑨自分自身の人権について	
性的マイノリティという概念さえなくなり、何の問題もなく差別もなく普通に暮らしたい	1
⑩市の人権施策について	
窓口の設置、広報やイベントの活用など情報発信に工夫が必要	6
地元出身者と転入者との間にトラブルが存在している。市民が住みやすいまちづくりを考えてほしい	2
市の機関が率先して障害者雇用を行うなどでお手本を示す	1
予算使用や団体擁護が本来の目的とすり替わらないようチェック体制が必要	1
同和問題の授業を受けたことで差別に対する問題意識を持つことができた	1
市が積極的に情報を提供する必要性はない	1
マニュアルや法律でなくその人を守ってほしい	1
⑪人権や差別問題全般について	
どの国においても差別、区別はあるが、昔のような差別はなくなっていると思う	3
人権を意識しすぎると偏ってしまう。人権問題への対応のバランスを考慮することが必要	3
差別は本当にいけないことだと思うが、なかなか難しい	2
差別されていることを自らの努力で乗り越える心の強さが必要	2
今まで差別をしたという意識はなく、相手の人格を見る	1
今後人権問題等に問題が起これば話し合うと思う	1
⑫人権教育・啓発について	
義務教育で人権や命、道徳教育に力を入れていくべき	6
人権教育の優れた指導者が必要	2
講演会や勉強会などの啓発活動が必要	2
人権教育とは何を指して言っているのかよく分からない	1
人は変わらないと思う	1
イベント等を通じて顔見知りになるようにする	1
⑬その他	
人権に関する以外の意見	7

3. 市政全般について

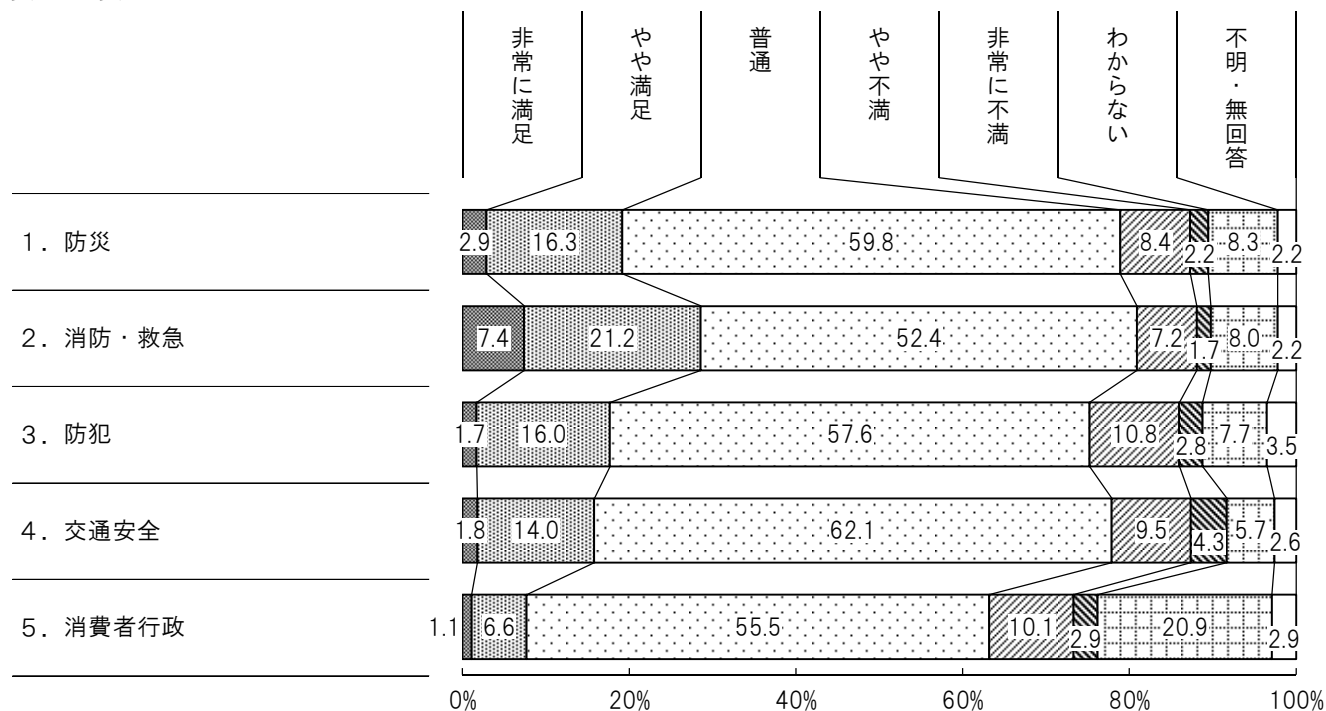
問 30 あなたは、現在の河内長野市の生活環境等についてどの程度満足されていますか。
またどの程度重要だと思われますか。次の項目についてあなたのお考えに最も近い番号に
○をつけてください。(○は①②それぞれ1つ)

(1) 満足度



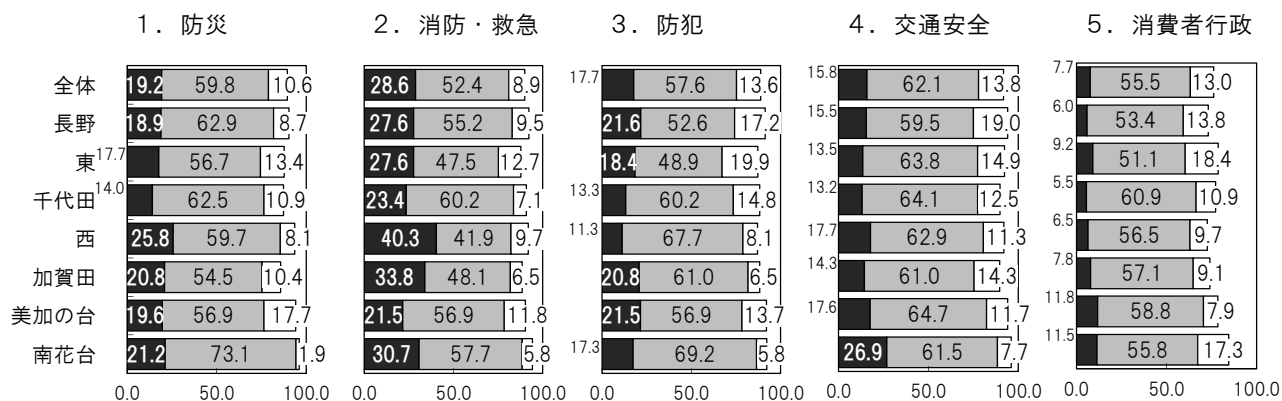
市政への満足度は、[商業地などの賑わい]を除いたすべての項目において、「普通」の割合が最も多い。[まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ]と[騒音・悪臭などの少なさ][消防・救急]については、項目中「非常に満足」の割合が7%台と多く、「非常に満足」を合計した『満足』の割合は、それぞれ40.3%、30.9%、28.6%となっている。一方、[商業地などの賑わい]は「やや不満」が34.6%と多く、[バスなどの公共交通サービス]、[道路や橋などの交通網]、[身近な場での働きやすさ]、[適正で透明性の高い財政運営]、[市街地の整備]についても『不満』（「非常に不満」と「やや不満」の合計）の割合が3割を超えている。

<安全・安心>



<安全・安心>の分野では、[消防・救急]について、「非常に満足」が7.4%、『満足』が28.6%と多い。[消費者行政]については、『不満』が13.0%で『満足』(7.7%)を上回っている。

■ 地域別



凡例

■ 満足（「非常に満足」＋「満足」） ■ 普通 □ 不満（「やや不満」＋「非常に不満」）

全体 N=651

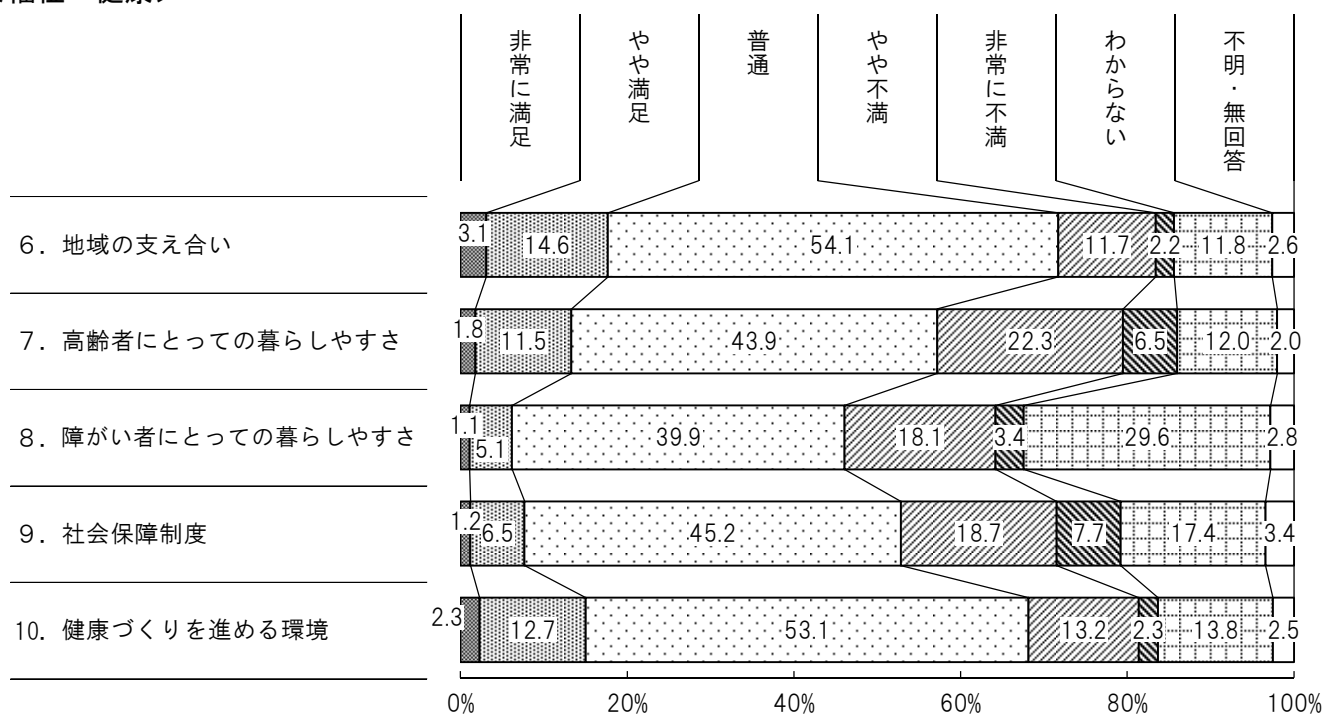
長野地域 N=116 東地域 N=141 千代田地域 N=128 西地域 N=62 加賀田地域 N=77 美加の台地域 N=51 南花台地域 N=52

地域別にみると、[防災]は、西地域で『満足』が25.8%と多く、南花台地域では『不満』が1.9%と極めて少ない。

[消防・救急]は西地域、加賀田地域、南花台地域で『満足』が3割を超えている。

[交通安全]は南花台地域で『満足』が26.9%と他の地域より多くなっている。

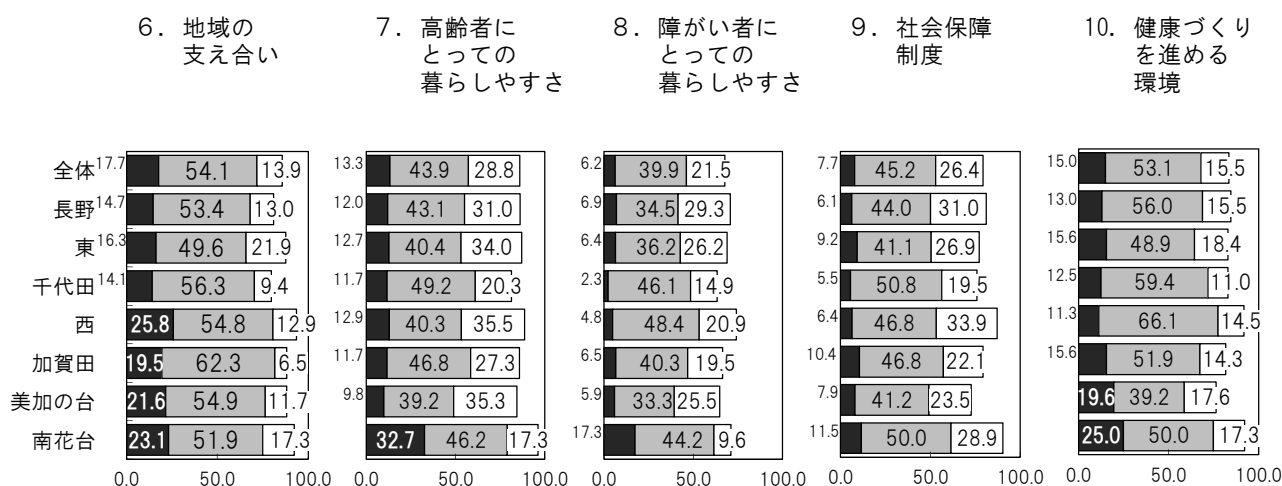
<福祉・健康>



※社会保障制度：国民健康保険や国民年金などの社会保険や、生活保護制度等の公的扶助など、国民の生存権を確保することを目的とする制度のこと

<福祉・健康>の分野では、[地域の支え合い]において『満足』が17.7%と多く、[健康づくりを進める環境]においても15.0%となっている。『不満』の割合が多い項目は、[高齢者にとっての暮らしやすさ]（28.8%）、[社会保障制度]（26.4%）、[障がい者にとっての暮らしやすさ]（21.5%）で、それぞれ『満足』の割合を上回っている。

■ 地域別



凡例

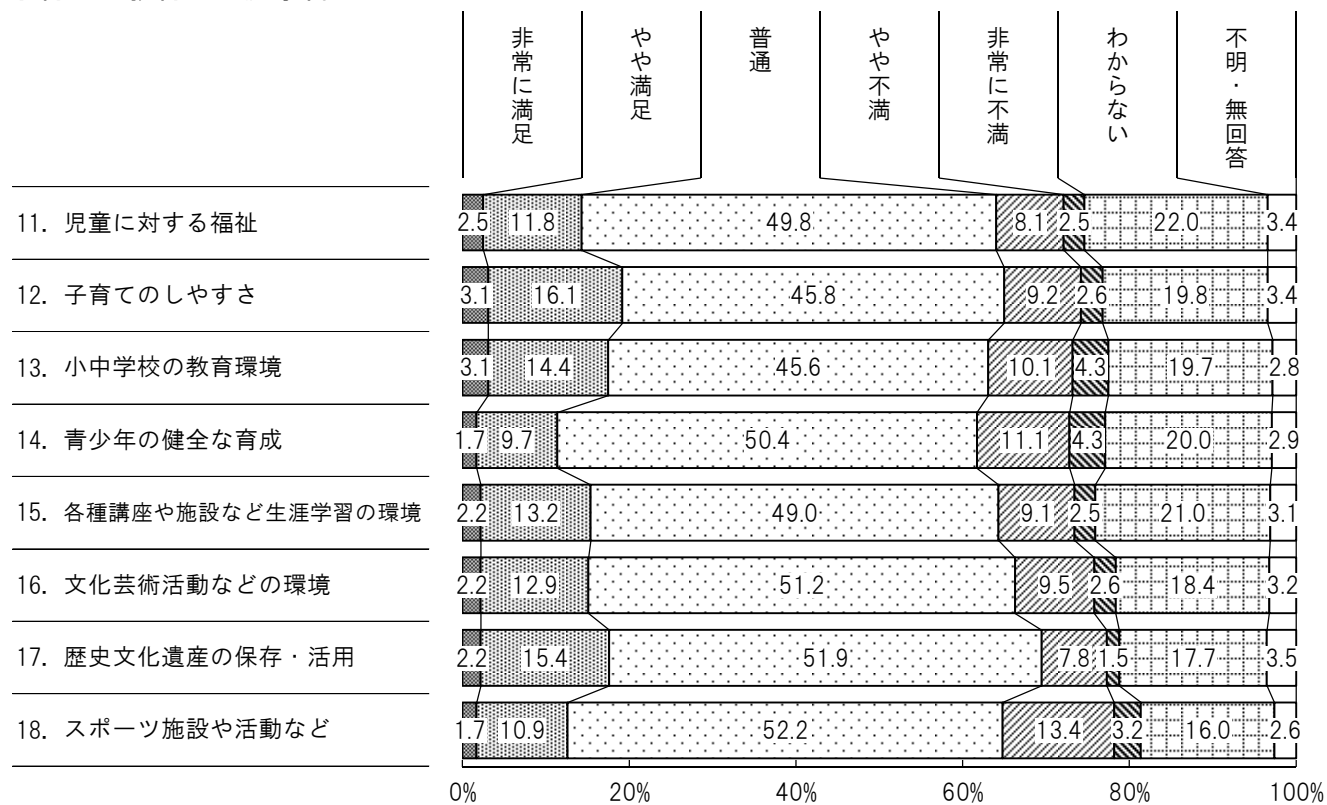
■ 満足（「非常に満足」＋「満足」） ■ 普通 □ 不満（「やや不満」＋「非常に不満」）

全体 N=651

長野地域 N=116 東地域 N=141 千代田地域 N=128 西地域 N=62 加賀田地域 N=77 美加の台地域 N=51 南花台地域 N=52

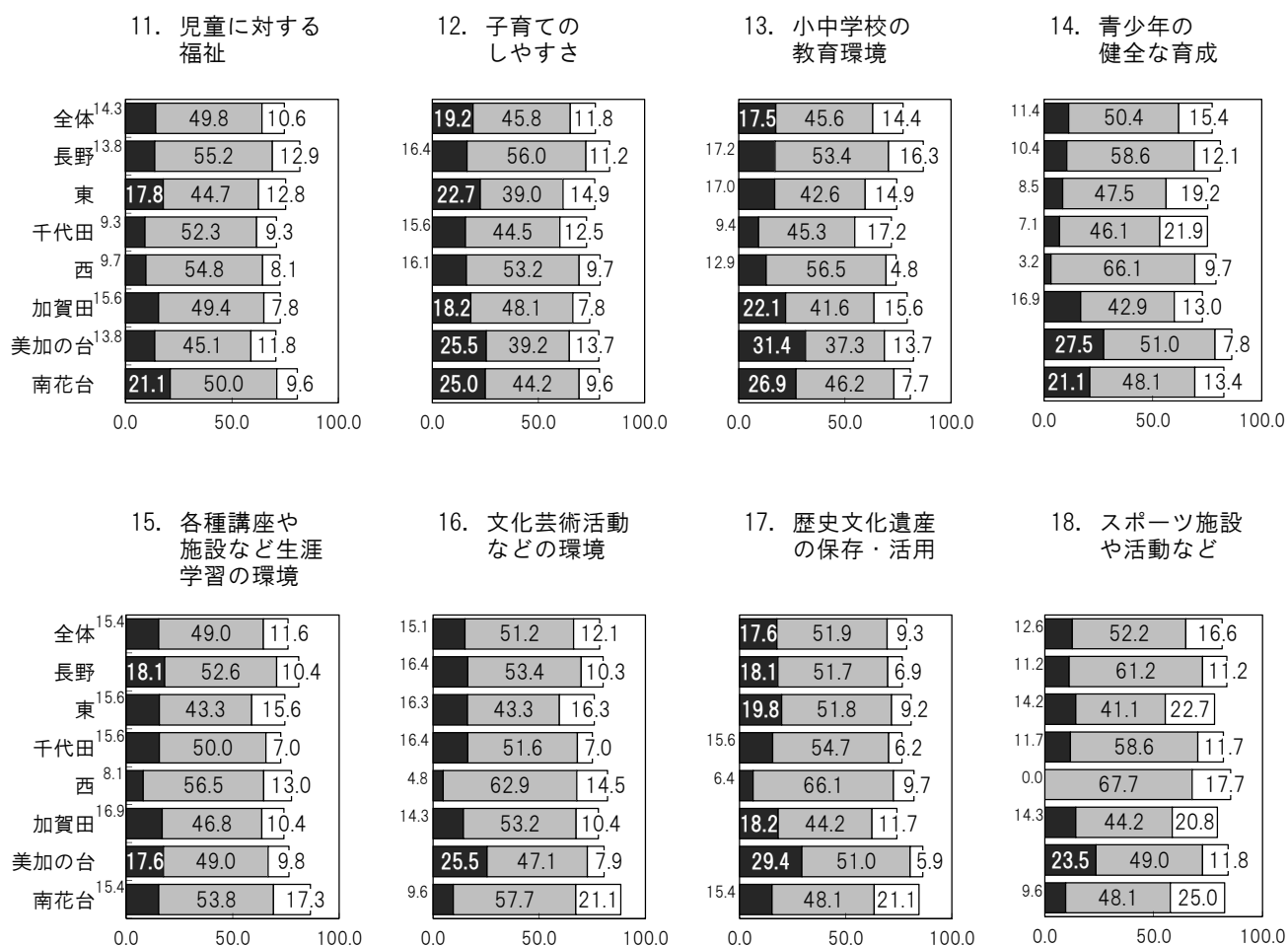
地域別にみると、[高齢者にとっての暮らしやすさ]は南花台地域で『満足』が32.7%となっており、他の地域と比べて満足度が高い。また、[障がい者にとっての暮らしやすさ]、[健康づくりを進める環境]でも同様に、南花台地域で『満足』が多くなっている。

<子育て・教育・生涯学習>



<子育て・教育・生涯学習>の分野では、[青少年の健全な育成]と[スポーツ施設や活動など]について、『不満』の割合が『満足』をわずかに上回っている。

■ 地域別



凡例

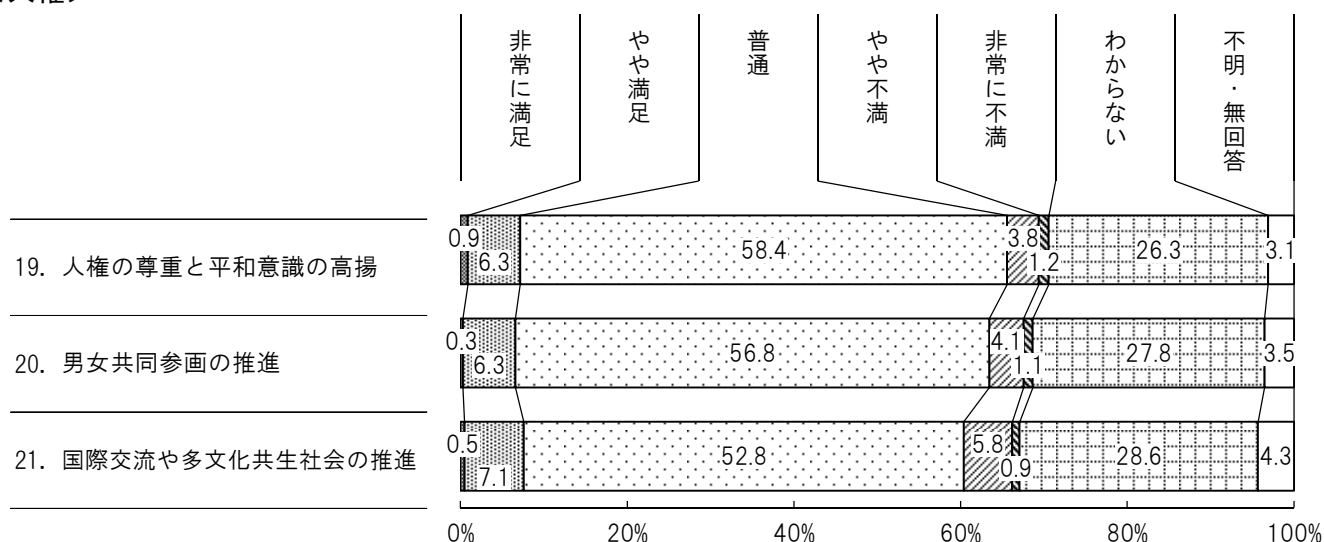
■ 満足（「非常に満足」＋「満足」） ■ 普通 □ 不満（「やや不満」＋「非常に不満」）

全体 N=651

長野地域 N=116 東地域 N=141 千代田地域 N=128 西地域 N=62 加賀田地域 N=77 美加の台地域 N=51 南花台地域 N=52

地域別にみると、[小中学校の教育環境][青少年の健全な育成]では、美加の台地域で『満足』が3割前後と多くなっている。[文化芸術活動などの環境][歴史文化遺産の保存・活用][スポーツ施設や活動など]では、美加の台地域で『満足』が多い一方で、西地域で『満足』が少なく、また、南花台地域で『不満』が他の地域よりも多くなっている。

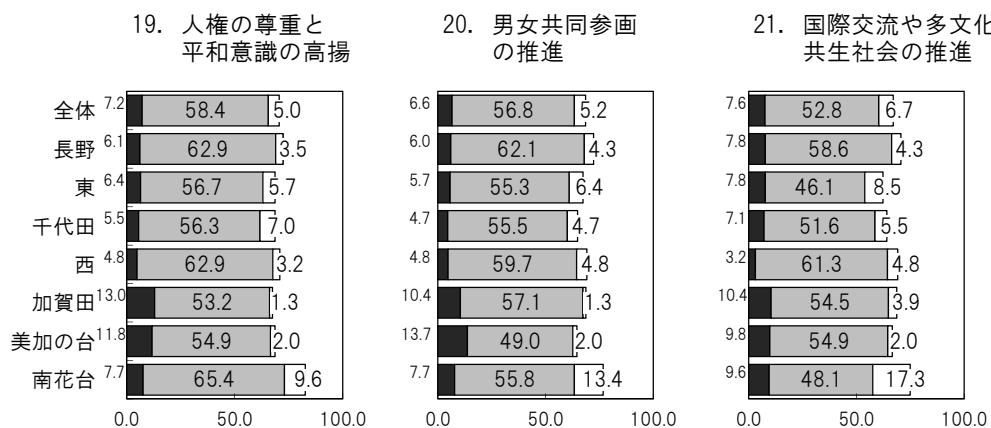
<人権>



※多文化共生社会：国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生きていくことができる社会のこと

<人権>の分野では、いずれの項目も「普通」が5割台で最も多く、『満足』の割合が『不満』よりも多くなっているものの、その差はわずかである。

■ 地域別



凡例

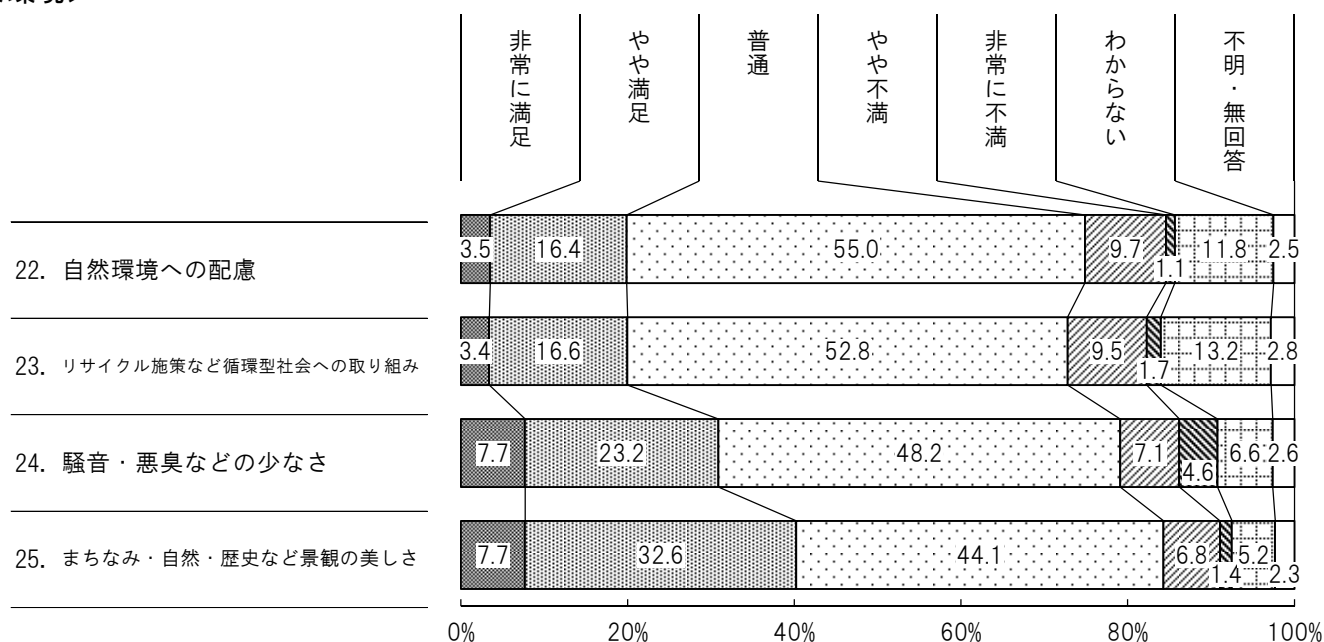
■ 満足（「非常に満足」＋「満足」） ■ 普通 □ 不満（「やや不満」＋「非常に不満」）

全体 N=651

長野地域 N=116 東地域 N=141 千代田地域 N=128 西地域 N=62 加賀田地域 N=77 美加の台地域 N=51 南花台地域 N=52

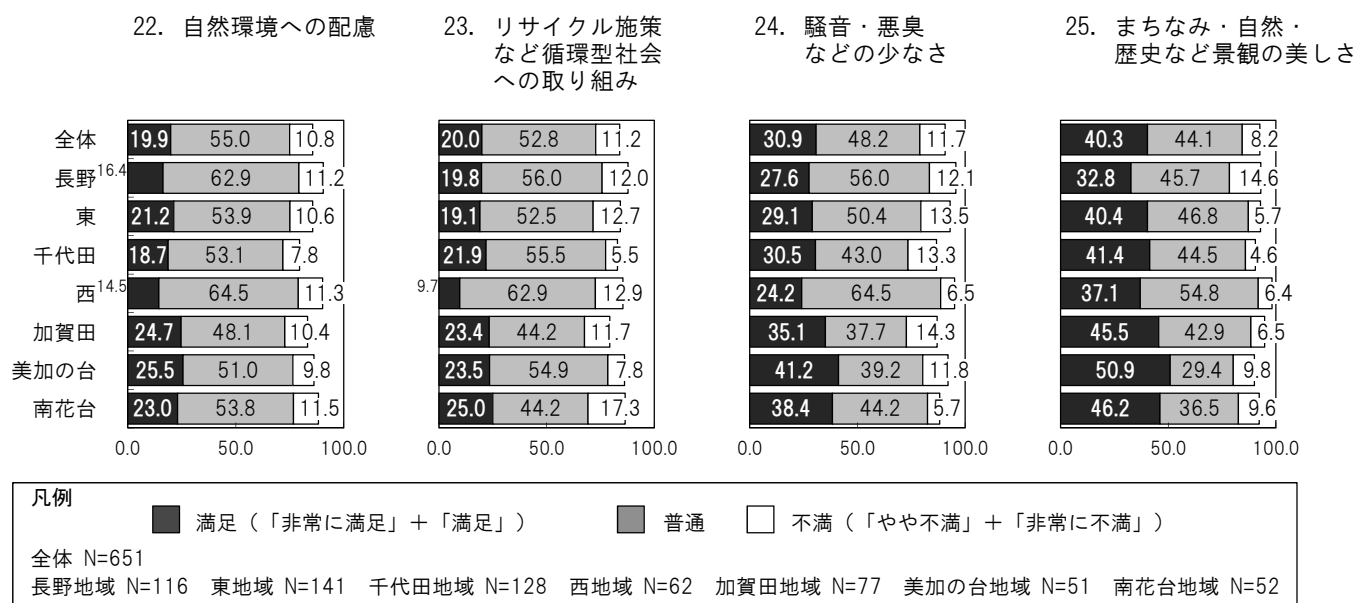
地域別にみると、[人権の尊重と平和意識の高揚]と[男女共同参画の推進]は加賀田地域と美加の台地域で『満足』が1割を超えている。[国際交流や多文化共生社会の推進]については、南花台地域で『不満』が17.3%となっている。

<環境>



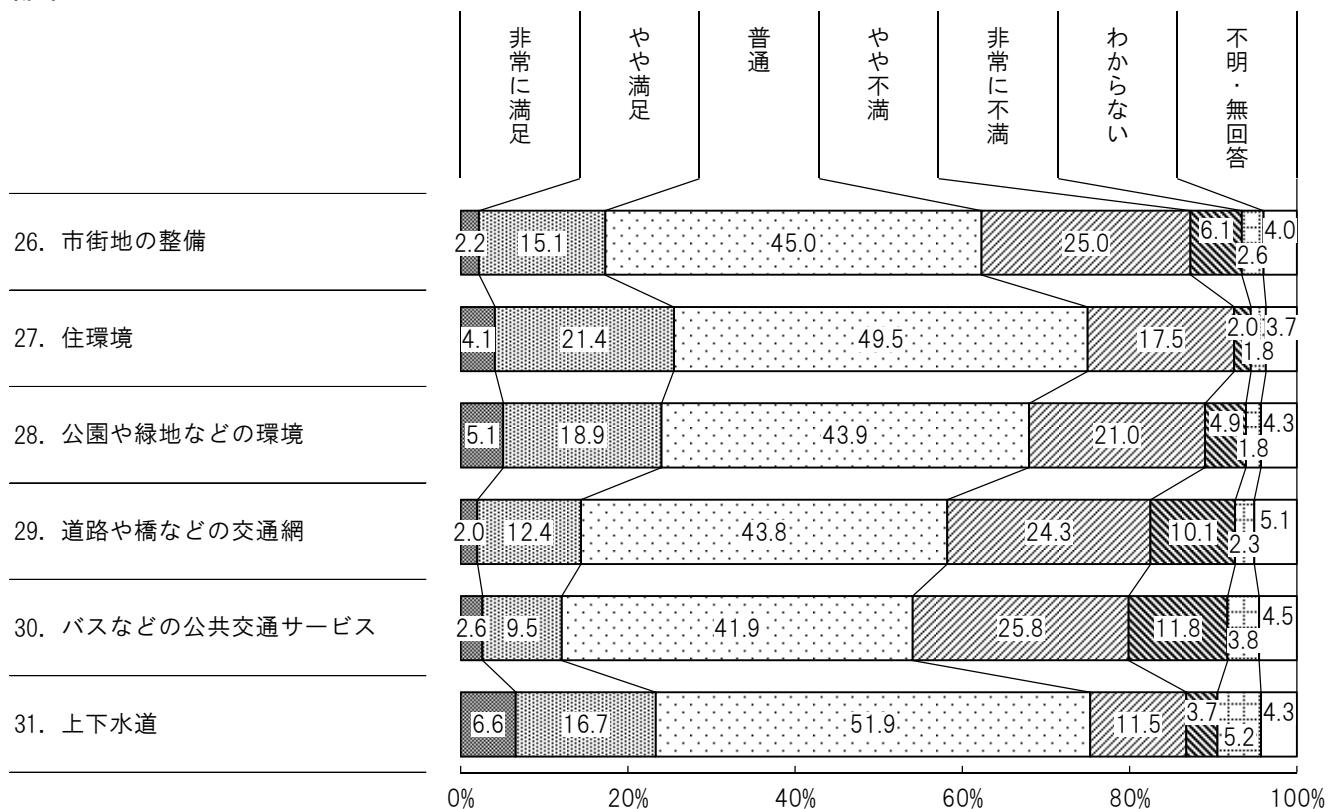
<環境>の分野では、[まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ]と[騒音・悪臭などの少なさ]について、『満足』が40.3%、30.9%と多くなっている。

■ 地域別



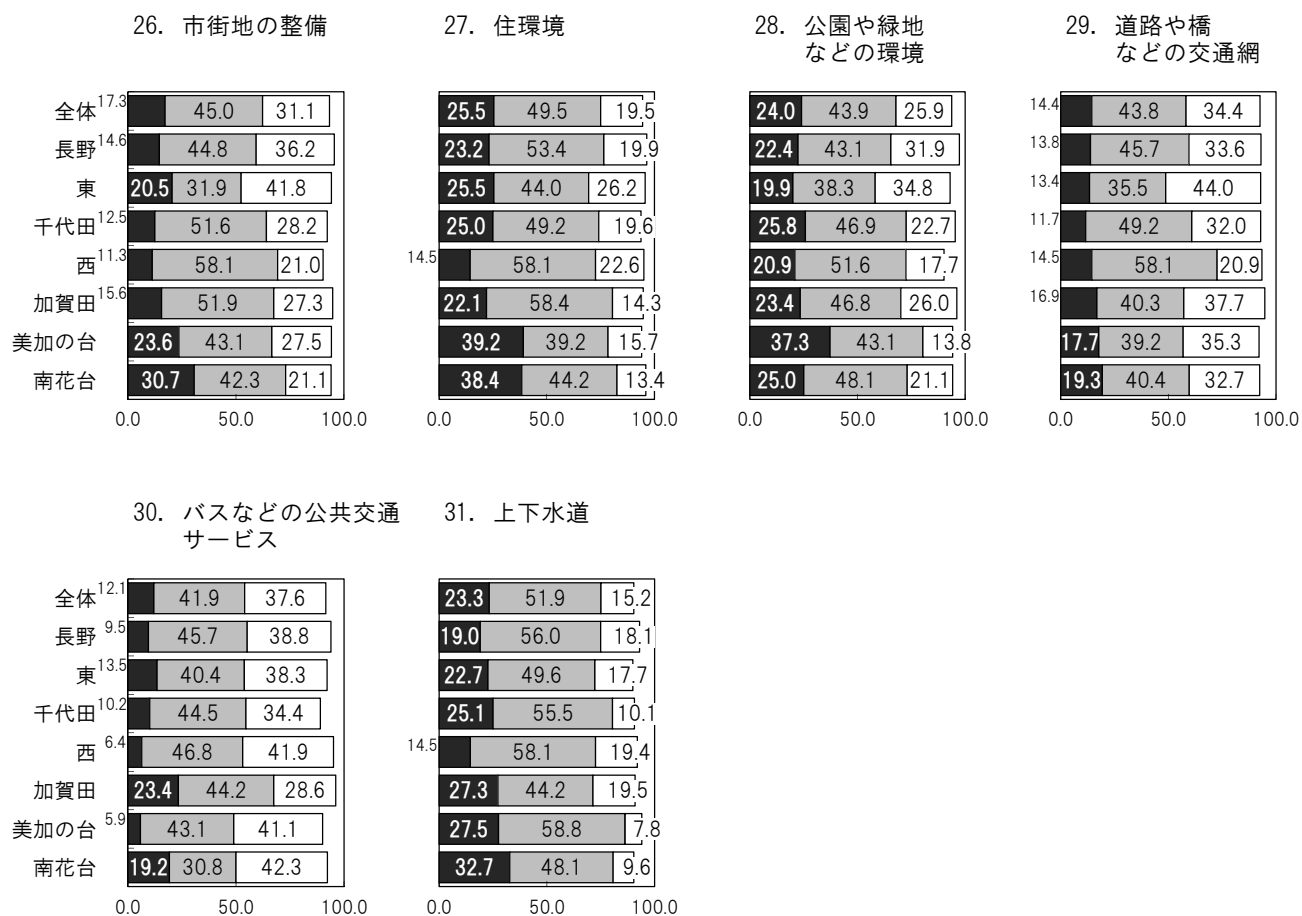
地域別にみると、[リサイクル施策など循環型社会への取り組み]は西地域で『満足』が9.7%と1割を下回っている。[騒音・悪臭などの少なさ][まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ]は加賀田地域、美加の台地域、南花台地域で『満足』が多くなっている。

<都市基盤>



<都市基盤>の分野では、[バスなどの公共交通サービス]、[道路や橋などの交通網]、[市街地の整備]で『不満』の割合が3割を超えている。[住環境] [公園や緑地などの環境] [上下水道]については『満足』が2割を超える。

■ 地域別



凡例

■ 満足（「非常に満足」＋「満足」） ■ 普通 □ 不満（「やや不満」＋「非常に不満」）

全体 N=651

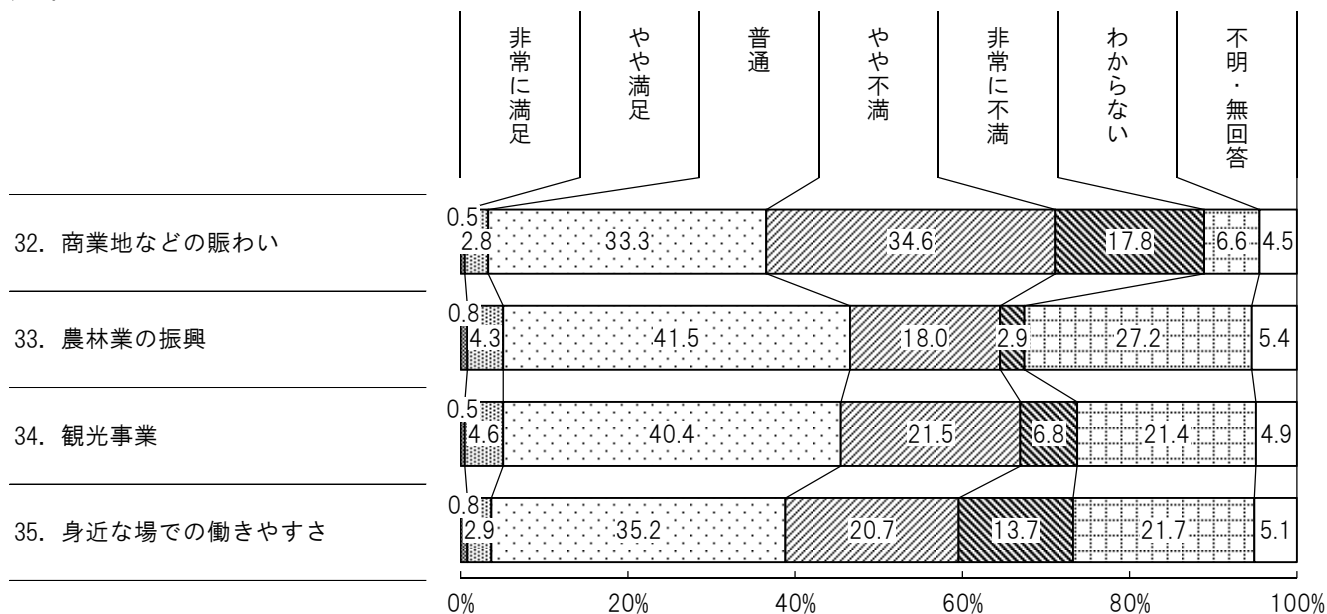
長野地域 N=116 東地域 N=141 千代田地域 N=128 西地域 N=62 加賀田地域 N=77 美加の台地域 N=51 南花台地域 N=52

地域別にみると、「市街地の整備」と「住環境」は、美加の台地域、南花台地域で他の地域より『満足』が多くなっている。

「公園や緑地などの環境」は美加の台地域で『満足』が 37.3%と多くなっている。「道路や橋などの交通網」は、西地域で「普通」が 58.1%を占め、『不満』が他の地域よりも少ない。

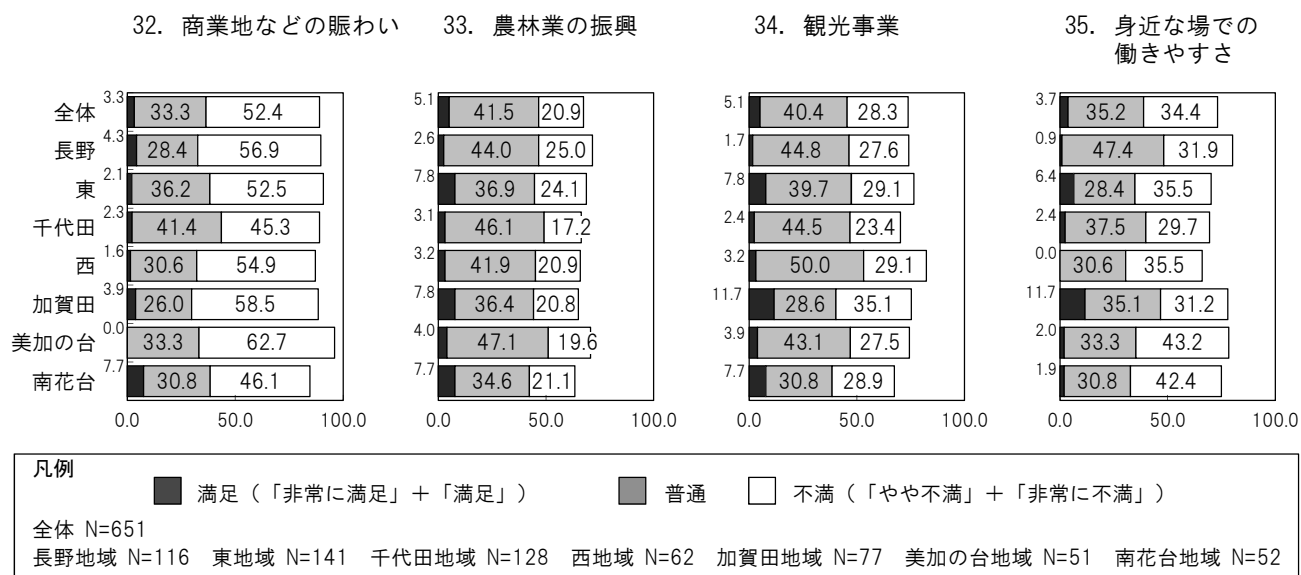
「バスなどの公共交通サービス」は、『満足』が加賀田地域で 23.4%、南花台地域で 19.2%と多くなっている。

<産業>



<産業>の分野では、いずれの項目も『不満』の割合が多く、[商業地などの賑わい]で52.4%、[身近な場での働きやすさ]で34.4%となっており、「非常に不満」の割合だけでも1割を超えている。

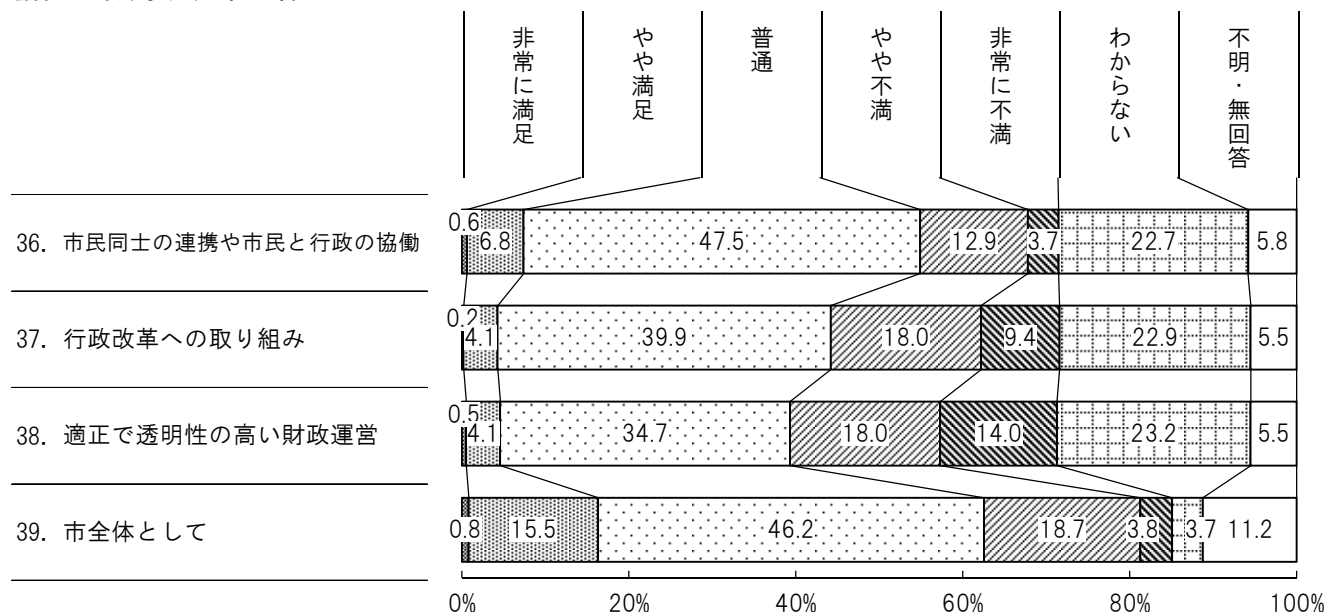
■ 地域別



地域別にみると、[商業地などの賑わい]は美加の台地域で『不満』が62.7%と多くなっている。

[身近な場での働きやすさ]は加賀田地域で『満足』が11.7%とやや多くなっているが、美加の台地域、南花台地域では『不満』が4割を超えている。

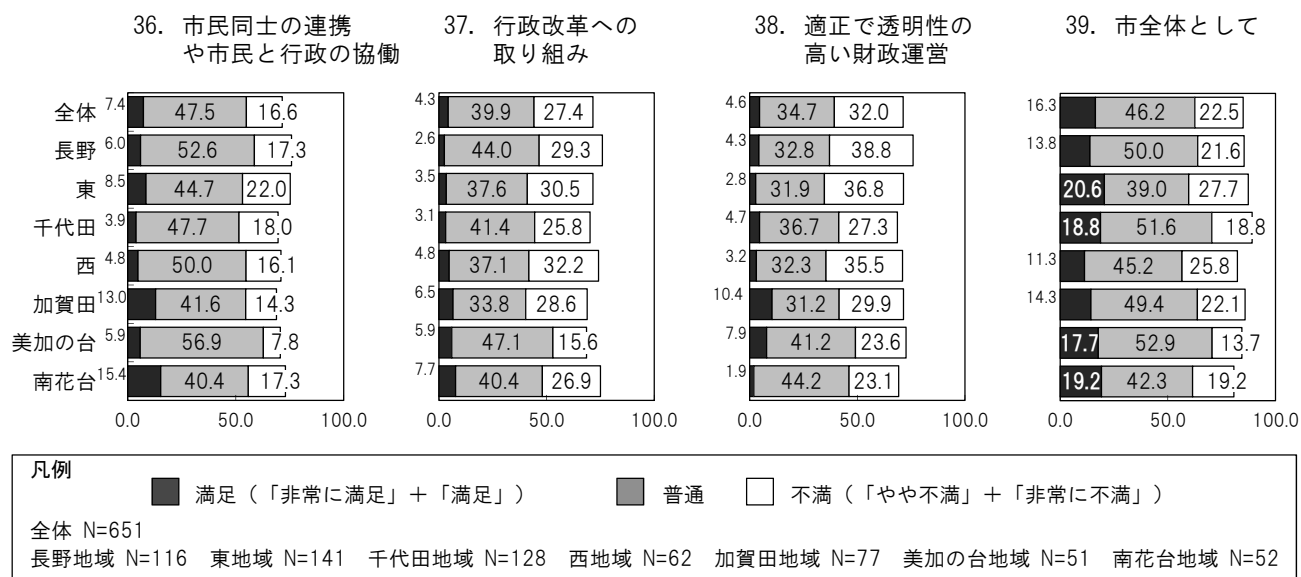
<協働・行財政、市全体として>



※協働：市民・行政・事業者などが、お互いの立場を理解し、尊重し合いながら、対等な関係で、共通の目的を持って、まちづくりを進めること

<協働・行財政、市全体として>の分野では、[適正で透明性の高い財政運営]について『不満』が32.0%と多い。[市全体として]については、『満足』が16.3%、『不満』が22.5%で『不満』の方が多くなっている。

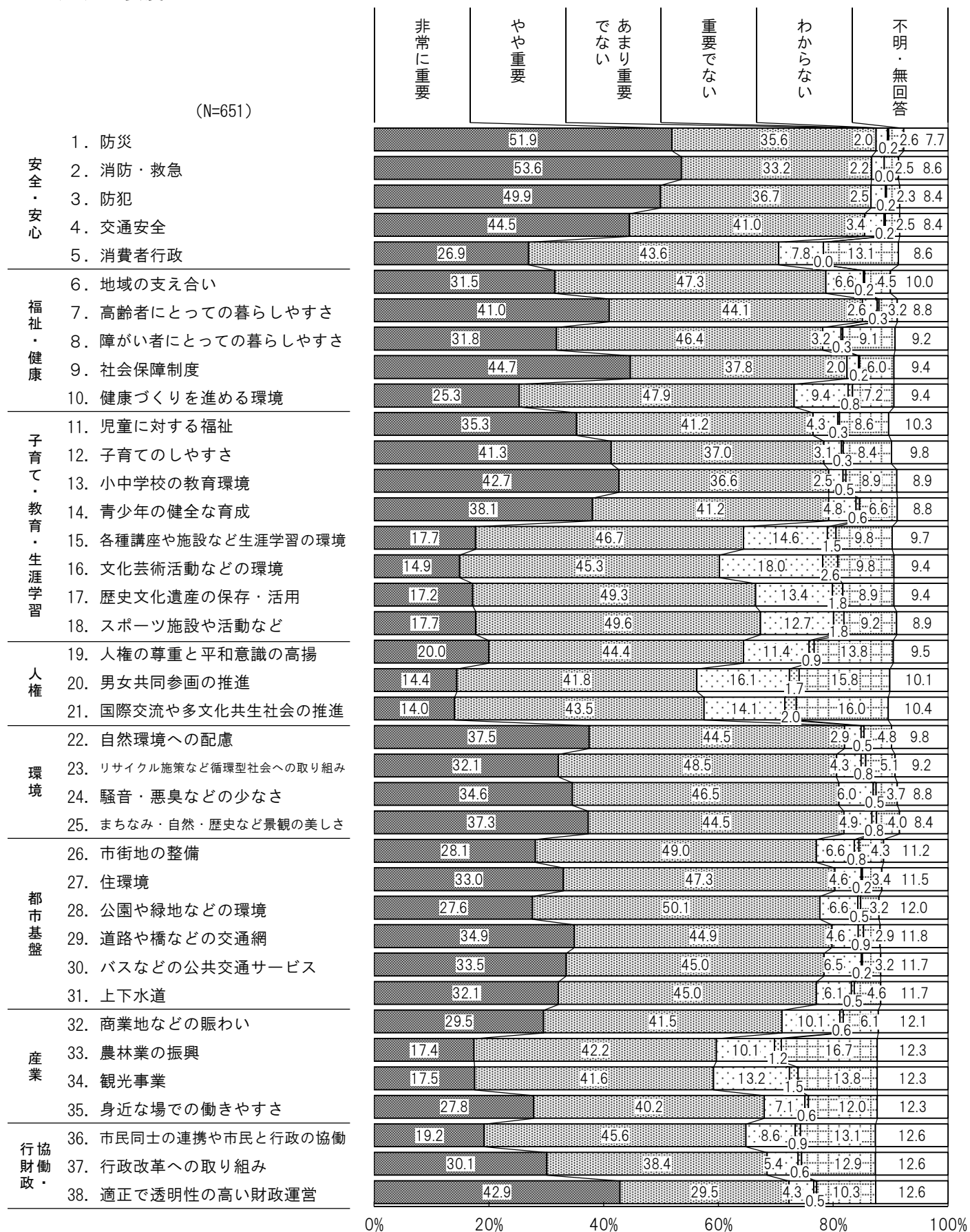
■ 地域別



地域別にみると、[市民同士の連携や市民と行政の協働]は加賀田地域と南花台地域で『満足』が1割を超えている。[市全体として]は、美加の台地域では『満足』が17.7%で全地域の中で唯一『不満』の割合を上回っている。一方、西地域では『不満』が25.8%で『満足』よりも14.5ポイント多くなっている。

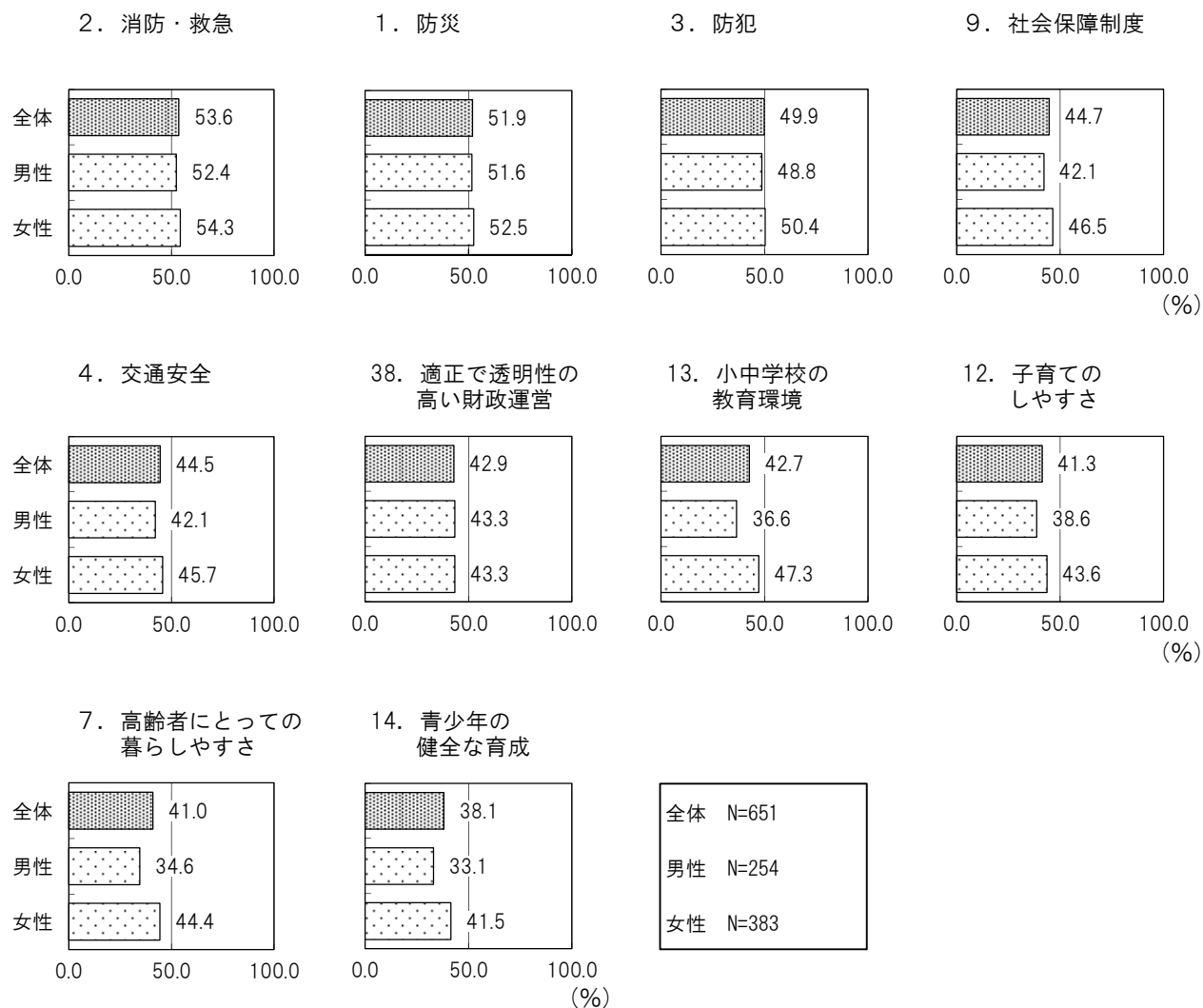
(2) 重要度

(N=651)



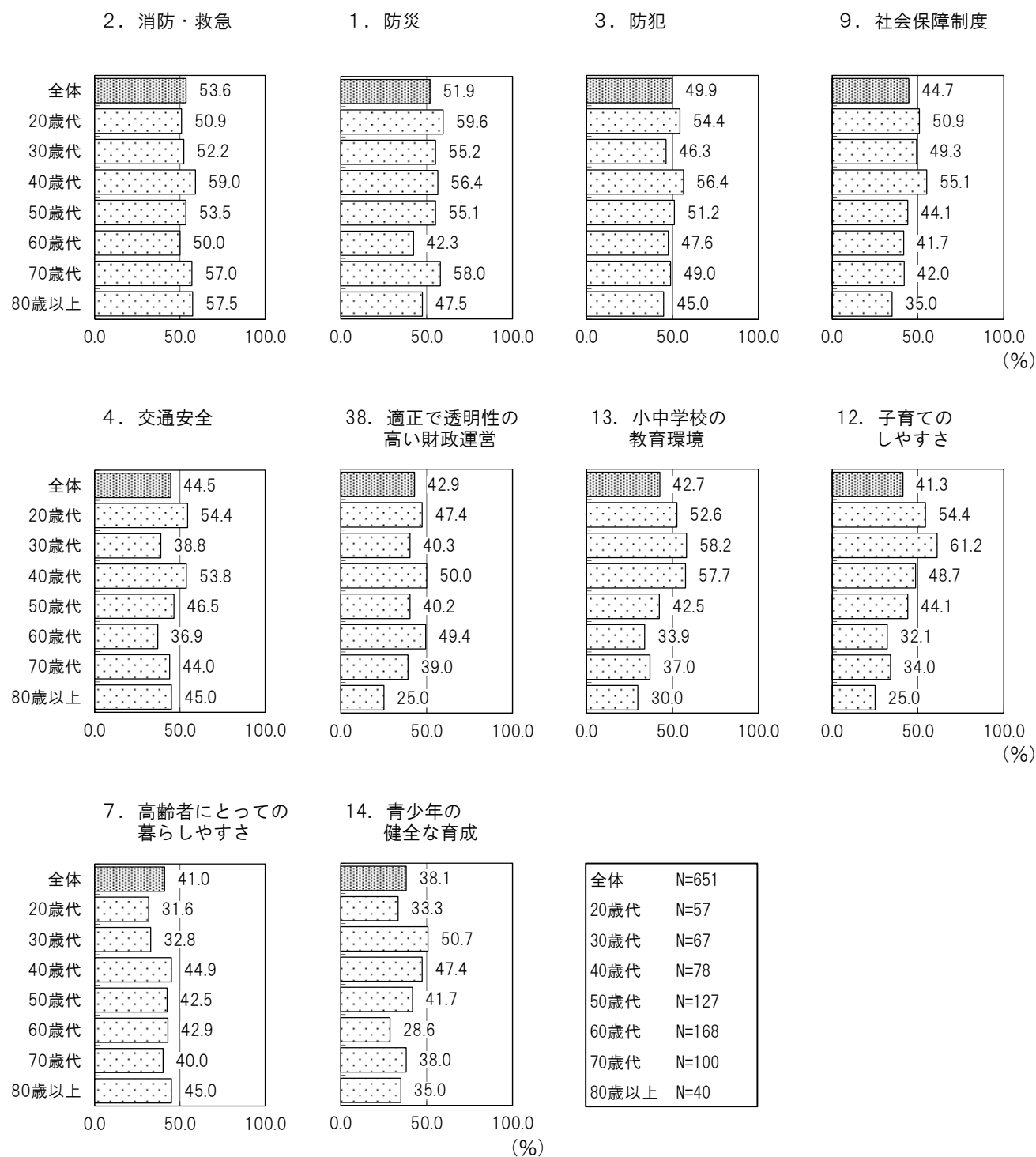
『重要』（「非常に重要」と「やや重要」）の合計）の割合をみると、[防災] が 87.5%で最も多く、次いで [消防・救急]（86.8%）、[防犯]（86.6%）、[交通安全]（85.5%）、「高齢者にとっての暮らしやすさ」（85.1%）が続いている。

■ 性別



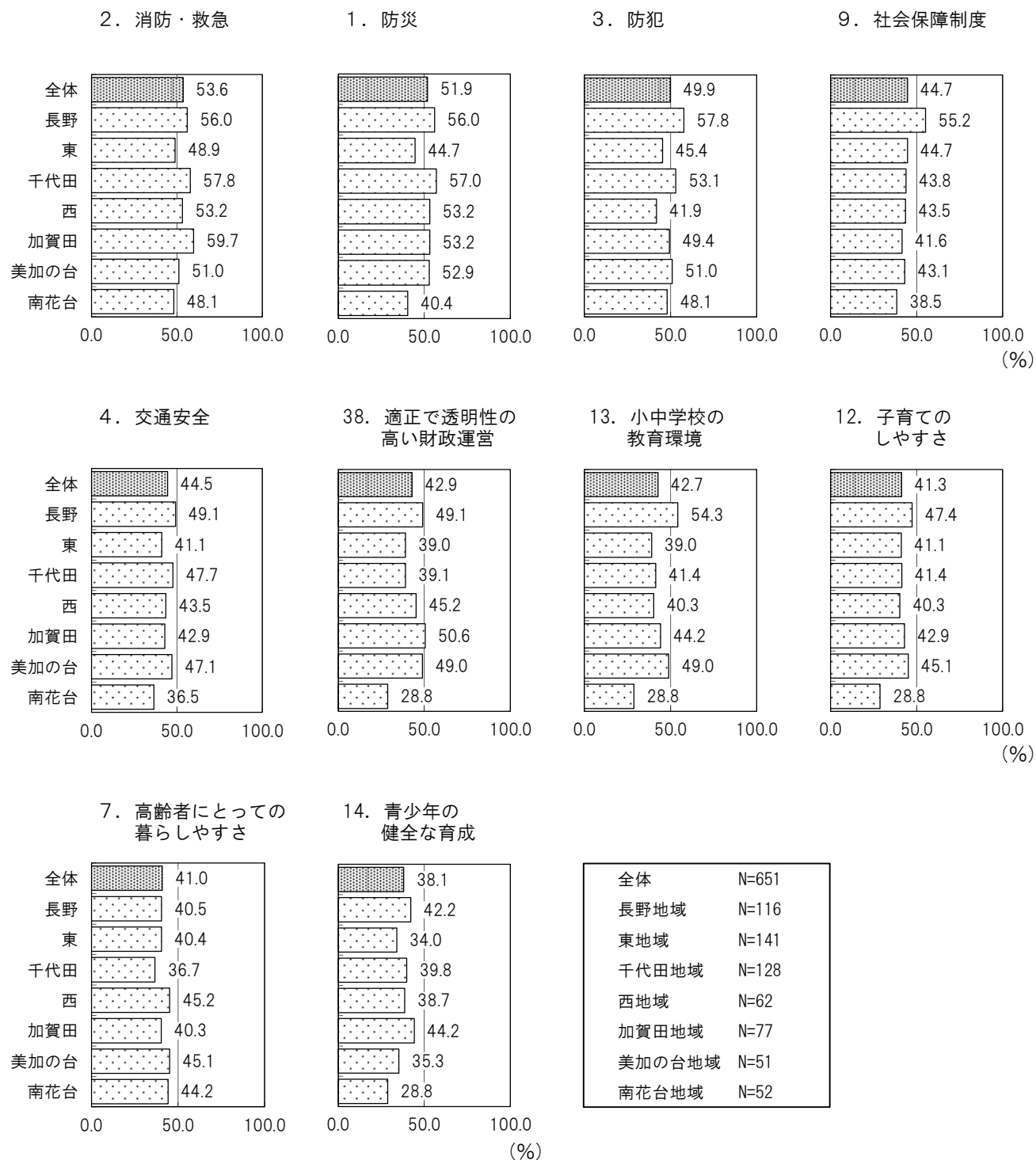
市の施策の重要度について、5段階評価のうち「非常に重要」の回答のみを抽出し、上位10項目を性別で集計した。[適正で透明性の高い財政運営]を除くすべての項目において、女性の方が男性よりも「非常に重要」の割合が多く、[小中学校の教育環境]では10.7ポイント、[高齢者にとっての暮らしやすさ]では9.8ポイント、[青少年の健全な育成]では8.4ポイントの差が開いている。

■ 年代別



「非常に重要」の上位10項目を年代別にみると、子育て世代の多い30歳代をピークに「子育てのしやすさ」「小中学校の教育環境」「青少年の健全な育成」で重要度が5～6割となっており、他の年代よりも多い。また、40歳代は「社会保障制度」で55.1%と全体よりも10.4ポイント多くなっている。

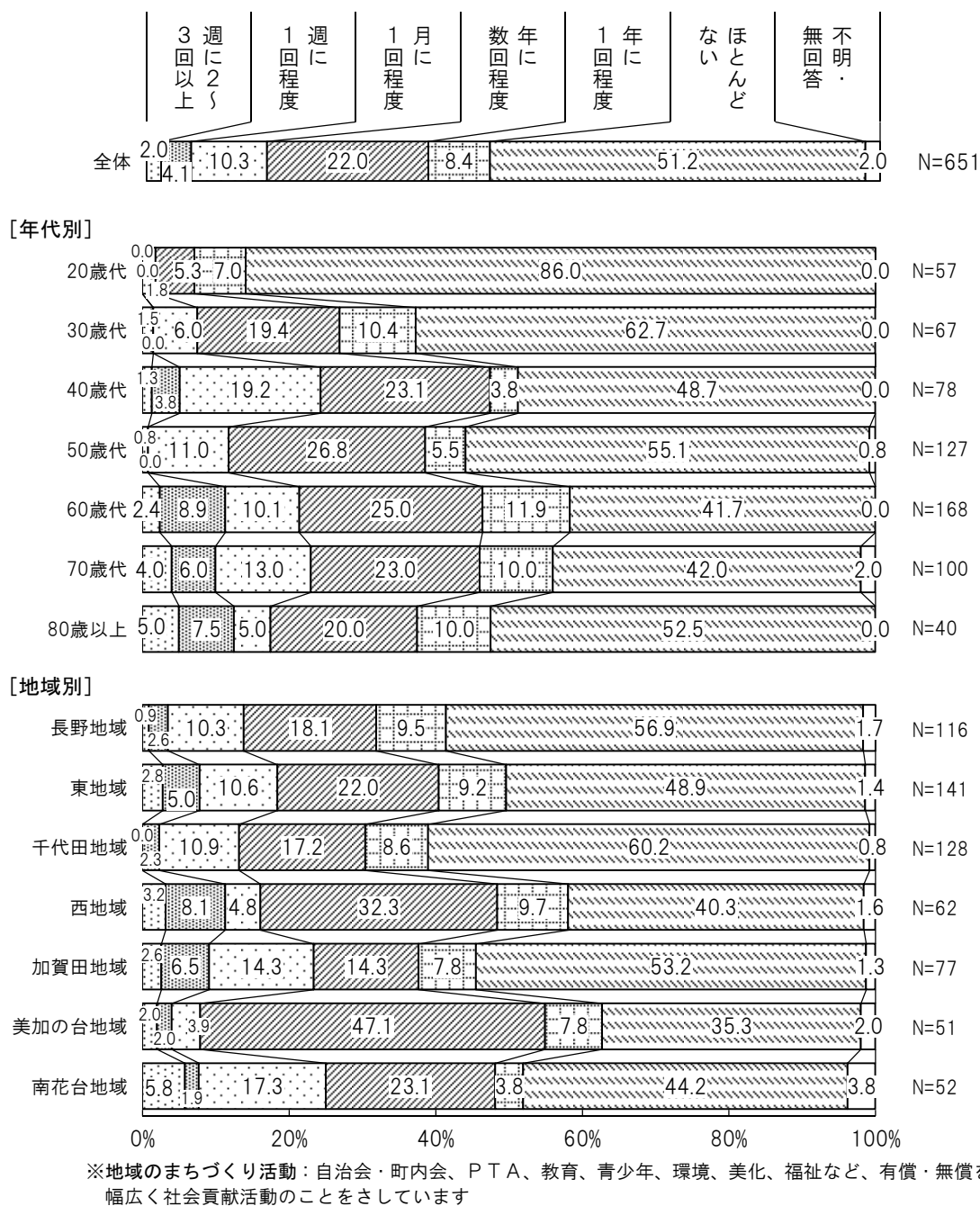
■ 地域別



「非常に重要」の上位 10 項目を地域別にみると、長野地域は「社会保障制度」と「小中学校の教育環境」がそれぞれ 55.2%、54.3%で他の地域よりも多くなっている。南花台地域は「高齢者にとっての暮らしやすさ」を除いたすべての項目で全体よりも割合が低くなっている。

(3) まちづくりの活動への参加状況

問 31 あなたはこの1年で、地域のまちづくり活動にどの程度参加されましたか。(○は1つ)



地域のまちづくり活動への参加状況は、「ほとんどない」が51.2%で最も多くなっている。参加している頻度では、「年に数回程度」が22.0%、「月に1回程度」が10.3%、「年に1回程度」が8.4%の順となっている。

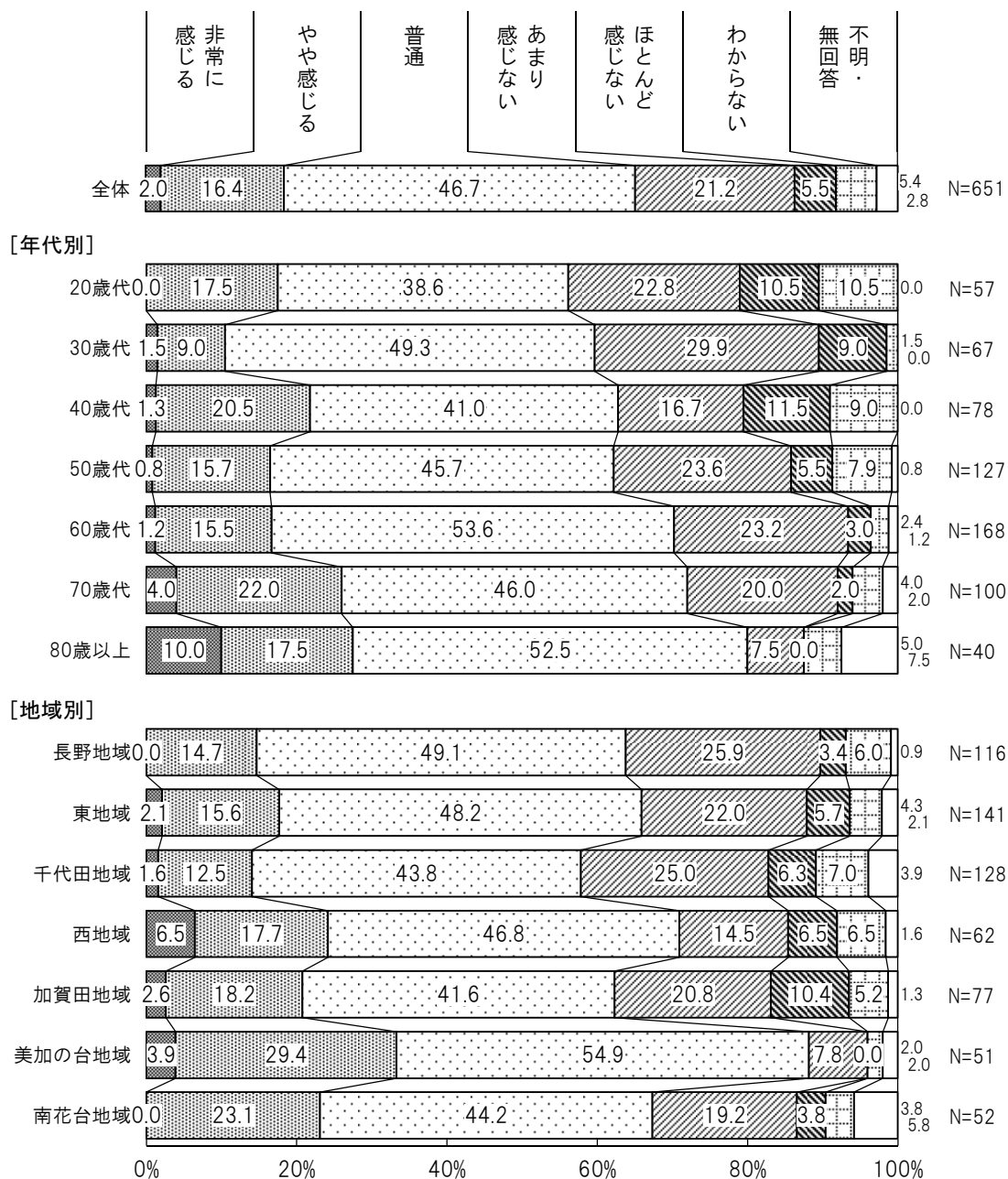
年代別にみると、60歳以上で週に1回以上参加している人が1割を超える。20歳代、30歳代、50歳代、80歳以上では半数以上が「ほとんどない」と回答している。

地域別にみると、美加の台地域では「ほとんどない」の回答が他よりも低く、「年に数回程度」以上参加している人が半数を超えている。南花台地域と加賀田地域は、「月に1回程度」以上参加している人の割合が他よりも多い。

（４）河内長野市に関する意識

問 32 あなたは、次の項目について、どのように感じていますか。各項目についてあなたのお考えに近い番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つ）

< １．地域のまちづくり活動が充実していると感じている >

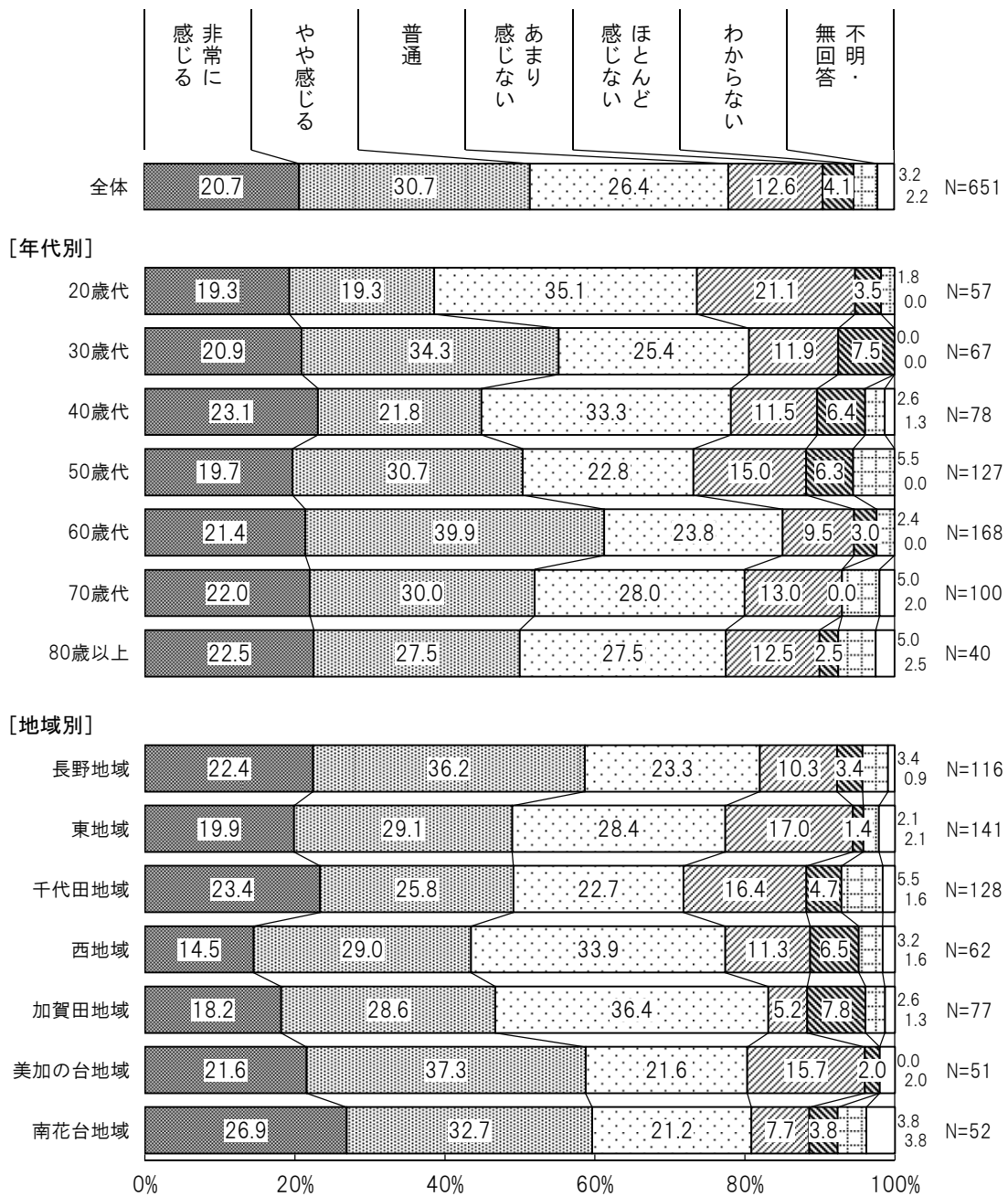


まちづくり活動の充実について、『感じる』（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）が18.4%、『感じない』（「あまり感じない」と「ほとんど感じない」の合計）が26.7%となっており、充実していないと感じる人の方が多い。

年代別にみると、40歳代と70歳以上では『感じる』が2割を超えて他の年代よりも多くなっている。30歳代では『感じない』が38.9%と多い。

地域別にみると、美加の台地域では『感じる』が33.3%と多くなっている。

< 2. 河内長野市に住み続けたいと感じている >

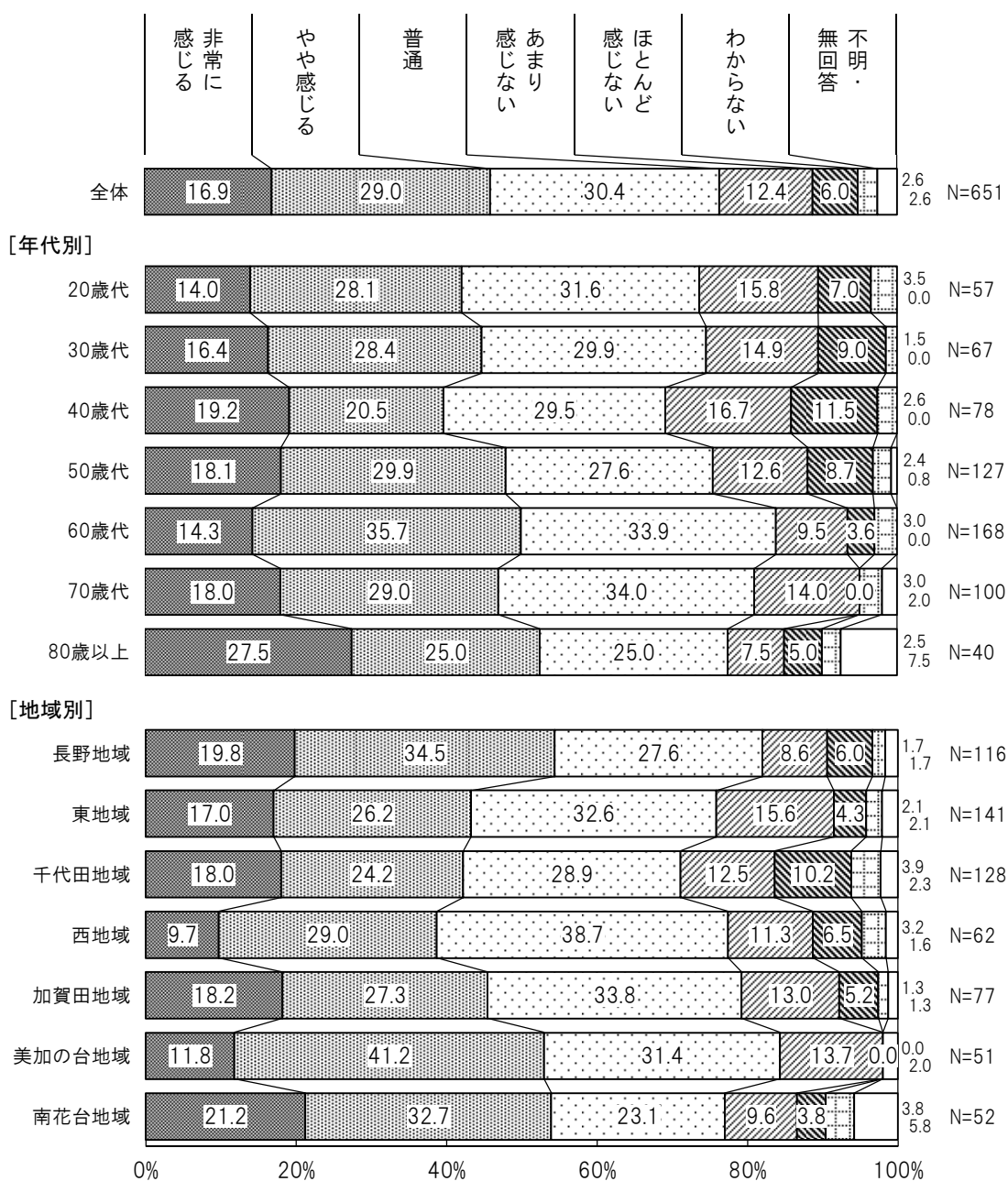


河内長野市に住み続けたいと感じている割合は、「やや感じる」が30.7%で最も多く、「非常に感じる」(20.7%) と合計すると、『感じる』が半数を占める。

年代別にみると、60歳代は『感じる』の割合が多く61.3%となっている。20歳代では、『感じる』が38.6%、『感じない』(「あまり感じない」と「ほとんど感じない」の合計)が24.6%となっており、全体と比べて居住継続意向が少ない。

地域別にみると、南花台地域、長野地域、美加の台地域で『感じる』が約6割を占める。

< 3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている >



河内長野市への愛着と誇りは、「普通」が30.4%で最も多く、僅差で「やや感じる」が29.0%となっている。「非常に感じる」と「やや感じる」を合計した『感じる』の割合は45.9%で、『感じない』（「あまり感じない」と「ほとんど感じない」の合計）の18.4%を大きく上回る。

年代別にみると、50歳以上の年代では『感じる』が約5割を占めているが、40歳代では『感じる』が39.7%、『感じない』が28.2%となっており、他の年代と比べて『感じない』がやや多い。

地域別にみると、長野地域、南花台地域、美加の台地域では『感じる』が5割を超えている。一方、千代田地域は『感じない』が22.7%と2割を超えており、他の地域よりやや多い。

IV. まとめ

1. 森林づくりについて

森林へ行った目的について

この1年間に市内の山（森林）に行った経験がある人は約4割、経験がない人は約6割となっており、前回調査（平成18年度）と比べて、山（森林）に行った経験がある人は1割ほど少なくなっている。年代別にみると、山（森林）に行った経験のある人は60歳代・70歳代で多く、20歳代で少ない。山（森林）に行く目的としては、「風景や景観を楽しむため」「登山やハイキング、キャンプを楽しむため」「森林浴により、リフレッシュするため」などの余暇活動が多く挙げられている。

森林の機能について

日常生活において森林から受ける恩恵をどのくらい実感しているかについては、「大気浄化」「水源としての雨水の貯留や水質浄化」「二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止」「土砂崩れや洪水などの災害防止」などの環境保全に関する項目で恩恵を感じている人が多くなっている。一方、「薪や木材チップなどのバイオマス資源の生産」「木材の生産」「きのこ類や山菜などの林産物の生産」といった生産的な機能については、他の項目よりも恩恵を感じている人が少ない。今後森林に期待する機能についても同様の傾向がみられ、土砂災害防止機能、大気浄化、水源涵養機能、温暖化防止などに期待する人が多い。

森林づくり活動への参加について

森林を健全に維持するために市民も参加して守り育てていくことが必要かとの質問に対しては、「必要と思う」と回答した人が8割以上を占めているが、森林づくり活動への参加状況についてみると、これまでに参加したことがあるという人は1割未満にとどまっている。参加内容は、『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力が45.2%、「森林づくりに関する体験学習会やイベント」が35.5%となっており、「森林づくりに関する体験学習会やイベント」は前回調査の25.0%より10.5ポイント多くなっている。

今後の森林づくり活動への参加意向は、「参加したい」が49.8%と約半数を占めているが、前回調査の61.7%と比較すると10ポイント以上「参加したい」と答えた人が少なくなっている。年代別にみると、40歳代は6割が参加したいと答えている。参加したい内容については、「森林づくりに関する体験学習会やイベント」が5割近く、「緑の募金」等への協力が約4割となっている。

森林の維持について

森林を維持するために負担してもよいと思う金額は、「500円以上1,000円未満」を選んだ人が最も多く、「100円未満」「100円以上500円未満」と合わせた1,000円未満の額を選んだ人が6割を超えている。年代別にみると、年代が低い層ほど1,000円未満の割合が多くなる傾向がみられる。

市域の森林を維持するために力をいれるべき施策については、「間伐材や木くずなどを建設資材やエネルギー源として有効活用する」が約6割、「林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る」が約5割となっている。

2. 人権問題について

人権問題全般について

関心のある人権問題としては、「高齢者」「子ども」「障がい者」が4割を超えて多くなっている。年代別にみると、50歳以上では「高齢者」、30歳代・40歳代では「子ども」、20歳代では「障がい者」の割合が最も多くなっている。

差別に関する基本的な考えについては、「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」「差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある」「あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」という考え方に8～9割台の人が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」としている。大阪府調査（平成22年度）や前回調査（平成19年度）と比較すると、「差別は世の中に必要なこともある」「差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い」「差別される人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」といった考え方に「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」とする人が今回調査では多くなっている。

人権問題についての学習経験について

人権問題についての学習経験は、60歳未満の人の多くは小中学校で受けたことがあるとみられ、60歳以上の人では職場の研修で受けたという人が2～3割台となっている。最も役に立った学習経験についても、60歳未満の人では小学校での学習、60歳以上の人では職場の研修を挙げる人が多い。学習した分野としては同和問題が5割超と多いが、年代別にみると20歳代・30歳代では「障がい者」、「女性・男女共同参画」など同和問題以外の分野も多くなっている。

人権問題についての考え

結婚を考える際に気になること（なったこと）については、男女ともに「人柄、性格」や「趣味や価値観」を挙げる人が多いが、女性では「経済力」「職業」、男性では「容姿」を挙げる人が目立つ。「同和地区出身者かどうか」「国籍・民族」「相手やその家族に障がい者がいるかどうか」を気になること（なったこと）として挙げた人は、男女とも2割未満となっている。回答者の子どもの結婚の場合については、自分自身の場合と比べて「趣味や価値観」「容姿」が少なく、「経済力」「家事や育児の能力や姿勢」「離婚歴」などが多くなっている。

住宅を選ぶ際の意識についてみると、「同和地区の地域内である」には約6割が、「小学校区が同和地区と同じ区域になる」には約5割が、「避けると思う」もしくは「どちらかといえば避けると思う」と回答しており、宅地建物取引等の場における同和地区に対する忌避意識の強さがうかがえる。大阪府調査と比較しても、同和地区、低所得者など生活が困難な人が多く住んでいる地域を避ける人の割合は多くなっている。同和地区、低所得者や外国籍の住民が多く住んでいる地域などを避ける人がいる理由としては、「治安の問題などで不安があると思うから」や「生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから」といった理由が多く挙げられている。

さまざまな人権問題について

女性に関する人権問題としては、「痴漢やストーカーなどの性的暴力」「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」「職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい等）を受けること」が5割前後となっている。性別にみると「男女の固定的な役割分担意識（「家事は女性」等）に基づく差別的取扱いを受けること」「ドメスティック・バイオレンス（配偶者やパートナーからの暴力）」は女性の方が10ポイント以上多くなっている。

子どもに関する人権問題としては、「いじめを受けること」が77.9%と多く、特に20歳代では89.5%と極めて高い割合となっている。また、「携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること」「いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをする」「虐待（身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等）を受けること」がいずれも6割を超えており、いじめや児童虐待問題に対する関心の高さがうかがえる。

高齢者に関する人権問題としては、「悪徳商法の被害が多いこと」が63.4%で最も多く、これに次いで、60歳未満の年代では「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること」が、60歳以上の年代では「働く能力を発揮する機会が少ないこと」が、それぞれ多くなっている。

障がい者に関する人権問題としては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が57.0%で最も多く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」が43.5%となっており、働く場などにおける問題がトップを占めている。また、「差別的な言動をされること」「結婚問題で周囲の反対を受けること」が4割を超えている。

日本に居住している外国人に関する人権問題としては、「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」が43.5%で最も多く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」が31.6%となっている。年代別にみると、60歳以上の年代では「わからない」が比較的多くなっている。

インターネットによる人権侵害としては、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が73.4%で最も多く、これに、60歳未満の年代では「プライバシーに関する情報が掲載されること」、60歳以上の年代では「出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること」が続いている。

エイズ患者・HIV感染者やその家族、ハンセン病患者・回復者やその家族に関する人権問題としては、「結婚問題で周囲の反対を受けること」が5割近くとなっている。「わからない」はいずれの年代でも2割を超えている。

犯罪被害者やその家族に関する人権問題としては、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」と、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」がともに6割を超えて多くなっている。女性では、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること」「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が、男性より10ポイント以上多くなっている。

性的マイノリティに関する人権問題としては、「わからない」と回答した人が最も多くなっており、50歳以上の年代では4割を超えている。

同和問題について

同和問題や部落問題をはじめて知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が約4割、「父母や家族から聞いた」が約3割となっており、大阪府調査よりも「学校の授業で教わった」の割合が多くなっている。年代別にみると、60歳未満の年代では「学校の授業で教わった」、60歳以上の年代では「父母や家族から聞いた」が最も多くなっている。

学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区の人に対する差別的な発言をしたときの対応については、「表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする（と思う）」が最も多くなっているが、60歳未満の世代では「何もせずに黙っている（と思う）」「ほかの話題に転換するよう努力する（と思う）」が比較的多くなっている。

人権侵害について

自身や家族が人権侵害を受けたときの対応については、「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」が最も多く、次いで「相手に抗議する」となっている。性別にみると、男性は「身近な人（家族や友人、教師など）に相談する」よりも「相手に抗議する」が多い。公的機関（法務局や人権擁護委員、市役所、警察）や弁護士に相談すると答えた割合についてはそれぞれ2割前後となっているが、市役所や警察に相談すると答えた人の割合は前回調査よりもやや多くなっている。

3. 市政全般について

市の生活環境の満足度は、＜環境＞分野の「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」と「騒音・悪臭などの少なさ」において、『満足』（「非常に満足」と「満足」の合計）の割合がそれぞれ約4割、約3割と多い。反対に不満が大きい項目は、「商業地などの賑わい」で『不満』（「やや不満」と「非常に不満」の合計）が5割を超えており、「バスなどの公共交通サービス」、「道路や橋などの交通網」、「身近な場での働きやすさ」など＜都市基盤＞と＜産業＞分野の項目が続いている。

市の施策として重要度が高いものは、「防災」「消防・救急」「防犯」「交通安全」といった＜安全・安心＞分野の項目が特に重視されている。性別にみると「小中学校や幼稚園の教育環境」と「青少年の健全な育成」、「子育てのしやすさ」といった＜子育て・教育・生涯学習＞の分野や、「高齢者にとっての暮らしやすさ」といった項目で女性の方が男性よりも「非常に重要」の割合が多く、その差が開いている。年代別にみると、子育て世代の多い30歳代を中心に「子育てのしやすさ」、「小中学校の教育環境」、「青少年の健全な育成」で重要度が高い。地域別にみると、長野地域で「社会保障制度」「小中学校の教育環境」などの重要度が他の地域よりも高くなっている。

地域のまちづくり活動への参加状況については、「ほとんどない」が約5割で最も多く、参加している人では「年に数回程度」の参加が2割強となっている。年代別にみると60歳～70歳代で参加率が高い。地域別にみると、西地域と美加の台地域で、年1回以上の参加割合は6割前後と多くなっている。

まちづくりの活動が充実していると、『感じる』（「あまり感じる」と「ほとんど感じる」の合計）と答えた人の割合は3割弱で、年代別にみると30歳代に多い。地域別にみると、美加の台地域で『感じる』（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）が3割強で多い。

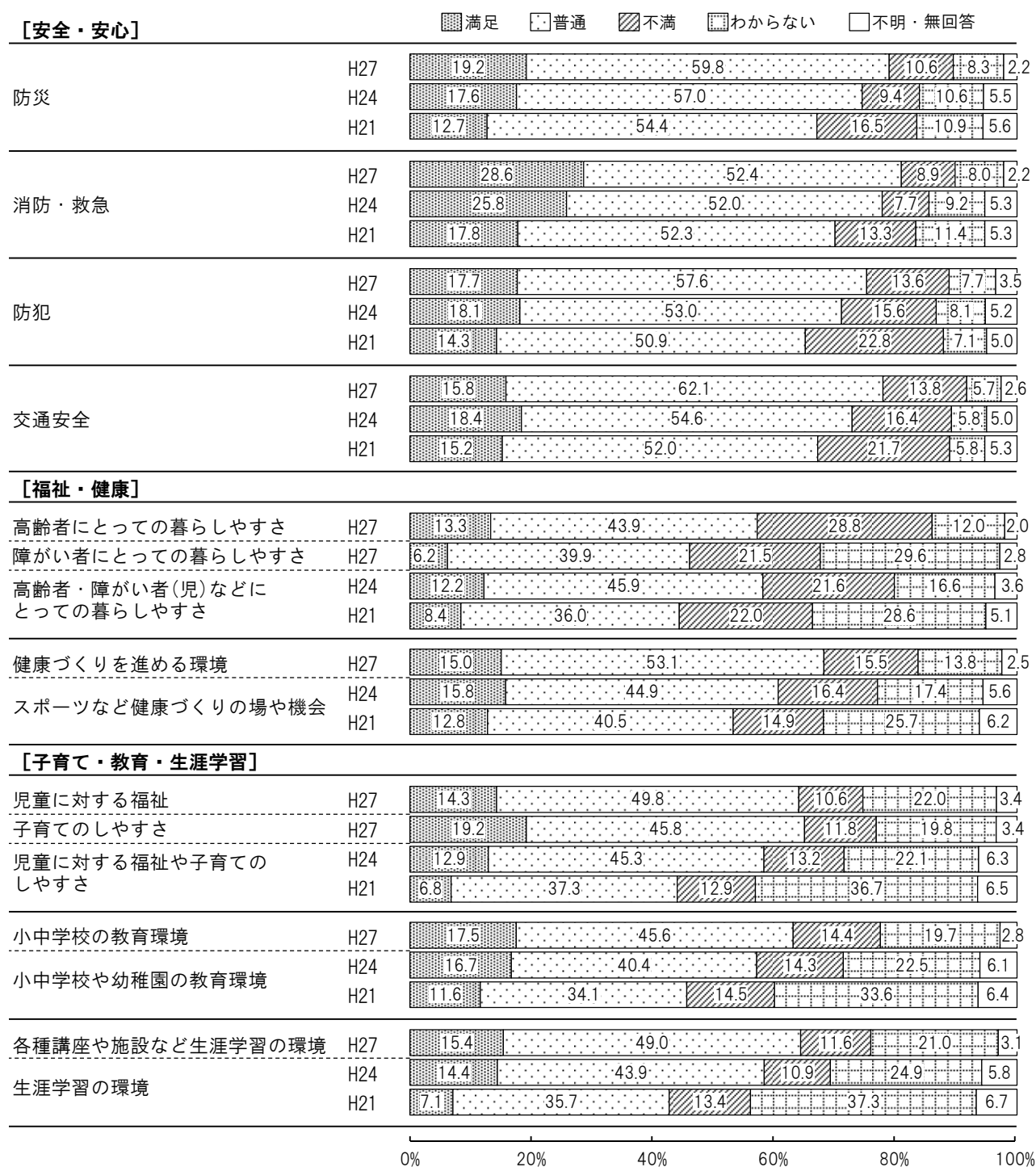
市に住み続けたいと『感じる』（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）の割合は5割を超えており、年代別にみると60歳代と30歳代の人に多い。地域別にみると、南花台地域、美加の台地域、長野地域で居住意向が強い。

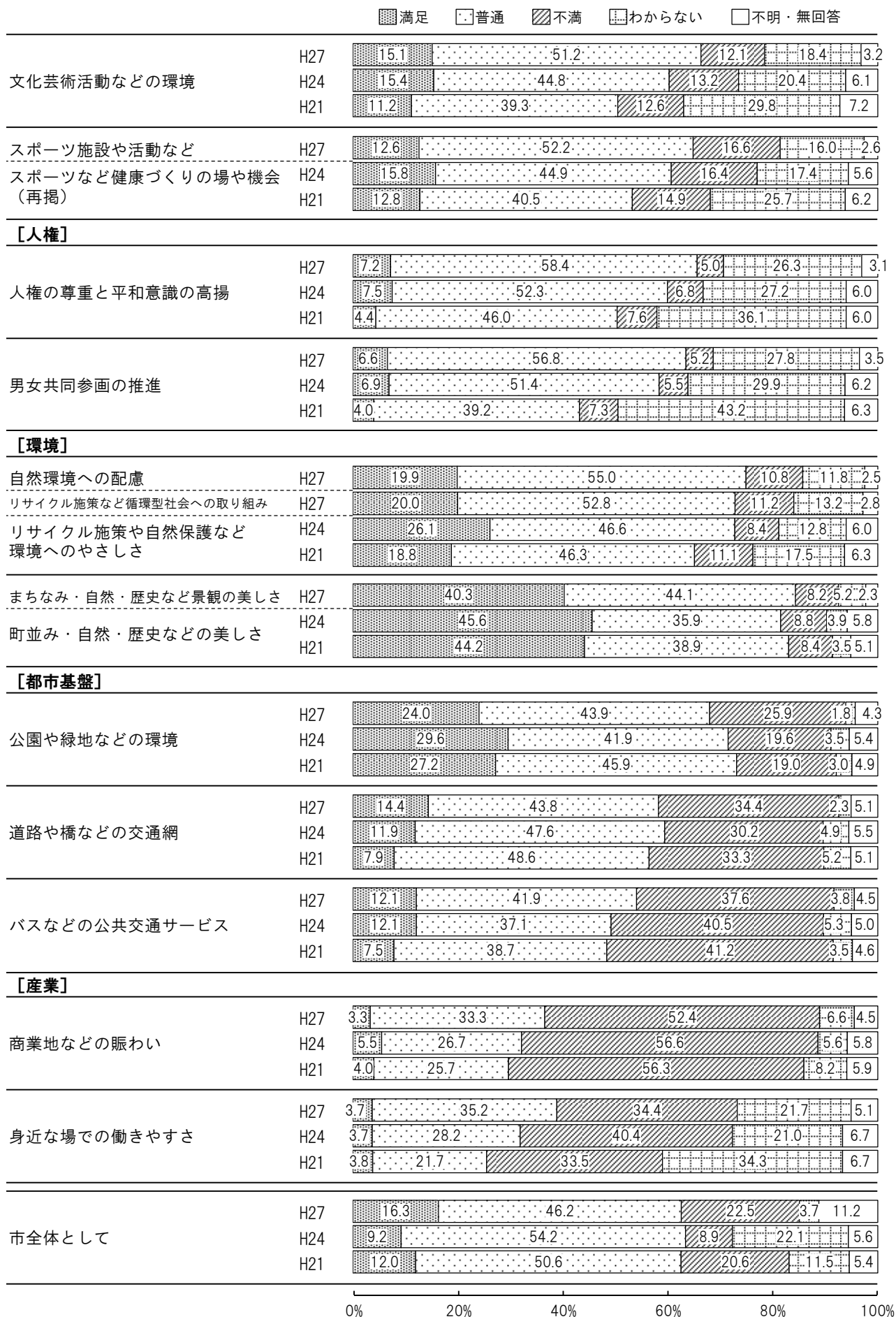
市への愛着と誇りを『感じる』（「非常に感じる」と「やや感じる」の合計）と答えた人は5割弱である。年代別にみると、50歳以上は50歳未満に比べて『感じる』の割合が多い。地域別にみると、長野地域、美加の台地域、南花台地域において、『感じる』の割合が多い。

4. 経年比較

(1) 満足度

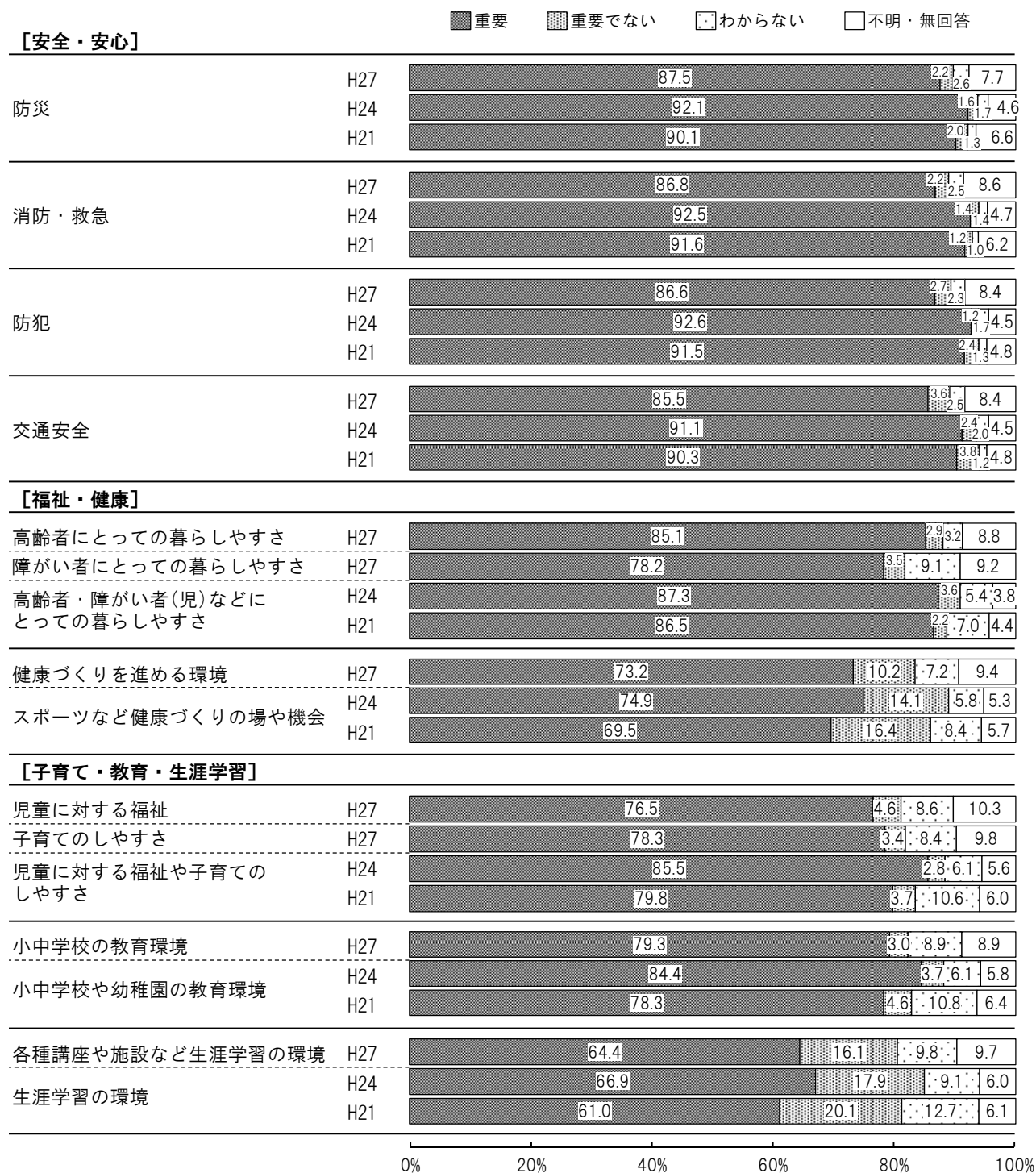
河内長野市の生活環境の満足度・重要度を問う質問は、今回調査より内容を変更しているため過去調査とは質問項目が異なる。参考のために比較可能な項目を満足度について経年比較すると、多くの項目では、「満足」または「普通」の割合が上昇している。

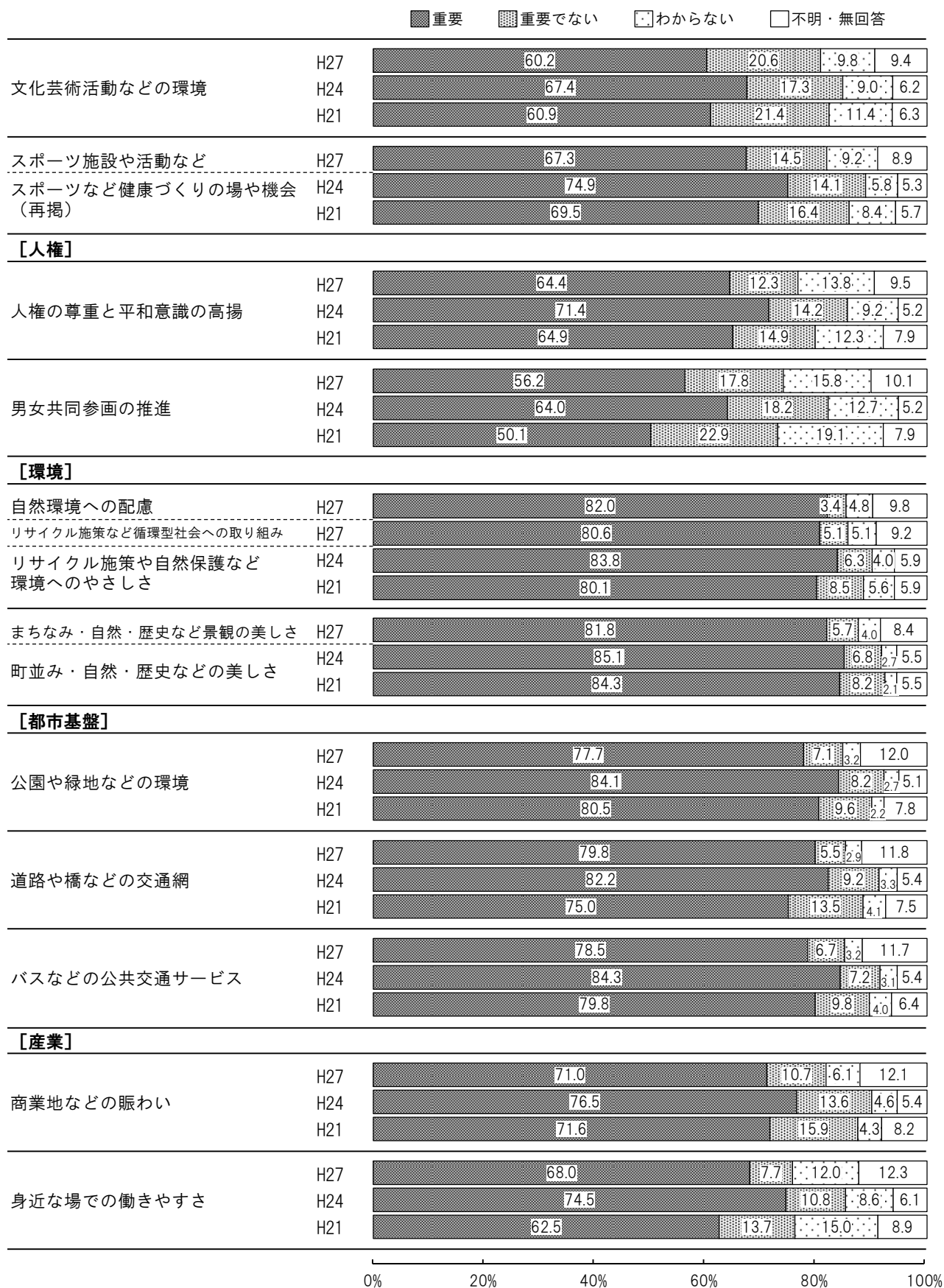




(2) 重要度

〔人権〕〔環境〕〔都市基盤〕〔産業〕の分野では、「重要でない」の割合が平成 21 年度調査、平成 24 年度調査よりも減少している。〔安全・安心〕の 4 項目は、今回調査では 9 割を下回っているが、「重要でない」は極めて少なく、重要度は依然として高い水準にある。





あなたの声を市政に

第42回河内長野市民意識調査

市政アンケート調査のお願い

市民のみなさんには、日頃から市政に対し、何かとご理解とご協力をたまわりありがとうございます。

さて、今年も「市民の声」を市政に反映するため、20歳以上の市民のみなさんの中から2,000人の方々を無作為に選ばせていただき、アンケート調査を実施させていただくことになりました。

今年は、2つのテーマく豊かな森林づくり」とく人権意識について、市民のみなさんの率直なご意見をお聴きすることで、各施策をすすめるうえでの今後の参考資料にしたいと考えております。

アンケートの回答については、すべて統計的に処理し、報告書として市のホームページ、情報センターや図書館で閲覧していただくことができます。（報告書の公開は来年2月頃の予定です。）また、この調査の目的以外には使用いたしません。

ご多忙の折とは存じますが、**8月7日（金）まで**にご回答くださいますよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

※別紙く市政モニター募集のご案内>もご覧ください。



河内長野市長

平成27年7月

ご記入にあたってのお願い

- このアンケート調査は、平成27年6月30日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した個人を対象としていますので、本人による記入が困難な場合を除き、封筒のあて名の方がご自身でご記入ください。
- 回答は問1から順に、質問ごとに用意してある答えの中から、あなたのお考えにあてはまる番号、または項目に○をつけてください。「その他」に○をつけた場合は、()内へ具体的に記入してください。
- 記入後は同封の返信用封筒に入れて封をし、**名前を書かずに郵便ポストへご投函**ください。切手は不要です。（**市政モニターに申し込みをされる方は、別紙用紙も同封してください。**）
- このアンケート調査についてのお問い合わせなどがありましたら、下記までご連絡ください。

<お問い合わせ先> 河内長野市役所（代表電話番号）0721-53-1111
設問 1～8 産業経済部 農林課（内線423）
設問 9～29 総合政策部 人権推進課（内線406）
設問 30～40 総合政策部 都市魅力戦略課（内線421）

V. 資料（調査票）

I. 森林づくりについておたずねします

問1 あなたは、この1年間に市内の山（森林）へ行かれたことがありますか。
(○は1つ)

1. ある 2. ない
問2へ 問3へ

【この1年間に市内の山（森林）へ行かれたことがある方におたずねします】
問2 どのような目的で行かれましたか。(○はいくつでも)

1. 登山やハイキング、キャンプを楽しむため
2. 釣りや山菜採りなどを楽しむため
3. 風景や景観を楽しむため
4. 動植物を観察するため
5. 森林浴により、リフレッシュするため
6. 森林の手入れなど、森林ボランティア活動のため
7. 仕事のため（林業従事者など）
8. その他（具体的に）

【全員の方におたずねします】

問3 あなたは日常の生活において、森林から受ける恩恵をどのくらい実感されていますか。
(○はそれぞれ1つ)

	とても感じている	少しは感じている	あまり感じていない	全く感じていない
1. 木材の生産	1	2	3	4
2. きのこと類や山菜などの林産物の生産	1	2	3	4
3. 水源としての雨水の貯留や水質浄化	1	2	3	4
4. 土砂崩れや洪水などの災害防止	1	2	3	4
5. 大気の浄化	1	2	3	4
6. 二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止	1	2	3	4
7. 森林浴やレクリエーションの場の提供	1	2	3	4
8. 野外教育の場の提供	1	2	3	4
9. 野生動物の生息の場	1	2	3	4
10. 薪や木材チップなどのバイオマス資源の生産	1	2	3	4

問 4 あなたは今後、森林のどのような機能に期待しますか。(○はいくつでも)

1. 木材の生産

2. きのご類や山菜などの林産物の生産

3. 水源としての雨水の貯留や水質浄化

4. 土砂崩れや洪水などの災害防止

5. 大気の浄化

6. 二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止

7. 森林浴やレクリエーションの場の提供

8. 野外教育の場の提供

9. 野生動物の生息の場

10. 薪や木材チップなどバイオマス資源の生産

11. その他 (具体的に)

12. 特にない

問 5 あなたは、地域の森林を健全に維持するためには、行政や森林所有者だけでなく市民も参加して守り育てていくことが必要だと思いますか。(○は1つ)

1. 必要と思う

2. 必要と思わない

3. その他 (具体的に)

問 6-1 あなたはこれまでに、森林づくり活動に参加されたことがありますか。

「参加したことがある」場合は、下の【共通項目】から参加した内容に該当する番号すべてに○をつけてください。

1. 参加したことがある⇒ 内容 { 1 2 3 4 5 (具体的に) }

2. 参加したことがない

↑ こちらの番号に○をつけてください

問 6-2 また、今後、機会があれば、森林づくり活動に参加したいですか。

「参加したい」場合は、下の【共通項目】から参加したい内容に該当する番号すべてに○をつけてください。

1. 参加したい⇒ 内容 { 1 2 3 4 5 (具体的に) }

2. 参加したくない

↑ こちらの番号に○をつけてください

【共通項目】

1. 植林や下草刈りなど、継続的な森林ボランティア活動

2. 森林づくりに関する体験学習会やイベント

3. 『緑の募金』や森林保全を目的とした基金などへの協力

4. 市や森林組合などへのアイデアや意見の提供

5. その他 → 選択された場合は、具体的に記入してください

問 7 雨水の貯留や土砂崩れなどの災害の防止、二酸化炭素の吸収など、私たちの生活に欠かせない重要な機能を持つ森林を健全に維持していくために必要な費用について、市民のみならずあなたも一定額を負担していただくとしたら、あなたは1年間にいくらくらい負担してもよいと思いますか。(○は1つ)

◎ 1人当たり1年間に負担する額として考えてください

1. 100 円未満

2. 100 円以上 500 円未満

3. 500 円以上 1,000 円未満

4. 1,000 円以上 2,000 円未満

5. 2,000 円以上

6. その他 (具体的に)

問 8 あなたは、地域の森林を健全に維持していくためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 径が大きく、品質の良い木材を産出する森林づくりを行う

2. 林業経営の継続が困難なスギ・ヒノキ林を、広葉樹林に転換する

3. 林業技術研修の開催など、森林・林業を支える担い手の育成・確保を図る

4. 公共施設などでの地元材の活用や、木材搬出用の作業路開設への支援などにより地元材の流通拡大を図る

5. 間伐材や木くずなどを建設資材やエネルギー源として有効活用する

6. 市民へのPR活動の実施や森林ボランティア活動への支援を行う

7. 木工品や木を活かしたデザインなど地元材を活用した商品の生産・販売を促進する

8. その他 (具体的に)

※間伐材：木の生長のため、混みあった森林の木々を間引く際に伐採された木材

Ⅱ. 人権問題についておたずねします

●人権問題全般について

問 9 次の人権課題について、あなたが関心のあるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 女性	2. 子ども
3. 高齢者	4. 障がい者
5. 同和問題	6. 外国人
7. HIV*感染者等	8. ハンセン病患者・回復者等
9. 犯罪被害者等	10. インターネットによる人権侵害
11. アイスの人々	12. 刑を終えて出所した人
13. 北朝鮮当局によって拉致された被害者等	14. ホームレス
15. 性的マイノリティー	16. ヘイトスピーチ*
17. その他 (具体的に)	
18. 特になし	

※HIV：ヒト免疫不全ウイルス。エイズ（後天性免疫不全症候群）の原因となるウイルス
※ハンセン病：「らい菌」によって引き起こされる感染症。現在は後遺症を残さず治る病気
※性的マイノリティー：性的少数者。同性愛や両性愛など性的指向において少数派である人々や性別に違和感を覚える人々、性同一性障がいなどの人々
※ヘイトスピーチ：特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動

問10 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。
次にあげる1～12のすべてについてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらか 思う といえ ば	どちら かわか ない	そう 思わ ない	わ か ら な い
1. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	1	2	3	4	5
2. 差別は世の中に必要なこともある	1	2	3	4	5
3. あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5
4. 差別は法律で禁止する必要がある	1	2	3	4	5
5. 差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5
6. 差別される人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5
7. 差別だという訴えを、いちいち取り上げていたらきりがない	1	2	3	4	5
8. 差別される人の言葉をきちんと聞く必要がある	1	2	3	4	5
9. 差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い	1	2	3	4	5
10. 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5
11. 差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5
12. どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5

●人権問題についての学習経験について

問11 あなたは、学校、職場及び地域で、人権問題についての学習を経験したことがありますか。(○はいくつでも)

1. 小学校で受けた	2. 中学校で受けた
3. 高校で受けた	4. 大学で受けた
5. 市民対象の講座などで受けた	6. 職場の研修で受けた
7. PTAや民間団体が主催する研修で受けた	
8. その他 (具体的に)	
9. はっきりと覚えていない	
10. 受けたことはない	

問12 問11で「1～8」のいずれかに回答された方にお聞きします。その中で、あなたの人権意識を高めるうえで特に役に立った(いちばん印象に残っている)ものはどれですか。
(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 小学校で受けたもの | 2. 中学校で受けたもの |
| 3. 高校で受けたもの | 4. 大学で受けたもの |
| 5. 市民対象の講座などで受けたもの | 6. 職場の研修で受けたもの |
| 7. PTAや民間団体が主催する研修で受けたもの | 8. その他 (具体的に) |
| 9. 役に立った(印象に残った)と思うものはない | |

問13 これまでにあなたが、学校、職場及び地域で、経験したことのある人権問題についての学習は、どのような分野についてのものですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 女性・男女共同参画 | 2. 子ども |
| 3. 高齢者 | 4. 障がい者 |
| 5. 同和問題 | 6. 外国人 |
| 7. HIV感染者・ハンセン病回復者 | 8. 性的マイノリティ |
| 9. インターネットによる人権侵害 | 10. その他 (具体的に) |
| 11. はっきりと覚えていない | 12. 受けたことはない |

●人権問題についてのお考え

問14 結婚相手を考える際に、気になること(なったこと)はどんなことですか。あなたご自身の結婚の場合と、お子さんの結婚の場合とに分け、気になる項目を選んでください。お子さんがいらっしゃる方も、いると想定してお答えください。(○はいくつでも)

あなたご自身の結婚の場合	あなたのお子さんの結婚の場合
1. 人柄、性格	1. 人柄、性格
2. 容姿	2. 容姿
3. 趣味や価値観	3. 趣味や価値観
4. 仕事に対する相手の理解と協力	4. 仕事に対する相手の理解と協力
5. 家事や育児の能力や姿勢	5. 家事や育児の能力や姿勢
6. 経済力	6. 経済力
7. 学歴	7. 学歴
8. 職業	8. 職業
9. 家柄	9. 家柄
10. 離婚歴	10. 離婚歴
11. 国籍・民族	11. 国籍・民族
12. 相手やその家族に障がい者がいるかどうか	12. 相手やその家族に障がい者がいるかどうか
13. 相手やその家族の宗教	13. 相手やその家族の宗教
14. ひとり親または親がいない家庭かどうか	14. ひとり親または親がいない家庭かどうか
15. 同和地区出身者かどうか	15. 同和地区出身者かどうか
16. その他 (具体的に)	16. その他 (具体的に)
17. 特に気になる (気になった) ことはない	17. 特に気になる (気になった) ことはない

問15 あなたは、家を購入したり、マンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けることがあると思いますか。すべての場合についてお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	避けると思う	避けるかと思えば	避けないかと思えば	全く気にしない
1. 同和地区の地域内である	1	2	3	4
2. 小学校区が同和地区と同じ区域になる	1	2	3	4
3. 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	1	2	3	4
4. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる	1	2	3	4
5. 近くに障がい者の施設や作業所または病院がある	1	2	3	4
6. 近くに高齢者の施設がある	1	2	3	4

問16 問15のような場合に、住宅の購入や入居を避ける人がいるのはなぜだと思いますか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから |
| 2. 生活環境や文化の違い、言葉の問題などでトラブルが多いと思うから |
| 3. 治安の問題などで不安があると思うから |
| 4. 学力の問題などで、子どもの教育上、問題があると思うから |
| 5. 自分もその地域の住人と同じだと思われると嫌だから |
| 6. その他 (具体的に) |
| 7. 特に理由はないが、なんとなく |

●さまざまな人権問題について

問17 あなたは、女性に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 男女の固定的な役割分担意識「家事は女性」等) に基づく差別的取扱いを受けること |
| 2. 職場において差別待遇(女性が管理職になりにくい等)を受けること |
| 3. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ) |
| 4. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力) |
| 5. 痴漢やストーカーなどの性的暴力 |
| 6. 売春・買春 |
| 7. 女性に「令夫人」「婦人」「未亡人」「家内」という言葉を用いること |
| 8. その他 (具体的に) |
| 9. 特にない |
| 10. わからない |

問18 あなたは、子どもに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. いじめを受けること
2. 体罰を受けること
3. 虐待(身体的・心理的・性的・経済的虐待または子育ての放棄等)を受けること
4. いじめ、体罰や虐待を見て見ぬふりをすること
5. 学校や就職先の選択等の子ども意見について、大人がその意見を無視すること
6. 児童買春・児童ポルノ等の対象となること
7. 携帯電話・スマートフォン・SNS等での仲間はずれや無視があったり、犯罪に巻き込まれたりすること
8. その他(具体的に)
9. 特にない
10. わからない

※SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とする、コミュニティ型のサービス

問19 あなたは、高齢者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 働く能力を発揮する機会が少ないこと
2. 差別的な言動をされること
3. 悪徳商法の被害が多いこと
4. アパート等への入居を拒否されること
5. 家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待を受けること
6. 病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待を受けること
7. 邪魔者扱いされ、つまはじきにされること
8. 意見や行動が尊重されないこと
9. 経済的に自立が困難なこと
10. その他(具体的に)
11. 特にない
12. わからない

問20 あなたは、障がい者に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. 悪徳商法の被害が多いこと
6. アパート等への入居を拒否されること
7. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
8. スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
9. じろじろ見られたり、避けられたりすること
10. その他(具体的に)
11. 特にない
12. わからない

問21 あなたは、日本に居住している外国人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 差別的な言動をされること
5. アパート等への入居を拒否されること
6. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
7. 風習や習慣等の違いが受け入れられないこと
8. じろじろ見られたり、避けられたりすること
9. その他(具体的に)
10. 特にない
11. わからない

問22 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 他人を誹謗中傷する情報が掲載されること
2. 他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること
3. 出会い系サイト等犯罪を誘発する場となっていること
4. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載されること
5. ネットボルノが存在していること
6. プライバシーに関する情報が掲載されること
7. その他 (具体的に)
8. 特にない
9. わからない

問23 あなたは、エイズ患者・HIV感染者やその家族、ハンセン病患者・回復者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 結婚問題で周囲の反対を受けること
3. 就職・職場で不利な扱いを受けること
4. 治療や入院を断られること
5. 無断でエイズ検査等をされること
6. ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと
7. 差別的な言動をされること
8. アパート等への入居を拒否されること
9. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
10. じろじろ見られたり、避けられたりすること
11. その他 (具体的に)
12. 特にない
13. わからない

問24 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 犯罪行為によって精神的なショックを受けること
2. 犯罪行為によって経済的負担を受けること
3. 事件のことに関して、周囲にうわさ話をされること
4. 警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと
5. 捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること
6. 刑事手続に必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
7. 報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること
8. その他 (具体的に)
9. 特にない
10. わからない

問25 あなたは、性的マイノリティに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 差別的な言動をされること
4. アパート等への入居を拒否されること
5. 宿泊施設、店舗等への入店や施設利用を拒否されること
6. じろじろ見られたり、避けられたりすること
7. その他 (具体的に)
8. 特にない
9. わからない

●同和問題について

問26 あなたが日本の社会において、同和問題や部落問題などと呼ばれている差別の問題があることをはじめて知ったのは、どういうことがきっかけですか。(○は1つ)

1. 父母や家族から聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 学校の友達から聞いた
4. 学校の授業で教わった
5. 職場の人から聞いた
6. 講演会、研修会などで聞いた
7. 府や市町村の広報誌などで読んだ
8. テレビ、映画、新聞、雑誌、書籍などで知った
9. インターネットのサイトなどで知った
10. 近くに同和地区があった
11. 自分の身近で同和問題に関する差別があった
12. その他 (具体的に)
13. なんとなく知っている
14. 同和問題については、知らない

問27 学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区の人に対する差別的な発言をしたとき、あなたはどのような態度をとりますか。(○は1つ)

1. 差別的な発言があったことを指摘して、差別について話し合う(と思う)

2. 表立って指摘はしないが、差別はいけないことを何とか伝えようとする(と思う)

3. 表向き話を合わせて相づちを打ったり、自分も差別的な言葉を口にしたりしてしまう(と思う)

4. ほかの話題に転換するよう努力する(と思う)

5. 何もせずに黙っている(と思う)

6. その他(具体的に)

7. わからない

●人権侵害について

問28 もし、あなたや家族の方が人権侵害を受けたら、どのように対応しますか。あてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 我慢する

2. 相手に抗議する

3. 身近な人(家族や友人、教師など)に相談する

4. 人権問題に詳しい人に相談する

5. 弁護士に相談する

6. 市民団体に相談する

7. 法務局や人権擁護委員に相談する

8. 市役所に相談する

9. 警察に相談する

10. 何もしないでそのままにする

11. その他(具体的に)

問29 河内長野市の人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望がありましたら、下の空欄に自由にお書きください。

Ⅲ. 市政全般に関連した内容についておうかがいします

問30 あなたは、現在の河内長野市の生活環境等についてどの程度満足されていますか。またどの程度重要だと思われるか。次の項目についてあなたのお考えに最も近い番号に○をつけてください。(○は①②それぞれ1つ)

	①現在の満足度					②今後の重要度						
	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	非常に不満	わからない	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	わからない		
安全・安心	1. 防災	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	2. 消防・救急	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	3. 防犯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	4. 交通安全	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	5. 消費者行政	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
福祉・健康	6. 地域の支え合い	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	7. 高齢者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	8. 障がい者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	9. 社会保障制度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	10. 健康づくりを進める環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
子育て・教育・生涯学習	11. 児童に対する福祉	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	12. 子育てのしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	13. 小中学校の教育環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	14. 青少年の健全な育成	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	15. 各種講座や施設など生涯学習の環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
人権	16. 文化芸術活動などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	17. 歴史文化遺産の保存・活用	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	18. スポーツ施設や活動など	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	19. 人権の尊重と平和意識の高揚	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	20. 男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
環境	21. 国際交流や多文化共生社会の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	22. 自然環境への配慮	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	24. 騒音・悪臭などの少なさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5

※社会保障制度：国民健康保険や国民年金などの社会保険、生活保護制度等の公的扶助など、国民の生存権を確保することを目的とする制度のこと
※多文化共生社会：国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築き、地域社会の構成員として共に生きていくことができる社会のこと

	①現在の満足度				②今後の重要度			
	非常に満足	やや満足	普通	やや不満	非常に不満	わからない	非常に重要	やや重要
26. 市街地の整備	1	2	3	4	5	6	1	2
27. 住環境	1	2	3	4	5	6	1	2
28. 公園や緑地などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2
29. 道路や橋などの交通網	1	2	3	4	5	6	1	2
30. バスなどの公共交通サービス	1	2	3	4	5	6	1	2
31. 上下水道	1	2	3	4	5	6	1	2
32. 商業地などの賑わい	1	2	3	4	5	6	1	2
33. 農林業の振興	1	2	3	4	5	6	1	2
34. 観光事業	1	2	3	4	5	6	1	2
35. 身近な場での働きやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2
36. 市民同士の連携や市民と行政の協働	1	2	3	4	5	6	1	2
37. 行政改革への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2
38. 適正で透明性の高い財政運営	1	2	3	4	5	6	1	2
39. 市全体として	1	2	3	4	5	6	1	2

※協働：市民・行政・事業者などが、お互いの立場を理解し、尊重し合いながら、対等な関係で、共通の目的を持って、まちづくりを進めること

問31 あなたはこの1年で、地域のまちづくり活動*にどの程度参加されましたか。（○は1つ）

1. 週に2～3回以上
3. 月に1回程度
5. 年に1回程度
2. 週に1回程度
4. 年に数回程度
6. ほとんどない

※地域のまちづくり活動：自治会・町内会、PTA、教育、青少年、環境、美化、福祉など、有償・無償を問わず、幅広く社会貢献活動のことをさしています

問32 あなたは、次の項目について、どのように感じていますか。各項目についてあなたの
お考えに近い番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

	感非 じ常 るに	感や じや る	普 通	感あ じま じな い	感ほ じと なん いど	わ か ら な い
1. 地域のまちづくり活動が充実していると 感じている	1	2	3	4	5	6
2. 河内長野市に住み続けたいと感じている	1	2	3	4	5	6
3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている	1	2	3	4	5	6

IV. あなたご自身についておうかがいします

問33 あなたの性別についてお答えください。

1. 男性
2. 女性

問34 あなたの年齢についてお答えください。（○は1つ）

1. 20～24歳
4. 35～39歳
7. 50～54歳
10. 65～69歳
13. 80～84歳
2. 25～29歳
5. 40～44歳
8. 55～59歳
11. 70～74歳
14. 85歳以上
3. 30～34歳
6. 45～49歳
9. 60～64歳
12. 75～79歳

問35 あなたの家族構成についてお答えください。（○は1つ）

1. 単身（ひとり暮らし）
3. 親子2世代世帯
5. その他（詳細に）
2. 夫婦のみ世帯
4. 親子孫3世代世帯

問36 あなたは、現在、結婚されていますか。（○は1つ）

1. はい（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻関係にある場合も含む）
2. いいえ

問37 あなたのご職業についてお答えください。（○は1つ）

1. 勤め人（常勤）
3. 商工・サービス業などの自営業・自由業
5. 家事専従
7. その他（詳細に）
8. 無職
2. 勤め人（非常勤・パートタイム・アルバイトなど）
4. 農林漁業
6. 学生

問38 あなたが河内長野市にお住まいになって通算で何年になりますか。（○は1つ）

1. 5年未満
3. 10～20年未満
5. 30～50年未満
2. 5～10年未満
4. 20～30年未満
6. 50年以上

問39 現在地にお住まいになられる前は、どちらにお住まいでしたか。（○は1つ）

1．生まれてからずっと現在地に住んでいる

2．現在地以外の河内長野市

3．河内長野市以外の南河内地域（富田林市・大阪狭山市・羽曳野市・藤井寺市・松原市・河南町・太子町・千早赤阪村）

4．堺市

5．大阪市

6．その他の大阪府（具体的に）

7．大阪府以外の都道府県または海外（具体的に都道府県名、国名）

問40 住んでおられる地区は、次のどれに該当しますか。記入例を参考に地区名を1つ選び、右側の囲み内のあてはまる町名に○をつけてください。

〔記入例〕

地区名	町名
⑨ 千代田地区	市町、木戸町、木戸東町、木戸1～3丁目、汐の宮町、千代田南町、向野町

地区名	町名
1 天野地区	天野町、下里町、緑ヶ丘北・中・南町
2 天見地区	天見、岩瀬、清水、流谷
3 小山田地区	小山田町、荘園町、千代田台町
4 加賀田地区	大矢船北・中・南・西町、加賀田、唐久谷、南ヶ丘
5 石仏地区	石仏、北・南青葉台
6 川上地区	石見川、太井、神ガ丘、河合寺、清見台1～5丁目、小深、寺元、鳩原、大師町、日東町
7 楠地区	あかしあ台1・2丁目、北・南貴望ヶ丘、桐ヶ丘、楠町東・西、自由ヶ丘、松ヶ丘東・中・西町、木戸西町1～3丁目
8 高向地区	旭ヶ丘、滝畑、高向、日野
9 千代田地区	市町、木戸町、木戸東町、木戸1～3丁目、汐の宮町、千代田南町、向野町
10 長野地区	上原町、上原西町、菊水町、寿町、栄町、昭栄町、末広町、長野町、錦町、西代町、西之山町、野作町、原町、原町1～6丁目、古野町、本多町、本町
11 南花台地区	南花台1～8丁目
12 美加の台地区	美加の台1～7丁目
13 三日市地区	上田町、小塩町、中・西・東片添町、喜多町、楠ヶ丘、三日市町

◆お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。◆

平成 27 年度
第 42 回 河内長野市民意識調査
＜森林^{もり}づくり＞と＜人権＞について

発行 河内長野市
発行年月日 平成 28 年（2016 年）1 月